

留学生交流支援制度／海外留学支援制度
評価・分析（フォローアップ）調査報告書

独立行政法人 日本学生支援機構
海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）評価分析委員会

平成 27 年 6 月 29 日

目 次

1. はじめに	1
2. 「留学生交流支援制度／海外留学支援制度の評価・分析（フォローアップ）」の概要について	3
(1) 評価・分析（フォローアップ）調査実施に至る経緯	
ア. 留学生交流支援制度への行政事業レビュー	
イ. 海外留学支援制度（平成 26 年度以降）の概要	
(2) 評価・分析（フォローアップ）調査の実施方針・計画	
(3) 実施体制（評価分析委員会・同ワーキンググループ）	
3. 短期派遣・ショートビジットに関する調査（平成 25 年度）	9
(1) 調査計画	
(2) 書面審査・支援対象大学等への訪問調査	
ア. 書面調査	
イ. 訪問調査	
(3) 平成 23・24 年度支援対象大学等・学生への追加アンケート	
ア. 実施方法	
イ. 集計・分析結果、ウェブマガジン『留学交流』への論考掲載	
(4) 事例報告会の開催	
4. 短期受入れに関する調査（平成 26 年度）	39
(1) 調査計画	
(2) 支援対象大学等への訪問調査	
(3) 平成 25 年度支援対象大学等・学生への追加アンケート	
ア. 実施方法	
イ. 集計・分析結果、ウェブマガジン『留学交流』への論考掲載	
5. 海外留学支援制度への提言	72
6. おわりに	78

付録

1 海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）評価分析委員会委員・評価分析委員会ワーキンググループ構成員名簿	付録 1
2 海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）評価分析委員会・評価分析委員会ワーキンググループ会合開催記録	付録 2
3 留学生交流支援制度（短期派遣）事例報告会実施概要報告	付録 3
4 追加アンケート関連資料	

4-1	平成 25 年度実施（平成 23・24 年度短期派遣・ショートビジット） 学生用アンケート用紙	付録 4-1
4-2	同 学生用アンケート集計結果（グラフ）	付録 4-2
4-3	同 学生用アンケート分析関連資料	付録 4-3
4-4	平成 26 年度実施（平成 25 年度短期受入れ）学生用アンケート用紙	付録 4-4
4-5	同 学生用アンケート集計結果（グラフ）	付録 4-5
4-6	同 学生用アンケート分析関連資料	付録 4-6

1. はじめに

独立行政法人日本学生支援機構（略称 JASSO。以下「機構」という。）では、文部科学省が所管し、機構が実施する留学のための給付型奨学金制度「海外留学支援制度（前「留学生交流支援制度」）」の制度内容について、2年間にわたり評価・分析を行った。

海外留学支援制度は、わが国の大学等が諸外国の高等教育機関等との学生交流に関する協定等に基づき、短期間、わが国の大学等に学生を受入れ、または諸外国に派遣される学生に対して、留学に係る費用の一部を奨学金として支援することにより、学生交流の充実を図り、グローバル人材を育成するとともに、わが国の高等教育機関の国際化・国際競争力強化に資することを目的としている。

本制度の起源は昭和 47 年度に開始した 3 カ月以上 1 年以内の派遣交換留学生への奨学金である「学生国際交流制度」に求めることができる。平成 6 年度以降「短期交換留学生受入れ支援制度」および「短期留学推進制度」を経て、平成 21 年度から平成 25 年度までは「留学生交流支援制度」を実施した。そして、平成 23 年度には、「グローバル人材育成推進会議中間まとめ」および「日本再生の基本戦略」により、戦略的な留学生交流の促進、グローバル人材の育成、若者の留学推進等の方針が示された。¹このような流れを受けて、機構では、平成 23 年度より 3 カ月未満の学生受入れまたは派遣プログラムに対する支援として、「留学生交流支援制度」に「ショートステイ・ショートビジット」を加えて実施した。

本制度は、文部科学省の補助事業として実施しているものであるため、平成 24 年 6 月 20 日に実施された同省の行政事業レビュー「公開プロセス」の対象となったが、その評価結果において、「抜本的改善」という結論となった。

このため平成 25 年度の実施より、「ショートステイ・ショートビジット」を廃止する一方、「短期派遣・短期受入れ」については、学生の質をより担保する観点から、選考基準の厳格化や家計基準の導入など制度の改善を図った。また「日本再興戦略」（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）実現のため、平成 26 年度から新たに「海外留学支援制度」において実施することになった。

なお、評価結果のうちのひとつに挙げられた「教育の質を向上させるために、より効果的な事業の在り方を検討すべき」の効果的な実践を目的として、平成 25 年度から機構に「評価分析委員会」および同ワーキンググループを設置して、大学等や支援学生を対象に追加アンケートや訪問調査を行い、制度の成果について検証した。

本委員会における検証結果を踏まえて、ここに委員会として事業の今後の方向性について報告書を示すものであるが、更なる大学等の高等教育機関や学生のグローバル化に資するた

¹ 日本学生支援機構 10 年史 P406, 408

めにより効果的な運用が実行されることを期待したい。

(注) 本制度の名称は行政事業レビュー実施時(平成 24 年度)および評価・分析初年度(平成 25 年度)においては「留学生交流支援制度」であったが、平成 26 年度より制度名称が「海外留学支援制度」と変更となった。このため本報告書においても、平成 25 年度以前に実施した、もしくは平成 25 年度以前を対象とした制度、調査や評価・分析については「留学生交流支援制度」、平成 26 年度以降に関しては「海外留学支援制度」の名称をそれぞれ使用している。同様に「短期派遣」「短期受入れ」という名称も平成 27 年度からそれぞれ「協定派遣」「協定受入」に変更となったため、平成 26 年度までの制度等に関する箇所には「短期派遣」「短期受入れ」の名称を使用している。

2. 「留学生交流支援制度／海外留学支援制度の評価・分析（フォローアップ）」の概要について

（1）評価・分析（フォローアップ）調査実施に至る経緯

ア. 留学生交流支援制度への行政事業レビュー

【行政事業レビューの概要】

行政事業レビューは、政府府省が自ら国の事業について前年度の執行状況等の事後点検を行い、事業内容や目的、成果、資金の流れ、点検結果などを書いた各府省共通のレビューシートを作成、公表する制度で、平成 23 年度から実施されている。²

平成 24 年度には、文部科学省が「留学生交流支援制度」を行政事業レビューの対象としたため、同年 6 月 20 日に実施された行政事業レビュー「公開プロセス」において、「留学生短期受入れと日本人学生の海外派遣を一体とした交流事業」（以下、留学生交流支援制度という。）は、次の評価を受けた。³

【行政事業レビューの結果】

○ 評価結果

抜本的改善（廃止 3、一部改善 3）

○ とりまとめコメント

本事業については、「廃止」3名、「一部改善」3名との結果を踏まえ、「抜本的改善」という結論とし、以下の2点のコメントを付すこととする。

- ① 高等教育改革全体の方向を踏まえて、それぞれの事業の目的を明確にしながら対象者の選考方法や単位取得などのプログラム内容等、教育の質を向上させるために、より効果的な事業の在り方を検討すべき。
- ② 特に、3ヶ月未満の短期受入・派遣事業については、各大学等がこれまで自主的に実施してきた学生交流事業との関係について整理するとともに経済的理由で参加が困難である学生等に支援対象を重点化するなどしっかりと見直しをすべき。

この結果を受け、文部科学省ではショートステイ・ショートビジットプログラムを廃止とし、短期受入れ・短期派遣については各種の制度改善を行うこととした。

行政事業レビューを踏まえ計画された主な改善案は以下のとおりである。

² 内閣官房ホームページ「行政事業レビュー」<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gyoukaku/review.html>

³ 文部科学省ホームページ「行政事業レビュー『コメントシート』」

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afiedfile/2012/06/20/1322354_1.pdf

上記コメントシートを含む評価結果は文部科学省ホームページ内「平成 24 年度行政事業レビュー公開プロセス評価結果・配付資料・議事録」ページに掲載されている。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kouritsu/detail/1322356.htm

○制度面の改善

- ① 短期派遣・受入れ（3 カ月以上 1 年未満）と短期派遣・受入れ（3 カ月未満）の事業区分廃止
- ② 短期派遣・受入れ（3 カ月以上 1 年未満）の大学推薦枠の廃止
- ③ 奨学金額の地域差導入（短期派遣）
- ④ 継続的な改善体制の構築
- ⑤ 大学等のグローバル化のための体制整備事業との連携強化

○運用面の改善

- ① 採用時の申請条件、審査の厳格化
- ② 成績・収入要件の厳格化
- ③ フォローアップ（本制度による支援終了後の報告・追跡調査等）の厳格化、体制の強化

上記の改善案の多くは、平成 25 年度より募集要項に取り入れられた。

また、「運用面の改善③」に挙げられた「フォローアップの厳格化、体制の強化」の実施については、プログラム選考における「審査の観点」に盛り込むとともに、本制度による支援対象の大学等・学生が提出する報告書様式を改訂し、より詳しい留学状況を収集することとした。さらに、本制度の継続的な事業内容の改善に資するために、平成 25 年度より有識者による「評価分析委員会」および「評価分析委員会ワーキンググループ」を本制度実施委員会の下に設置し、自己評価・分析および必要な調査を実施することとした。

イ. 海外留学支援制度の沿革・概要

平成 26 年度までの本制度の沿革については、以下のとおりである。

【制度沿革】

- 昭和 47 年度 「学生国際交流制度」として協定等に基づく 3 カ月以上 1 年以内の派遣留学の支援を開始
- 平成 6 年度 「短期交換留学生受入れ支援制度」発足
- 平成 7 年度 「短期交換留学生受入れ支援制度」に代わり、「短期留学推進制度（受入れ・派遣）」開始。対象はアジア太平洋地域等
- 平成 8 年度 同制度にて全世界対象の支援を開始し、「学生国際交流制度」は発展的解消
- 平成 20 年度 「短期留学推進制度（受入れ）」に代わり文部科学省の補助金事業として「短期外国人留学生支援制度」開始
- 平成 21 年度 「短期外国人留学生支援制度」「短期留学推進制度（派遣）」に代わり「留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）」開始。同時に支援希望大学等に人数枠を割り当てる「大学推薦枠」に加え、留学プログラムを採択し当該プロ

グラムに支援人数を割り当てる「プログラム枠」の支援開始。「留学生交流支援制度（長期派遣）」開始

平成 23～24 年度 「短期受入れ」「短期派遣」に加え「ショートステイ・ショートビジット」プログラムを開始。3 カ月未満という特に短期間の留学プログラムの支援を実施

平成 24 年 6 月 20 日 行政事業レビュー実施

平成 25 年度 「ショートステイ・ショートビジット」プログラムを廃止し、短期受入れ・短期派遣については留学支援期間を 8 日以上 1 年以内とした。このとき大学推薦枠方式を廃止し、以後、プログラム枠による採択のみ実施

平成 26 年度 「海外留学支援制度」に名称変更

前項にて説明した行政事業レビューを受け、さらに制度変更を経た平成 26 年度時点の「海外留学支援制度（短期派遣・短期受入れ）」の概略について、以下に記載する。⁴

【趣旨】

- ・海外留学支援制度（短期派遣）は、わが国の大学、大学院、短期大学、高等専門学校又は専修学校（専門課程）（以下「高等教育機関」という。）が、諸外国の高等教育機関（大学、大学院、短期大学、高等専門学校又は専修学校（専門課程）に相当する諸外国の機関をいう。）等と学生交流等に関する協定等を締結し、それに基づき、わが国の高等教育機関に在籍したまま、諸外国の高等教育機関等へ短期間派遣される学生に対して、留学に係る費用の一部を奨学金として支援することにより、グローバル社会において活躍できる人材を育成するとともに、わが国の高等教育機関の国際化・国際競争力強化に資することを目的とする。
- ・海外留学支援制度（短期受入れ）は、わが国の大学、大学院、短期大学、高等専門学校又は専修学校（専門課程）（以下「高等教育機関」という。）が、諸外国の機関（大学、大学院、短期大学、高等専門学校又は専修学校（専門課程）に相当する諸外国の高等教育機関をいう。）と学生交流に関する協定等を締結し、それに基づき、諸外国の高等教育機関から短期間学生を受入れる場合に、当該学生に対して、留学に係る費用の一部を奨学金として支援することにより、わが国の高等教育機関の学生交流の充実を図るとともに、わが国の高等教育機関の国際化・国際競争力強化に資することを目的とする。

【申請および採否決定】

（短期派遣）本制度による派遣プログラムの実施を計画し、これに参加する学生に対する奨学金の支援を希望する日本の高等教育機関（以下「在籍大学等」という。）の長は、機構が指定する申請書類等を取りまとめた上、機構理事長宛に申請を行うものとする。

⁴ 平成 26 年度海外留学支援制度（短期派遣・短期受入れ）実施要項

機構は審査の上、支援する派遣プログラムおよび奨学金支給割当人数を決定し、在籍大学等の長へ通知する。

(短期受入れ) 本制度による受入れプログラムの実施を計画し、これに参加する学生に対する奨学金の支援を希望する日本の高等教育機関(以下「受入れ大学等」という。)の長は、機構が指定する申請書類等を取りまとめた上、機構理事長宛に申請を行うものとする。

機構は審査の上、支援する受入れプログラムおよび奨学金支給割当人数を決定し、受入れ大学等の長へ通知する。

【支援期間】

8日以上1年以内

【奨学金の支給】

(短期派遣) 留学先国・地域により、月額6万円・7万円・8万円・10万円の4種類

(短期受入れ) 月額8万円

※プログラム実施期間を31日毎に区切り、それぞれ1か月分の奨学金を支給する。ただし、1プログラムにつき12回を支給上限とする。

【奨学金支給対象者の主な要件】

- ・在籍大学等における学業成績が優秀で人物等に優れており、かつ、機構が定める方法で求められる、在籍大学等における選考時の前年度の成績評価係数が2.30以上であること。
- ・経済的理由により、自費のみでのプログラムへの参加が困難な者

【フォローアップ・成果検証に係る審査の主な観点】

- ・学生の派遣／受入前後の効果測定や意識の変化を適切に把握しているか。
- ・自己点検を実施し、プログラムの成果を測ることが具体的に計画されているか。
- ・実施報告会やシンポジウム等によりプログラム実施の成果を学内に波及させる取り組みを行っているか。
- ・ソーシャルネットワークサービス等を活用した学生同士(派遣／受入学生同士又は派遣／受入学生と派遣先／受入大学等の学生間)のコミュニティの形成が計画又は推進されているか。
- ・機構が実施する各種調査に協力できる体制であるか。

(2) 評価・分析(フォローアップ)調査の実施方針・計画

機構では、行政事業レビューでの結果を受け、留学生交流支援制度の評価・分析(フォローアップ)の実施方針および計画を以下のように策定した。

【実施方針】

留学生交流支援制度の事業としての成果、採択プログラムの成果、支援を受けた学生等の成果について評価・分析を行い、継続的な事業内容の改善に資する。また、採択プログラム等の評価・分析結果に基づき、短期留学プログラムのグッドプラクティス（優良実践事例）を選定し、シンポジウム等の開催を通じて広く共有する。

【実施する事項】

① 成果指標に関する検討および設定

- 「審査の観点」や、これまでの実施報告書等を分析し、成果・効果等について定量的・定性的に把握可能な項目を検討・設定
- 現在提出を義務付けているアンケートの項目を再検討するため、大学等と学生に対して「追加アンケート」の実施および分析を行う。
- 大学等の協力を得て訪問調査を実施し、支援を受けた／受けている学生からのヒアリング等を実施

② グッドプラクティスの選定

これまでに採択されたプログラムについて、上記成果指標に基づいて申請書・報告書の分析等を行い、高い成果・効果があがっていると評価できるプログラムをグッドプラクティスとして選定

③ シンポジウム等の開催

グッドプラクティスや、評価・分析を通して得られた知見（留学プログラムの計画にあたって留意すべき点等）を共有するため、シンポジウムを開催

【実施計画】

以上の調査等は、規模を鑑み、2 カ年計画（初年度は短期派遣、次年度は短期受入れを対象とする。）で各種調査を行い、最終的に評価分析結果を報告書にとりまとめ、公表する。

平成 25 年度

- ・留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）プログラム実施校への書面調査（プログラム申請書・実施報告書の分析）
- ・訪問調査の実施
- ・留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）支援対象校・学生に対する「追加アンケート」の実施
- ・学生向けアンケート結果の分析
- ・グッドプラクティスの選定および留学生交流支援制度（短期派遣）事例報告会の開催

平成 26 年度

- ・訪問調査の実施
- ・留学生交流支援制度（短期受入れ）支援対象校・学生に対する「追加アンケート」の実施

- ・ 学生向けアンケート結果の分析
- ・ 留学生交流支援制度／海外留学支援制度（短期派遣、短期受入れ）評価分析報告書の取りまとめ

（３）実施体制（評価分析委員会・同ワーキンググループ）

評価分析は、留学生交流支援制度実施委員会の下に「評価分析委員会」および「評価分析委員会ワーキンググループ」を新たに設置して実施した。

【評価分析委員会】

評価分析委員会は、本制度の評価分析の実施方針を定め、その実施に必要な内容・方法等を決定し、それに基づいて実施するとともに、評価分析結果をまとめ、最終的に実施委員会に報告した。

【評価分析委員会ワーキンググループ】

評価分析委員会ワーキンググループは、評価分析委員会が決定した実施方針に基づいて、大学等から提出されたプログラムの申請書・実施報告書に対する書面調査や支援した学生に対する追加アンケートの分析を行い、評価分析委員会に報告した。

3. 短期派遣・ショートビジットに関する調査（平成 25 年度）

（1）調査計画

平成 25 年度においては、次の 5 つについて実施した。

- ① 留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）プログラム実施校への書面調査（プログラム申請書・実施報告書の分析）

平成 23 年度または 24 年度に採択され、かつ採択段階において評価の高かった短期留学プログラムを対象とし、申請時に提出するプログラム申請書およびプログラム終了後に提出する実施報告書の内容を評価した。

- ② 訪問調査の実施

書面調査の結果、評価の高いプログラムについて、当該プログラム実施大学等への訪問調査を実施し、プログラム担当教員および派遣学生へのインタビューを行った。

- ③ 留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）支援対象校・学生に対する「追加アンケート」の実施

従来実施しているアンケート（留学状況調査）に加えて、本制度のより適切な効果測定を目的として、設問項目等の内容を精査するため、支援大学等・学生に対し、「追加アンケート」を実施した。

なお、実施に当たり、行政事業レビューを踏まえ廃止となったショートビジットプログラムの成果をも測るため、対象年度は同プログラムを実施した年度であり、調査時点において分析可能なもののうち直近の年度である平成 23 年度および 24 年度とした。

- ④ 学生向けアンケート結果の分析

追加アンケートのうち、派遣学生を対象としたアンケートの結果については、定量的な指標に関して全体的な傾向とともに、各項目について考察することで、本制度における留学効果の分析を行った。

- ⑤ グッドプラクティスの選定および事例報告会の開催

訪問調査の結果、他大学等の参考となるプログラムについて、グッドプラクティスに選定するとともに、情報の共有および短期留学プログラム全体の底上げを図るため、「事例報告会」の名称でシンポジウムを開催した。

（2）書面調査・支援対象大学等への訪問調査

短期派遣・ショートビジットプログラムのグッドプラクティス選定に当たっては、書面調査および支援対象大学等への訪問調査の 2 段階の調査を実施した。

ア. 書面調査

書面調査の実施方法は以下のとおりである。

調査対象 平成 23 年度、24 年度の採択段階において高評価であった採択プログラムのうち学校種別、地域性、分野、割当人数に対する実績を考慮して、60 プログラムを選定

調査期間 平成 25 年 9 月～10 月

調査内容 評価にあたっては、当該プログラム採択年度の審査要項を参考に、様々なプログラム形態に分かれていることを踏まえつつ、他大学の参考となる効果の優れたプログラム事例であることを考慮した。

イ. 訪問調査

訪問調査の実施方法は以下のとおりである。

調査対象 ワーキンググループによる書面調査により選定されたプログラムを実施する 18 大学等

調査期間 平成 25 年 11～12 月

調査内容 留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）評価分析委員および機構役職員が各大学等を訪問し、プログラム担当教員や参加学生に対するインタビューを実施した。なお、評価項目および着目点は以下のとおりである。

【評価項目および着目点】

① プログラムの目的・達成目標

プログラムの計画が目的に照らして、着実に実施されているか

② プログラムの内容

養成しようとする人材像の学習成果に適合したプログラム内容であるか

③ 実施体制

プログラムの実施体制が十分に整備されているか

④ フォローアップ・成果検証の実施

プログラムの実施により期待された成果は得られ、検証が実施されているか

⑤ プログラムの自立化・発展化・継続化

実施状況・成果を踏まえた今後の課題が把握され、プログラムの継続・発展のための方策が検討されているか

以上の評価項目および着目点により、グッドプラクティスを選定した。

なお、グッドプラクティスの選定にあたっては、参考事例であることを鑑み、様々な形態や内容を持つプログラムを選ぶことも考慮された。

【実施結果】

委員の報告をもとに、訪問調査対象プログラムの優れている点（他大学等への参考となり

うる取組み)を中心に、調査の観点ごとに抜粋し記載する。

観点①「プログラムの目的・達成目標」における優れた例(他大学等への参考となりうる取組み)

東京医科歯科大学:

基礎医学研究に通ずる問題意識・素養および国際的な視野をもった医学ドクターである「アカデミックドクター」養成を目的に、毎年4-5名を選抜して、医学科第4学年後期に設定されている「プロジェクトセメスター(自由選択学習期間)」期間に、英国のインペリアル・カレッジに派遣する。学生は5カ月間滞在し、基礎医学の研究室にて第一線の研究プロジェクトに関わり、指導教員の指示のもと英文の論文を仕上げる。英国トップレベル大学の研究環境で、基礎医学研究の現場、英語による研究発表、討論、論文作成の基礎を学ばせる点で、大学のみならずわが国の医学研究のためにも有意義で画期的な取り組みである。

広島大学:

新入生(全学部対象)で海外経験の少ない学生を教員が多様な国・地域の協定大学に引率し、現地言語習得だけでなく、異なる文化や環境を体験し、現地学生との交流を通じて異文化間コミュニケーションを体感する機会を提供する。平成22年度に開始後、派遣数は初年度の44名から平成25年度の144名に拡大している。応募者も入学者の約10~15%におよび、全学的に大きな波及効果を生んでおり、多様な地域へ多数の学生の派遣を実現している点も極めて有意義である。広島大学では、学部2年以降に、中・長期留学プログラム、ダブルディグリープログラム等が用意され、これら長期留学への動機付けにも貢献している。

長崎大学:

途上国におけるモデル的な健康改善対策あるいは関連研究プロジェクト地域(感染症、母子保健、地域保健医療システム強化など)の視察を通して、洞察を深め、国際保健の基礎知識の実践的重要性についての理解度と実践への意欲を高めることを目的としている。国際保健に特化した公衆衛生学修士を取得できる大学院の必修実習科目(1単位)として、1年次夏季休暇中に置かれており、地球規模での健康課題、特に開発途上国を中心とした保健医療問題の改善に貢献できる人材養成という研究科の目的に合致し、プログラム実施前・後の履修科目や、1年次前期の事前学習とも緊密に連携しながら実施されている。1学年定員の10名全員がバングラデシュにおける3週間のフィールド研修に参加するものであるが、各自が個々に行う2年次の8カ月に及ぶ長期インターンシップへの準備研修としても、重要な位置を占めている。

観点②「プログラムの内容」における優れた例(他大学等への参考となりうる取組み)

東京医科歯科大学:

派遣学生は、英国インペリアル・カレッジから提案された多様な分野における20近いプロジェクト研究から所属を選び、現地到着後からプロジェクトの研究室に所属して、プ

プロジェクト研究実習に取り組む。最初の1週間は、研究に必要な基本事項（実験計画の立案、統計処理、実験安全・倫理、データベース・文献検索、実験結果の発表と討論の仕方等）を学ぶ Induction week が用意されている。その後5カ月間に及ぶ研究実習を行い、最終週は指導教員の下で実習研究論文を仕上げる。この間、英国の病院見学も行われ、医療体制を学ぶ機会も与えられる。帰国後、東京医科歯科大学でポスター発表会による成果報告を行い、研究成果論文の報告書がインペリアル・カレッジと東京医科歯科大学の両方に提出され、評価が行われる。

名古屋大学：

タイおよびカンボジアに10日間滞在し、農学に関する研究の現状を学び、さらに現地学生とともに農村での観察や農業従事者へのアンケート調査などを行う。事前研修は計5コマ実施され、各自の調査結果を英語で発表することを通して、英語による発表や討論を行うためのスキルを身に付けさせる。実地研修においては、農業従事者へのインタビューや市場調査によって自らの眼で現状を把握する力と調査結果を英語で議論できる力を習得させている。

香川大学：

ショートビジットの前にショートステイ（受入れ）を設定しており、ショートステイ期間には派遣予定学生・受入れ学生が相互に食品の諸問題について発表会を行い、実習のほか、観光地案内やイベントなどの交流などで個人間のネットワーク作りをする。留学生には交流体験が得られ、日本人学生にとっては派遣留学の準備になり、ピアサポートの循環ができています。ショートステイとショートビジットとが連動するよう工夫されている。

桜美林大学：

事前研修として、出発までに1泊2日の合宿（5コマの授業）を含む合計17コマの授業を行っている。事前研修では主に（1）フィリピン事情（歴史や現代社会、思想等）の学習、（2）異文化理解力の向上、（3）発表能力の向上を目指して、ディスカッション形式の授業を行っている。授業では、様々なアクティビティを通して、学生がこれまで育んできた日本人としての価値観や既成概念、そして行動様式について、全くことなる視点から学生自信に見つめさせ、それらの価値観とは違う考え方があることに気付くよう努力している。

観点③「実施体制」における優れた例（他大学等への参考となりうる取り組み）

東北大学：

受入れも実施しているため、派遣学生と受入れ学生の連携が図られることにより、学生間の相互援助ネットワークが構築されている。例えば、事前研修の場に受入れ学生に参加してもらい派遣先の情報提供等を受けたりしている。したがって、派遣学生が現地でゼロから人間関係を作る必要もなく、スムーズに生活を送ることができる。

広島大学：

プログラムのPRは、大学説明会・オープンキャンパスの時から実施しており、入学後

も各部局で同プログラムを PR しているため、入学直後からの問い合わせも多く、プログラムの認知度は大変高い。また、プログラム参加学生の口コミ情報も新入生の応募の大きな動機となっている（新入生の 1 割前後が参加しているため、拡大効果は極めて大きい）。

香川大学：

交流協定校とのやり取りを各教員が分担して行い、先方の教員との信頼関係を醸成するよう努めている。

派遣プログラムには約 30 名の応募があり、2 度の面接でプログラム参加の動機や英語会話力を確認し、最終的に 16 名を選定している。人数は学習効果の質を担保するために、これ以上は増やせないとのことだった。

ショートステイでは、県内の冷凍食品会社で行う企業インターンシップにおいて企業からの説明を受ける際に香川大学の研究室にいる留学生が通訳で参加している。さらに、地元の三木町が受入れ学生のホームステイに毎年協力しているなど、体制が整備されている。

桜美林大学：

学生が低所得者層の居住区を訪問する手配は、協定大学が作る NGO やそのほかの現地 NGO が全て行っている。NGO の協力によって、通常の研修では訪問や交流が非常に難しい原地住民との交流を実現している。

観点④「フォローアップ・成果検証の実施」における優れた例（他大学等への参考となりうる取組み）

広島大学：

各プログラムの個々の参加学生に対し、渡航前・渡航中・渡航後のグローバル・コア・コンピテンシー（(1)コミュニケーション能力、(2)自己管理能力、(3)成果を出す能力、(4)連携とネットワーク、(5)個性と文化の尊重）評価を行い、個々の学生のグローバル・コア・コンピテンシー向上を評価し、そのフィードバックによってプログラムの評価を行っている。START プログラム参加学生の一部が、次年度の同じ派遣先の TA を務め、事前指導に貢献している。また、START プログラム参加者の追跡データも蓄積している。

長崎大学：

平成 20 年度から継続するプログラムであり、必修科目でもあることから、国際健康開発研究科のカリキュラムと密接に関わり合いながら改善されてきている。夏季休暇中に実施されるため、本プログラムの実施前に履修した方がよいと判断された科目を、後期から前期に移動するなどの改善が図られている。現地での英語による成果発表会だけでなく、帰国後には「バングラデシュ短期フィールド研修報告書」がまとめられ、将来本プログラムに参加を予定する学生や教職員にも有用な資料となっている。

プログラム参加者、つまり同研究科修了生のほぼ全員が国際援助団体、国際機関での仕事に就くか、博士課程へ進学するなどしている（2013 年版同研究科案内）。

熊本高等専門学校：

研修後に学生個人が英語力の向上についてどのように感じているか、テクニカル・ライティング、ポスター作成と発表、テクニカル・プレゼンテーションの項目に係るアンケート調査を実施しており、それに対する分析も行っている。また、引率教員が事前に提出された英文と研修後の英文を比較して、英語力の測定を行っている。

観点⑤「プログラムの自立化・発展化・継続化」における優れた例（他大学等への参考となりうる取組み）

東北大学：

プログラムの継続・発展のために、プログラムの途中に一度は担当教員が出向いて現場の状況を確認している。学生のヒアリングや先方の担当者との打合せにより、次年度以降の改善に繋げるよう努めている。

総長の強力なリーダーシップの下、グローバル人材育成の取り組みを進めていることから、プログラム費用は総長裁量経費や補助金で全額賄っており、学生は渡航費、滞在費のみの負担となっている。平成19年度から開始したプログラムであり、今回のグローバル人材育成推進事業（タイプA）採択につながる土台となったものである。

名古屋大学：

研修を重ねるごとに改善がなされていて、学生自身が積極的にプログラムの運営にも関わっており、学部生の時に参加した学生が院生になってからTAとして再度参加するような循環も生まれてきている。また、若手教員にも参加してもらうことでプログラムの継続性を維持している。プログラムの効果をあげるために教員とTAが協力して成果検証を行うようにしており、この体制により、プログラムの発展性は高いといえる。

広島大学：

渡航費を含めた参加費用を一人5万円（パスポート・保険等の経費を除く）に設定し、実際の費用の多くを大学の自己資金で補助しているため、学生にとって大変参加しやすいプログラムとなっている。もともと自立したプログラムであるが、留学生交流支援制度(SS・SV)のプログラム採択によって、さらに派遣先を増やすことができ、プログラムの継続発展がなされている。今後プログラムの魅力が高まり、さらに多数の応募者が期待できれば、5万円の設定を少し見直して、プログラムをさらに拡大する可能性も検討している。

以上のプログラムの概要は、事例報告会でのプログラム事例を掲載した以下のサイトから確認可能。

http://www.jasso.go.jp/scholarship/short_term_h_houkokukai.html

【グッドプラクティスの選定】

訪問調査の結果、10プログラムをグッドプラクティスとして選定した。なお、この事例を広く共有することを目的として、グッドプラクティス選定プログラムのうち、担当者による発表が可能な8プログラムについて、「留学生交流支援制度（短期派遣）事例報告会」にてプ

ログラム事例の発表を行っていただいた。

事例報告会については、(4)「事例報告会の開催」参照。

(3) H23・24年度支援対象大学等・学生への追加アンケート

ア. 実施方法

留学生交流支援制度（短期派遣、ショートビジット）追加アンケート調査の実施方法は以下のとおりである。

調査対象 平成23、24年度留学生交流支援制度（短期派遣、ショートビジット）採択大学等および支援学生

調査期間 平成25年8月～9月、11月～12月

調査内容 大学等および派遣学生を対象に追加アンケートを実施し、回答を集計した。

【追加アンケートの調査項目】

学生用追加アンケート（派遣）質問項目の概要は以下のとおりである。なお、アンケート本文は巻末に掲載した。

- ・ 基本情報
- ・ 過去の海外経験
- ・ 海外留学・研修の効果を感じた項目
- ・ 海外留学・研修後の語学力の変化
- ・ 海外留学・研修後の学業成績の変化
- ・ 自己能力評価（15項目）と海外留学・研修後の能力向上の有無
- ・ 本事業による留学・研修目的の達成度（満足度）
- ・ 筆記意見

イ. 集計結果、ウェブマガジン『留学交流』への論考掲載

【集計結果】

回答数・回答割合は以下のとおり。

学校種別	H23					
	ショートビジット			短期派遣		
国立大学	63校	1,112人	(37.1%)	50校	202人	(41.0%)
公立大学	11校	117人	(3.8%)	7校	11人	(2.2%)
私立大学	87校	1,801人	(58.0%)	68校	276人	(56.0%)
短期大学	1校	7人	(0.2%)	1校	2人	(0.4%)
高等専門学校	8校	69人	(2.2%)	2校	2人	(0.4%)
合計	170校	3,106人		128校	493人	
実績数	229校	14,248人			1,635人	
回答率		21.8%			30.2%	

学校種別	H24					
	ショートビジット			短期派遣		
国立大学	62校	1,611人	(44.0%)	53校	349人	(35.2%)
公立大学	8校	109人	(3.0%)	8校	26人	(2.6%)
私立大学	70校	1,829人	(49.9%)	72校	607人	(61.2%)
短期大学	2校	25人	(0.7%)	0校	0人	(0.0%)
高等専門学校	11校	89人	(2.4%)	4校	10人	(1.0%)
合計	153校	3,663人		137校	992人	
実績数	195校	12,891人		2,488人		
回答率	30.2%			39.9%		

学生用アンケート回答の集計結果（グラフ）および分析資料は巻末に掲載した。

【分析結果－『留学交流』論考】

追加アンケートの回答を集計した結果、大学等用アンケートは回答が一様に肯定的で、分析の必要性は高くないと判断されたため、学生用アンケート回答についてのみ、ワーキンググループにより調査結果の分析を行った。分析結果については、評価分析委員会野水委員およびワーキンググループ新田構成員が「【論考】海外留学することの意義－平成23・24年度留学生交流支援制度(短期派遣・ショートビジット)追加アンケート調査結果分析結果から－」として執筆し、『留学交流』平成26年7月号に掲載した。

平成25年度追加アンケートの分析結果として、以下に掲載原稿を転載する。

海外留学することの意義
—平成23・24年度留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）
追加アンケート調査分析結果から—

Benefits of Study Abroad Experience:

Results from Additional Survey and Analysis for Japanese Students Supported by the Student Exchange Support Program (Scholarships for Short-Term Visit Program/Short-Term Study Abroad Program) in 2011 and 2012

名古屋大学 国際教育交流センター 野水 勉

明治大学 政治経済学部 新田 功

NOMIZU Tsutomu (International Education & Exchange Center, Nagoya University)

NITTA Isao (School of Political Science and Economics, Meiji University)

キーワード：短期留学派遣、ショートビジット、海外留学

はじめに

文部科学省が所管し、日本学生支援機構(JASSO)が実施する『留学生交流支援制度』（平成26年度から『海外留学支援制度』として引き継がれている）は、平成7年度に文部省（当時）にて策定された『短期留学推進制度』を平成20年度に引き継ぎ、平成22年度までは、3カ月～1年間の「短期受入れ」および「短期派遣」、並びに学位取得を目的とした1年以上の「長期派遣」の3カテゴリーの留学受入れまたは海外派遣留学を支援する制度として推進されてきた。1990年代に米国の Junior Year Abroad や欧州の ERASMUS 計画等において、短期間の留学（交換留学）が推進されていたことを背景に、日本でも国費外国人留学生制度とは異なる新たな留学生受入れ支援策として『短期留学推進制度』が策定された経緯があったため、平成22年度までは、短期留学受入れの予算支援に重点が置かれていた（平成22年度文部科学省予算：「短期受入れ」1,800人、「短期派遣」760人、「長期派遣」90人）。

しかし、この10年間に日本人学生の海外留学数の減少傾向が明らかとなる中で、日本人学生のグローバル人材としての育成の重要性が各方面から指摘され、また国内外からサマープログラム等の3カ月未満の短期間の留学生受入れプログラム支援の要請も高まっていたため、文部科学省は平成23年度に3カ月の留学受入れと留学派遣の両方を推進するために、これまでの留学生交流支援制度に2つのカテゴリーを加えて、「留学生交流支援制度（ショートステイ）」、「留学生交流支援制度（ショートビジット）」を発足させ、それぞれ年間7,000人の支援を開始した。平成24年度は、2つのカテゴリーがそれぞれ6,300人にやや縮小された

ものの、3カ月～1年間の「留学生交流支援制度（短期派遣）」の方は、760人から2,280人の3倍の予算増となり、受入れと派遣が同規模となった。

ところが、平成24年6月に『留学生交流支援制度』が文部科学省行政事業レビューの対象となり、「短期受入れ」、「短期派遣」、「長期派遣」、「ショートステイ」、「ショートビジット」の5つのカテゴリー全部に対して、抜本的改善を求める評価結果となった¹。レビューの中ではプログラム要件や効果に対する厳しい意見が寄せられ、この結果を受けて文部科学省は、平成25年度から「ショートビジット」を「短期派遣」に、そして「ショートステイ」を「短期受入れ」に統合し、語学力、学業成績、家計基準等の条件を付与または強化することとなった（平成25年度支援人数は、「短期受入れ」5,000人、「短期派遣」10,000人、「長期派遣」200人と、受入れと派遣の人数が逆転した）。また、『留学生交流支援制度』による留学支援の効果を丁寧に調査する必要性が確認され、平成25年度から日本学生支援機構の中に「留学生交流支援制度・評価分析委員会」が設置されることとなった。

平成25年度の「留学生交流支援制度・評価分析委員会」は、まず派遣関係のカテゴリーである平成23・24年度「短期派遣」および「ショートビジット」の奨学金受給者を対象に、留学の効果を調査するための追加アンケート調査（平成25年8～9月に実施）を実施し、さらに特に優れたプログラム事例を調査し、選ばれた代表事例10件の事例報告会を平成26年3月に東京・大阪の2会場に分けて実施した。平成25年度の評価分析は派遣関係に絞り、受入れ関係は平成26年度に実施することを予定した。

本稿は、追加アンケート調査（平成25年8～9月に実施）の結果を集計し、分析した結果に基づき、それぞれの制度における留学の効果を報告する。著者は、評価分析委員会並びに同委員会の下で編成されたワーキンググループ（以下WGと略す）²に参画し、WGを代表して本稿を執筆した。クロス分析は、統計ソフトIBM SPSSを用いて主に行った。

追加アンケートの目的と調査項目の設定

前述の通り、『留学生交流支援制度』には、「短期受入れ」、「短期派遣」、「長期派遣」、「ショートステイ」、「ショートビジット」の5つのカテゴリーがあるが、「長期派遣」は、以前より別に委員会が組織されていたため、評価分析委員会に残る4カテゴリーの評価分析が委ねられた。しかし、平成25年度内に4つのカテゴリーすべての調査分析を終えることは困難と判断し、海外派遣関係の2つのカテゴリー「短期派遣」「ショートビジット（以下SVと略す）」の調査分析を先行させた。

残念ながら、前身の制度である『短期留学推進制度』（平成7年度発足）を含めて、支援された学生を対象とする全国的な調査はこれまで行われておらず、アンケート調査の雛型となる事例は限られていたため、WG委員がこれまで行ってきた先行事例³や日本人学生の国際志向性の調査事例⁴⁻⁶を参考に、WGで独自に組み上げた。できるだけ詳細な調査が望ましいところではあるが、平成23・24年度に支援を受けた学生を対象とした追加アンケートであり、

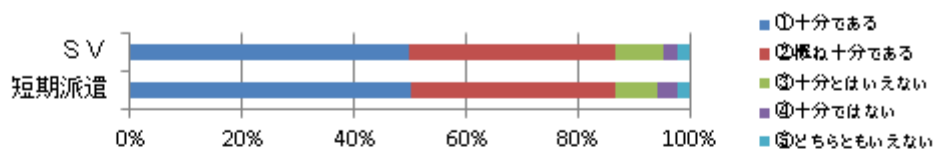
十分な回答率を確保する必要もあったため、回答しやすい質問項目に厳選する必要があった。

追加アンケートの説明の前に、日本学生支援機構が「留学生交流支援制度」の支援対象者に対して、留学修了時に行っていたアンケート項目と結果の概要（平成23年度）を図1に示す（回答率：（短期派遣）62.7%、（ショートビジット）41.3%）。これを踏まえ、追加アンケートの質問項目を最終的に表1の構成とした。

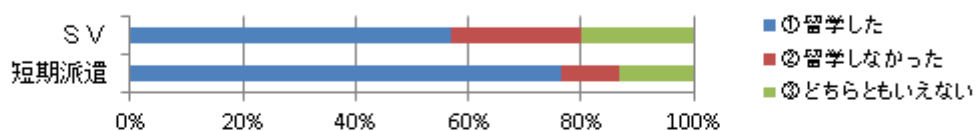
1-1. 留学目的（語学力の上達、学位取得等自由記述）（結果省略）

1-2. 留学目的の達成度（満足度）とその理由（結果省略）

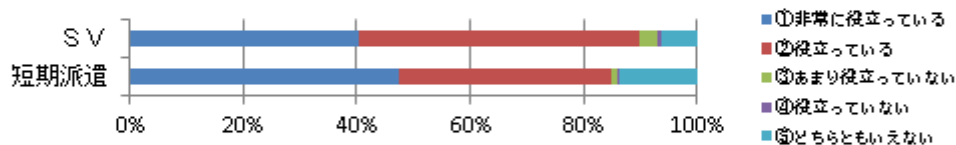
2. 奨学金として支給された金額の満足度



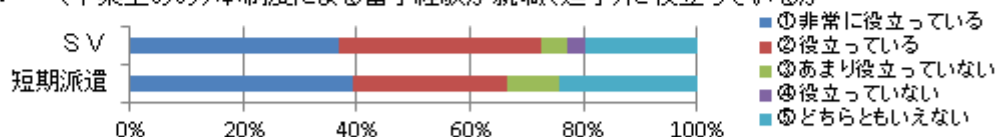
3. 本制度による奨学金がなくても留学したかどうか



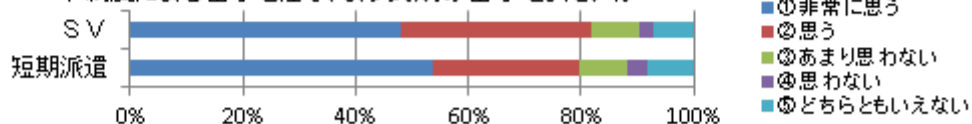
4-1. （在学生のみのみ）本制度による留学経験が学業、就職活動に役立っているか



4-2. （卒業生のみのみ）本制度による留学経験が就職（進学）に役立っているか



5. 本制度による留学を経て、より長期の留学をしたいか



6. そのほか、必要と思われる支援はなにか（自由記述）

図1. 留学生交流推進制度（短期派遣・ショートビジット）（平成23年度）支援対象者への当初アンケート質問項目と回答結果の概要

表1. 留学生交流推進制度(短期派遣・ショートビジット)経験者への追加アンケート質問項目の概要

基本情報

- ・海外留学・研修開始時学年 ・期間 ・地域
- ・留学・研修前オリエンテーションの有無 ・インターンシップの有無

・問1 過去の海外経験

- ・海外生活の経験の有無、期間 ・海外旅行経験の有無、通算期間

・問2 海外留学・研修の効果を感じた項目を20項目から選択

- ・学業関連(4項目) ・語学関連(4項目) ・異文化理解関連(5項目)
- ・進学・就職関連(3項目) ・その他(グローバルな視野等4項目)

・問3 海外留学・研修後の語学力の変化

・問4 海外留学・研修後の学業成績の変化

・問5 自己能力評価(15項目)と海外留学・研修後の能力向上の有無

- ・社会人基礎力(12項目)
- 前へ踏み出す力(3項目)、考え抜く力(3項目)、チームで働く力(6項目)
- ・異文化間理解力 (3項目)

・問6 本事業による留学・研修目的の達成度(満足度)(10点満点)

・問7 筆記意見

まず、学生の条件や背景によるクロス分析をして比較評価をすることも想定し、基本情報の項目として、海外留学・研修時の学年、期間、留学先地域、留学・研修前オリエンテーションの有無、留学・研修中インターンシップの有無等を設定した。加えて、海外生活経験の有無や期間、海外旅行経験とその通算期間によって、学生の意識の差が現れると考え、問1にその質問項目を設定した。

問2は本制度を利用して経験した海外留学・研修の効果を学生本人がどう自己評価しているか、学業関連4項目、語学関連4項目、異文化理解関連5項目、進学・就職関連3項目、そしてその他にグローバルな視野等4項目を加えた全20項目から効果があったと感じた項目を選択させた。問3と問4は、それぞれ海外留学・研修後の語学力と学業成績の変化を尋ねた。

問5は、今回のアンケート調査において、とくに重点をおいて組み込んだ質問項目である。学生の海外派遣に携わる関係者の多くが、海外留学から帰国した学生に対して感ずる点は、語学力だけでなく、積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、異文化への理解等、人間として成長して帰国したことを強く感ずることである。これらを指標化することを考え、2006年に経済産業省が提唱し、各方面で参照または利用されている「社会人基礎力」評価12項目に着目した⁷。2009年に源島福己が当時在籍していた秋田県の国際教養大学の海外留学経験学生に対して、「社会人基礎力」を利用して、留学未経験者と比較評価して、顕著な差を報告している⁸。また、2010年に経済産業省グローバル人材育成委員会は、グローバル人材に求められる共通の能力として①「社会人基礎力」、②外国語でのコミュニケーション能力、

③「異文化理解・活用力」の3つを掲げている⁹。検討した結果、「社会人基礎力」評価12項目を活用するとともに、WGとして新たに、「異文化理解・活用力」として3項目「外国人との協働力」「異文化理解力」「異文化間コミュニケーション力」を加えることとした。そして、各項目の能力に対する自己評価（0～3の4段階評価）と、その評価が留学・研修後に向上したかどうか（能力向上（1）、変化なし（0）、能力低下（-1））を尋ねた。本来ならば、留学・研修後に各能力が向上したかどうかを聞くよりも、能力評価を留学前に実施して、留学前後を比較することが望ましかったが、本調査が後追いのものだったためにやむを得なかった。

問6では、本事業による留学・研修目的の達成度（満足度）を10点満点で評価させ、最後の問7は自由記述意見の記入項目とした。

尚、対象学生へのアンケート調査と同時に、学校側の採択プログラム実施責任者にも追加アンケート調査を実施し、問2と同じ内容の留学の効果を質問したところ、学校側回答はほとんどすべての項目を選択する回答が多く、差が見いだせなかったために、その評価分析を断念した。

基本情報に基づく全体像

平成23・24年度留学生交流支援制度の「ショートビジット」（以下SVと略す）と「短期派遣」に採択されたプログラムに基づき、奨学金の支援を受けた学生に対して、平成25年8月26日～9月11日に、学生の所属する大学等を通じて追加アンケート調査を行った。

表2に、今回の追加アンケートの大学等学校種別の回収数と全体の回収率を示す。留学修了時に実施し回答させているアンケートではなく、学生によっては1年近く経ってからの追加アンケートであったため、平成24年度「短期派遣」を除くと回収率は20-30%に留まったが、この種の調査として、これだけの数の調査結果が集まったことに大きな意義があった。平成24年度「短期派遣」の対象学生は、平成25年夏に帰国した学生が多かったため、回収率が40%近くまで上昇した。学校種別では97%以上が大学であったが、平成23年度まで同制度が短期大学、高等専門学校等を対象としていなかったために、これらの学校で制度の認知度が低かったことや、教育カリキュラムに余裕がないこと等から取り組みがほんの一部に留まっているものと考えられる。

表2. アンケート結果の大学等高等教育機関種別の回収数と全体の回収率

	H23						H24					
	ショートビジット			短期派遣			ショートビジット			短期派遣		
	回答校数	回答人数	機関別割合	回答校数	回答人数	機関別割合	回答校数	回答人数	機関別割合	回答校数	回答人数	機関別割合
国立大学	63校	1112人	(35.8%)	50校	202人	(41.0%)	62校	1611人	(44.0%)	53校	349人	(35.2%)
公立大学	11校	117人	(3.8%)	7校	11人	(2.2%)	8校	109人	(3.0%)	8校	26人	(2.6%)
私立大学	87校	1801人	(58.0%)	68校	276人	(56.0%)	70校	1829人	(49.9%)	72校	607人	(61.2%)
短期大学	1校	7人	(0.2%)	1校	2人	(0.4%)	2校	25人	(0.7%)	0校	0人	(0.0%)
高等専門学校	8校	69人	(2.2%)	2校	2人	(0.4%)	11校	89人	(2.4%)	4校	10人	(1.0%)
合計	170校	3106人		128校	493人		153校	3663人		137校	992人	
実績数	229校	14248人			1635人		195校	12891人		302校	2488人	
回答率	21.8%			30.2%			28.4%			39.9%		

表3 アンケート回答者の男女の割合

性別	H23		H24	
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣
男性	39.8%	33.3%	44.3%	33.2%
女性	59.9%	66.7%	54.5%	66.8%
未回答	0.3%	0.0%	1.2%	0.0%

図2 (a)は、大学に所属する学生の留学・研修開始時の学年の分布である。「SV」の場合は、学部1・2年で留学する割合が50%以上を占め、これに対して「短期派遣」では学部1年で留学する割合は5%以下であり、学部2年が約30%、学部3年が約40%と両学年で70%を超える。「短期派遣」の場合に学部1年生が極端に少ないのは、協定大学との交換留学が中心であり、多くの場合に応募者審査に大学の成績が要求されることや、日本での学内応募から派遣先大学の入学許可までに半年以上のプロセスを経ることが多いため、学部1年での「短期派遣」が一般に困難であることが大きな理由であろう。「SV」において、平成23年度と24年度を比較すると、修士1年の割合が倍増している。制度の継続性を確認し、修士課程の教育プログラムに組み込んだ大学が少なくなかったためではないかと思われる¹⁰。

図2 (b)は、留学・研修期間の分布である。「SV」として採択されるプログラムの留学・研修期間の条件は3カ月未満であるが、2週間以内のプログラムが30-40%で、1カ月以内のプログラムが80%以上を占めている。「短期派遣」として採択されるプログラムは、3カ月以上1年未満が留学期間の条件であるが、6カ月以上1年未満が平成23年度は80%以上、平成24年度は約70%を占める。平成24年度は「短期派遣」の奨学金支援人数が前年度の1.5倍近くに増えたため、それまでは限られた奨学金を半年以上の学生に優先して割り当てていたものが、平成24年度は半年未満の学生への割り当てを増やした大学が多くあったと思われる。

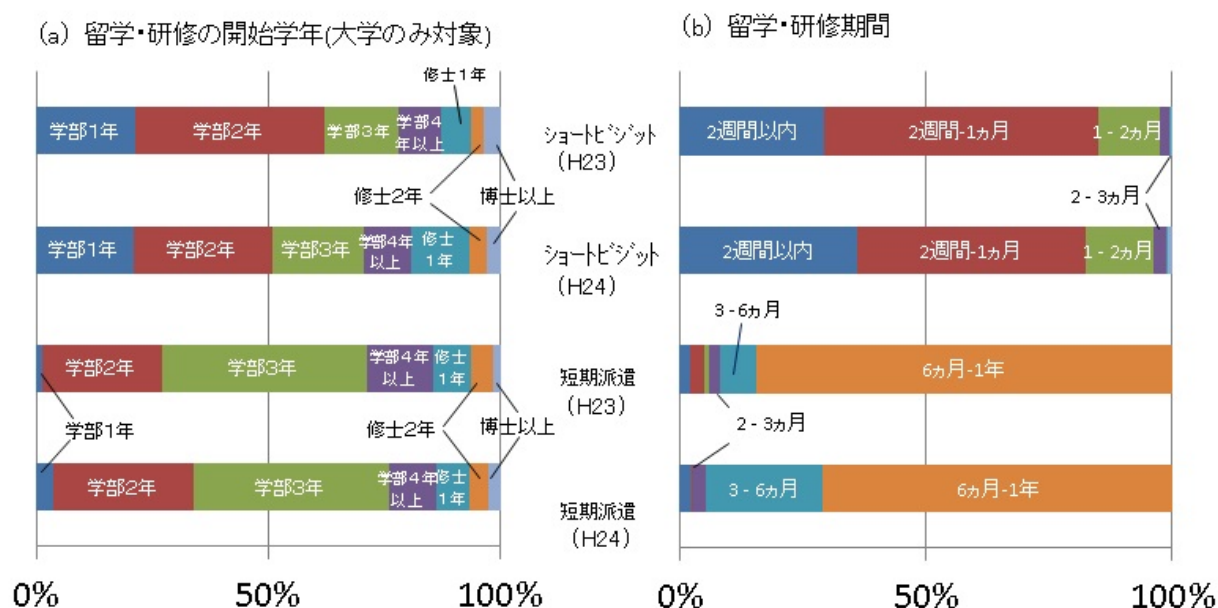


図3は、留学・研修先の地域の分布である。「SV」と「短期派遣」では分布が大きく異なる

る。協定大学との交換留学が一般的な「短期派遣」の場合は、北米が30-40%、西ヨーロッパが30%前後を占め、オセアニアが2-3%と意外に少ない。中国、韓国、台湾の東アジアに約20%、ASEAN諸国に3-4%の学生が留学しており、この数年アジア地域へ留学する学生が増えてきたことを物語る。「SV」の場合は、北米、西ヨーロッパがそれぞれ25%、20%前後に減少し、オセアニアが10%前後に増え、アジア地域が大きく増加している。ASEAN諸国が「短期派遣」の3-4%から「SV」では12-20%と大きく拡大している。

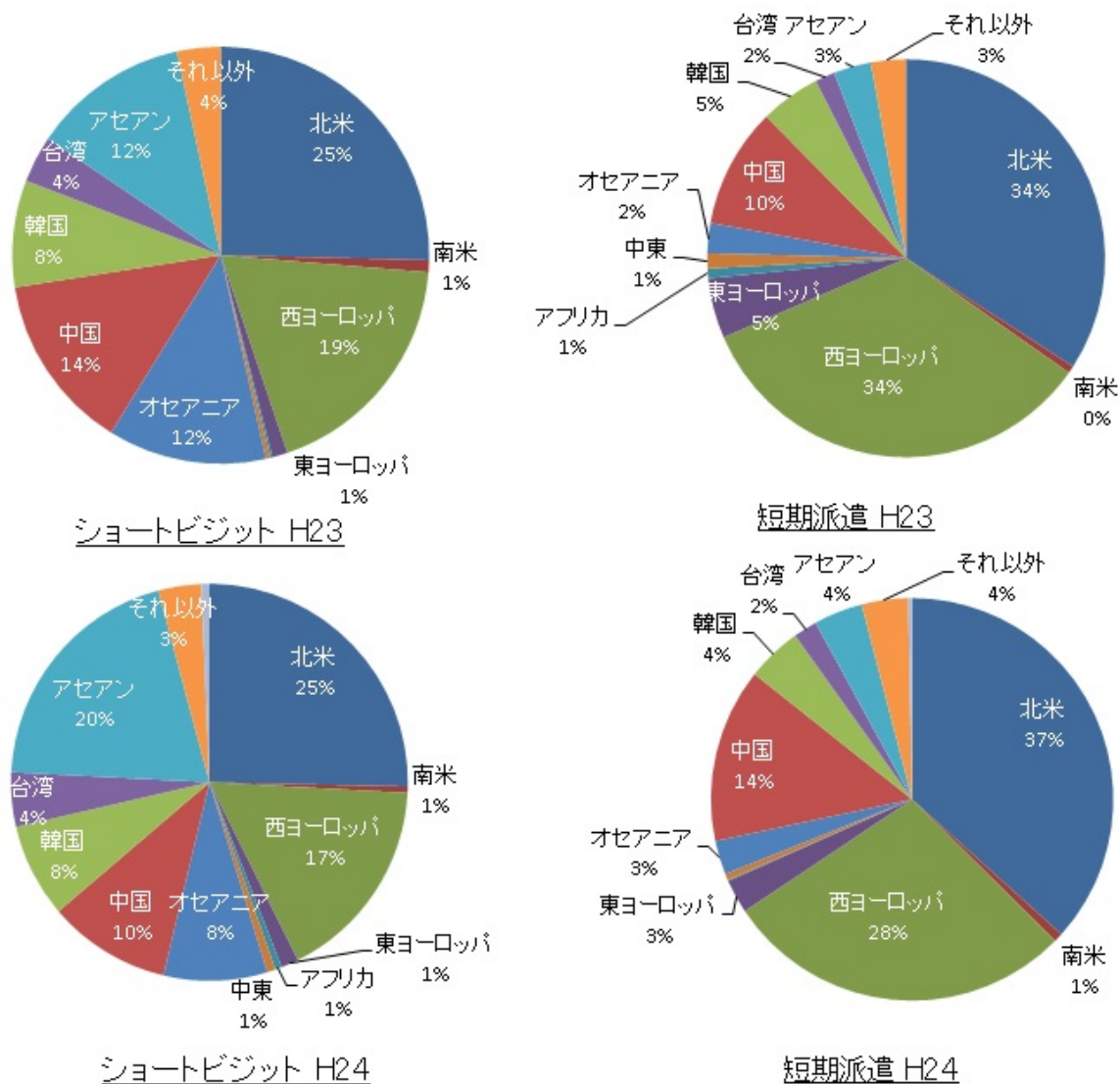


図3. 留学・研修先の地域

図

4 (a) は、留学・研修に参加した学生の、海外在住経験（海外生活、長期滞在など日常生活の基盤を海外に置いた経験）、そして図 4 (b) は海外旅行の経験である。「SV」では80%、「短期派遣」では65%が1カ月を越える海外在住経験がない学生である。一方、海外旅行の経験のない学生は「SV」で30%程度、「短期派遣」では20%弱に減少する。ただし、海外旅行1～2回の経験者がいずれも30-40%を占める。図 4 (c) は海外旅行経験者の中で、通算した旅

行期間について尋ねたが、「S V」でも「短期派遣」でも60%近くが1カ月未満である。従って、「留学生交流支援制度」の支援学生の70-80%は海外旅行経験があるものの、通算1カ月以上の海外旅行経験はそのうちの3割程度に留まり、1カ月以上海外に居住し日常生活を経験した学生はさらに限られることが確認された。しかし、「短期派遣」に参加した学生の中で、1~3カ月あるいは3カ月~1年の海外在住経験のある学生の割合が「S V」に比べて大きく広がっていることは注目すべき点である。これは「短期派遣」に参加する前に、語学研修プログラム等で1カ月ほど、またはそれ以上の海外滞在を経験していることを物語っている。「S V」のような1~3カ月の短期プログラムを経験した学生が、一定の割合で、より長期の留学・研修として「短期派遣」に参加しているものと推定される。

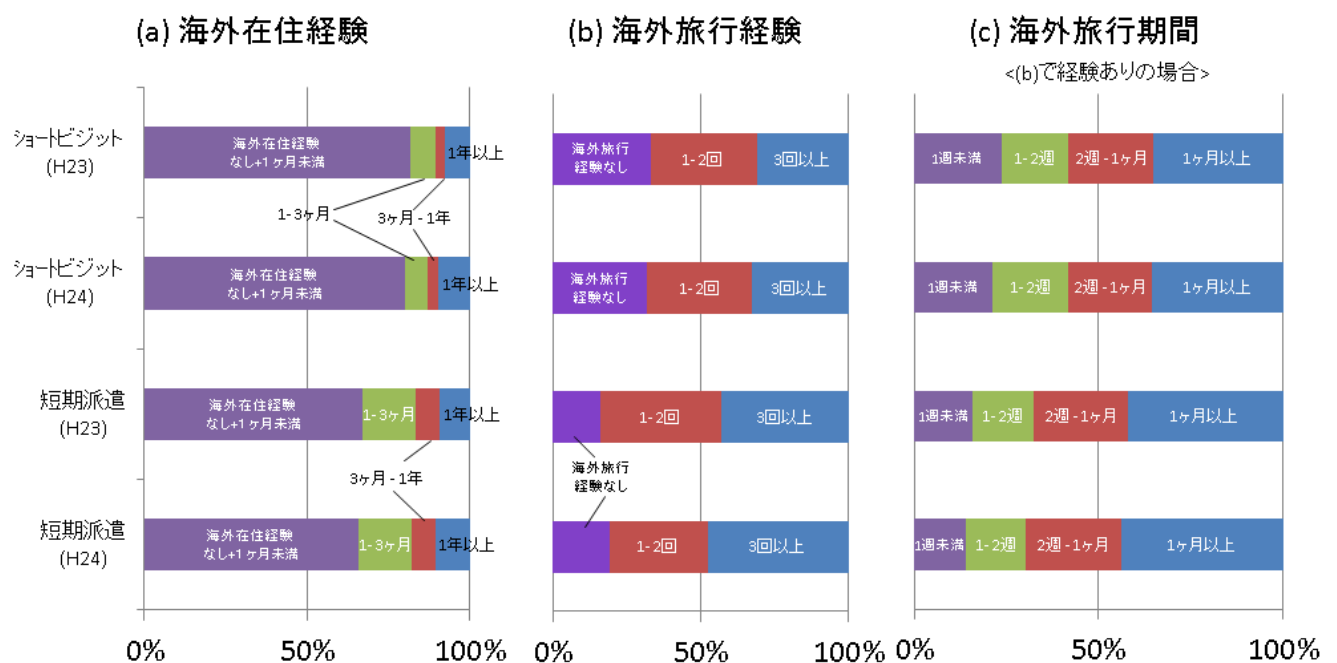


図4. 支援学生の海外在住経験と海外旅行経験

表4は、留学・研修前にオリエンテーションが実施されたかどうか、そして留学・研修中のインターンシップの有無を質問した調査結果である。「S V」の場合は、60%以上が十分なオリエンテーションがあり、不十分なものも含めれば95%近くが実施されている回答であった。これらに比べて短期派遣の数字がやや低いのは、交換留学の情報収集を学生自ら調査して留学希望先を選び、応募書類を半年以上前から準備する過程で種々の情報を入手していること、人数を集めるオリエンテーション形式でなく、個別対応が多いこと、等が理由ではないかと推察される。

留学・研修中のインターンシップの実施については、全体として10%前後で実施されていることが確認された。インターンシップによって、学生の留学体験がさらに豊富化することが予想され、後述するクロス分析でその効果を確認する。

表4. 留学・研修前オリエンテーションの実施と留学・研修中のインターンシップの有無

質問事項	選択肢	H23		H24	
		ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣
留学・研修前オリエンテーションの実施内容	十分あった	66.0%	45.8%	62.4%	54.0%
	少しあった	26.9%	33.7%	29.9%	33.7%
	あまりなかった	6.3%	20.1%	6.4%	11.5%
	未回答	0.8%	0.4%	1.4%	0.8%
留学・研修中のインターンシップ経験の有無	あり	10.0%	11.2%	14.4%	8.4%
	なし	89.6%	88.2%	84.5%	91.3%
	未回答	0.4%	0.6%	1.1%	0.3%

自己評価に基づく海外留学・研修の効果

アンケート問2において、本制度を利用して経験した海外留学・研修の効果について、学業関連4項目、語学関連4項目、異文化理解関連5項目、進学・就職関連3項目、そしてその他4項目の全20項目から選択させた（複数回答可）。各項目について、何%の学生が選択したかについて平成24年度のを図5に示す。選択数が無制限であったため、結果がまとまりにくい心配があったが、調査母数が多かったために、結果として有意な差のあるデータが得られた。

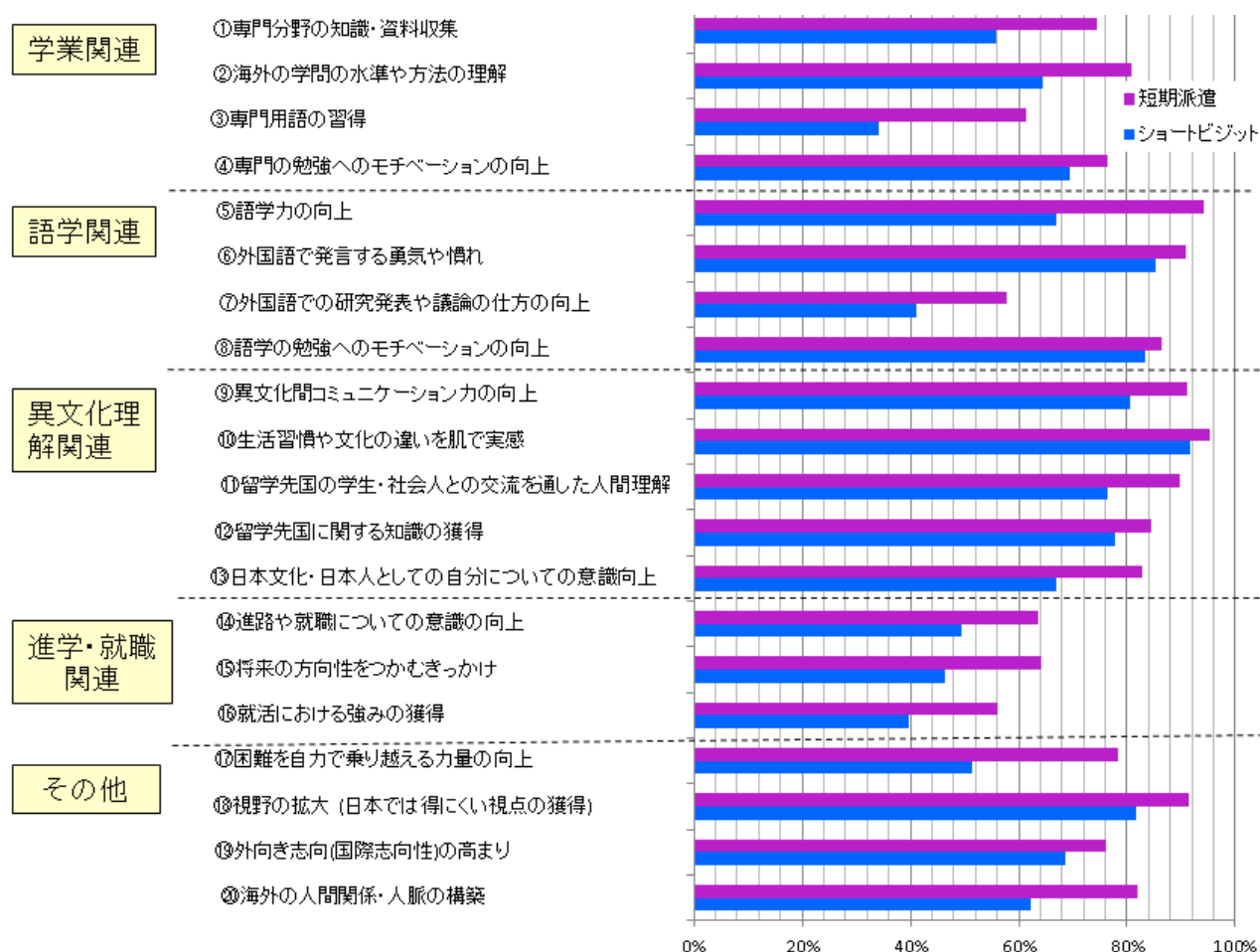


図5. 留学・研修を経験して獲得した効果 (H24年度短期派遣・ショートビジット)
(各項目について効果有りを選択した学生の割合を%で表示)

全部の項目でほぼ40%以上の学生が効果あったと回答しており、「短期派遣」の学生が、「SV」の学生の数字をすべて上回っていることも興味深い。また、その差が大きかった質問項目は、学業関連の①～③、語学関連の⑤語学力の向上と⑦外国語での研究発表や議論の仕方の向上、就職関連の4項目、その他の⑰困難を自力で乗り越える力量の向上、⑳海外の人間関係・人脈の構築であった。これらのいずれの項目も「SV」のような短期間（ほとんどが1カ月以内）では達成しにくく、半年あるいは1年滞在する「短期派遣」で大きな効果となることから妥当な結果が得られた。

一方、「SV」の場合は、語学関連の⑥外国語で発言する勇気や慣れ、⑧語学の勉強へのモチベーションの向上、異文化理解関連の⑨～⑫の4項目、⑱視野の拡大（日本では得にくい視点の獲得）の項目に対して、70%以上の学生が効果があったと回答している。異文化理解関連は、「短期派遣」との差がいずれも少ない結果であった。海外生活経験が全くないか1カ月未満の学生が80%に及ぶ「SV」の学生にとって、「SV」での海外経験は、異文化理解への大きな刺激となり、語学力向上への動機づけとなったことは間違いない。

留学・研修後の語学能力と学業成績の向上

図6は、アンケートの問3、問4において、留学・研修後に語学能力と学業成績が向上したかどうかを尋ねた結果である。問3では、さらにTOEFL, TOEIC等の語学能力評価試験のスコアも回答させたが、記載が少なく、統計処理はできなかった。「SV」対象者の60%、「短期派遣」は90%前後が、語学力の向上を実感している。一方、学業成績の方は、「SV」対象者の40-50%、「短期派遣」は50-60%前後が、学業成績向上を実感したという回答である。

(a) 海外留学・研修後の語学能力 (b) 海外留学・研修後の学業成績

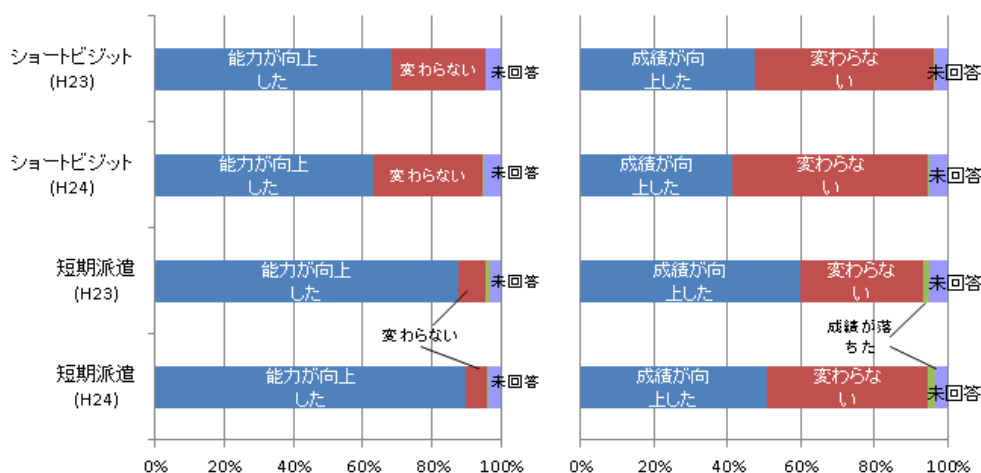


図6. 留学・研修後の語学能力と学業成績

社会人基礎力と異文化理解・活用力の自己評価

図7は、社会人基礎力12項目および異文化理解・活用力3項目に対する、(a)自己評価点(0~3の4段階評価)と、その評価が留学・研修後に向上したかどうか(能力向上(1)、変化なし(0)、能力低下(-1))の評価点を平均した結果である。各項目の「SV」と「短期派遣」の平成23・24年度の4つのデータはいずれも似通ったものであるが、「SV」と「短期派遣」のそれぞれで、平成23・24年度の数値がさらに近接している。対象者が全く異なるにもかかわらず、数字がこれだけ近接するのは、データ数の多い場合の統計の妙というべきものであるが、小さな数字の差もそれなりに意味を持つてくるようになる。全体としては、留学・研修経験によって、項目3(実行力)、9(柔軟性)、10(状況把握力)の評価が他よりやや高く、14(異文化理解力)と15(コミュニケーション力)は、かなり高い自己評価となっている。ほとんどの項目で「短期派遣」の自己評価が「SV」の数字を上回り、項目3、項目4(課題発見力)、項目13(外国人との協働力)、項目14、項目15は、大きな差が現れている。

これら各項目が留学・研修後に向上したかどうかについての平均値は、ほとんどが0.5を上回った。「能力が低下した(-1)」と回答した学生はすべての項目で2%以下であり、マイナスの効果はほとんど無視できるため、数字は「能力が向上した」と回答した学生の割合をほぼ示していると言える。項目間の比較では、異文化理解・活用力の項目14~項目16が留学・研修後向上したとの回答が多い。「SV」と「短期派遣」を比べた場合、項目1(主体性)、3(実行力)、4(課題発見力)、12(ストレス・コントロール力)、13(外国人との協働力)で、はっきりとした差が現れ、大半が6カ月以上の長期の留学によって鍛えられる能力が浮かび上がってきている。

クロス分析による留学・研修前オリエンテーションと留学・研修中インターンシップの効果

留学・研修前オリエンテーションが十分に行われた対象者とそれ以外を対象者、留学・研修中インターンシップが実施された対象者と実施されなかった対象者に対して、問2の成果項目、問5の能力評価をクロス分析した結果、評価が向上した項目(平成24年度分)を表5に示す。

表の上半分の問2では、オリエンテーションの実施による評価向上は、数項目に留まるが、下半分の問5では、多数の項目で評価向上が見られた。「SV」では明らかに、「十分なオリエンテーションを実施している」と感じている学生が、自己能力評価が向上しており、明らかな効果が示されている。

「短期派遣」の場合は、表4の考察でも述べたように、長期間様々な準備を行っているため、留学・研修直前のオリエンテーションの実施がそれほど意識されていないのではないかと思われる。

インターンシップの場合は、問2も問5も、多くの項目でその評価を向上させている。勉強だけでなく、留学・研修先の会社や組織での共同作業、研究等を通じて、文化や習慣の違いを乗り越えて協働作業を行うことが要求されるため、それらに関連した項目をいずれも評価していることがうかがわれる。

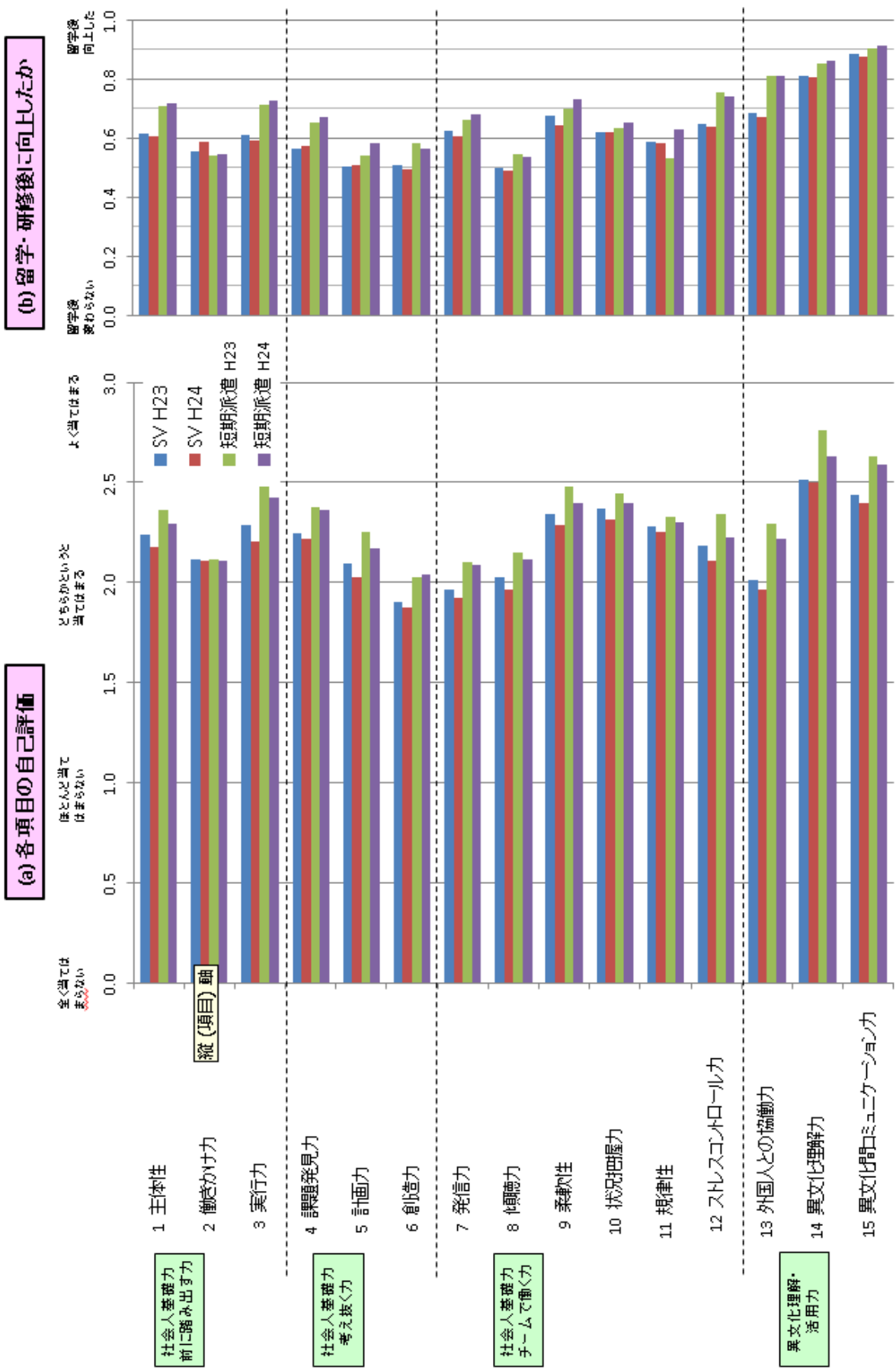


図7.自己能力評価(15項目)と海外留学・研修後の能力向上

表5. 留学・研修前オリエンテーションと留学・研修中インターンシップの効果(H24年度)
 (実施によって、評価結果が明らかに向上した項目について○)

問2. 留学・研修による獲得事項			オリエンテーション		インターンシップ	
分類		質問項目	SV	短期派遣	SV	短期派遣
学業関連	1	専門分野の知識・資料収集			○	○
	2	海外の学問の水準や方法の理解			○	○
	3	専門用語の習得			○	
	4	専門の勉強へのモチベーションの向上			○	
語学関連	5	語学力の向上	○			
	6	外国語で発言する勇気や慣れ				
	7	外国語での研究発表や議論の仕方の向上			○	
	8	語学の勉強へのモチベーションの向上				
異文化理解関連	9	異文化間コミュニケーション力の向上				
	10	生活習慣や文化の違いを肌で実感				
	11	留学先国の学生・社会人との交流を通じた人			○	○
	12	留学先国に関する知識の獲得				○
	13	日本文化・日本人としての自分についての意識				
進学・就職関連	14	進路や就職についての意識の向上	○		○	○
	15	将来の方向性をつかむきっかけ	○		○	
	16	就活における強みの獲得		○	○	○
その他	17	困難を自力で乗り越える力量の向上			○	
	18	視野の拡大(日本では得にくい視点の獲得)				
	19	外向き志向(国際志向性)の高まり			○	○
	20	海外の人間関係・人脈の構築			○	○

問5. 自己能力評価項目			オリエンテーション		インターンシップ		
分類		質問項目	SV	短期派遣	SV	短期派遣	
社会人基礎力	前へ踏み出す力	1	主体性	○	○		○
		2	周囲への働きかけ能力	○		○	
		3	粘り強い実行力	○	○		
	考え抜く力	4	課題発見力	○		○	○
		5	計画実行力	○		○	○
		6	創造力	○			
	チームで働く力	7	発信力	○			
		8	傾聴力	○	○		
		9	柔軟な対応力	○		○	
		10	状況把握力	○			○
		11	規律順応力	○	○	○	
		12	ストレス・コントロール力			○	○
異文化間理解力	13	外国人との協働力	○				
	14	異文化理解力					
	15	異文化間コミュニケーション力					

留学・研修目的の達成度(満足度)とクロス分析に基づく傾向分析

追加アンケートの最後の質問として、留学・研修目的が十分に達成されたかどうかを10点満点の評価点で答えているが、図8にその評価点の分布と平均点を示す。アンケート対象者

が異なるにも関わらず、分布は極似しており、「SV」の平均点が平成23年度7.8、24年度7.6に対して、「短期派遣」が両年度とも8.0とやや上回っている程度であり、本制度における留学・研修目的の達成度（満足度）はかなり高いレベルであることが確認された。ただし、追加アンケートの回答率が20-40%であることを考えると、満足度の比較的高い学生が回答している可能性が高く、高めの結果となることを念頭におかなければならない。

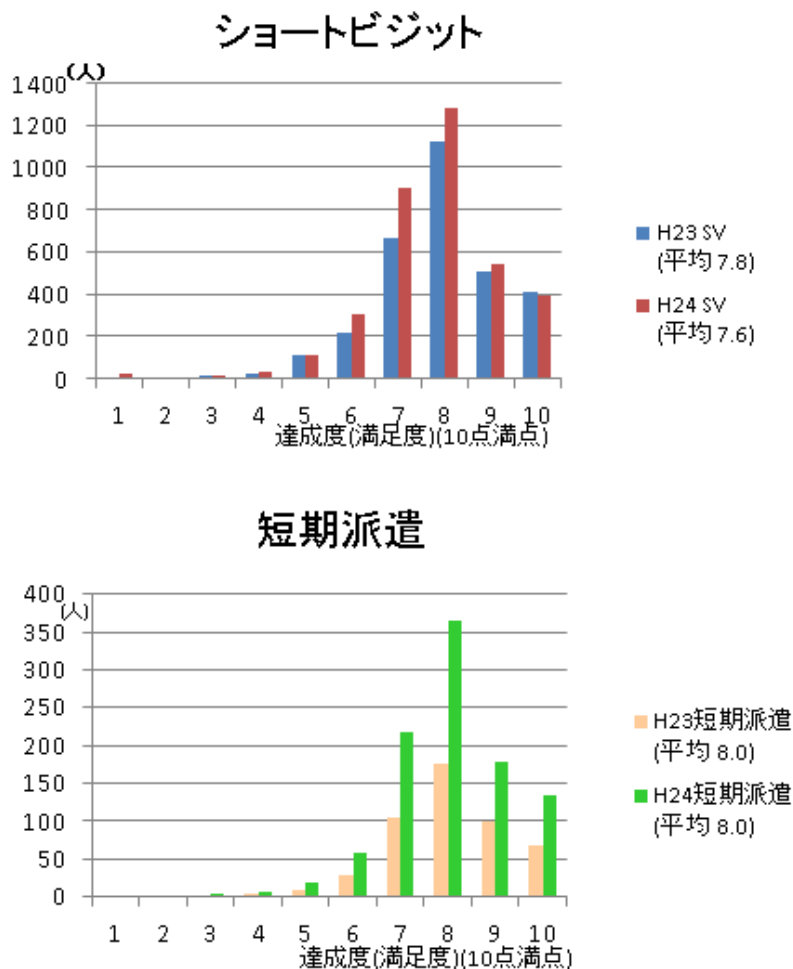


図8. 留学・研修目的の達成度(満足度)

これまで紹介した基礎データや質問項目に対して、種々のクロス分析を行った。これまで見てきた通り、「SV」と「短期派遣」のデータには差がはっきり現れているが、それぞれの平成23年度と平成24年度の間には、あまり差がないため、平成24年度のデータに対してのみクロス分析を行った。

表6は、今回の調査の「短期派遣」の全体的傾向と、クロス分析を行った結果によって見いだされた傾向を合わせてまとめたものである。表7は同様に、「SV」に対してまとめたものである。

表6. 「短期派遣」対象者の傾向分析

- 専門分野の知識習得、海外の学問の水準や方法の理解、専門用語の習得を実感
- 語学力の向上、外国語での研究発表や議論の仕方の向上を実感
- 異文化間コミュニケーション力、日本人の自覚の向上を実感
- 進学・就職についての意識の向上などを実感
- 困難を自力で乗り越える力量の向上、視野の拡大、海外の人間関係・人脈の構築を実感
- 学業成績の向上を実感
- 北米、西ヨーロッパに行く学生の割合が多い
- 台湾・韓国・北米・中国が、留学目的の達成度(満足度)が高い
- 低学年参加者ほど以下の項目を実感
 - ・学業成績の向上
- 高学年参加者ほど以下の項目を実感
 - ・海外の学問の水準や方法の理解
 - ・専門用語の習得
 - ・専門の勉強へのモチベーションの向上
- 期間が長いほど以下の項目を実感(6ヶ月以上)
 - ・専門分野の知識習得
 - ・専門用語の習得
 - ・海外の学問の水準や方法の理解
 - ・外国語での研究発表や議論の仕方の向上
 - ・留学先国の学生・社会人との交流を通じた人間理解
 - ・留学先国に関する知識の獲得
 - ・将来の方向性をつかむきっかけ
 - ・日本文化・日本人としての自分についての意識向上
 - ・外向き思考(国際志向性)の高まり
- 事前オリエンテーション
 - ・十分にあった方が留学目的の達成度(満足度)が高い

表7.「ショートビジット」対象者の傾向分析

- 高学年参加者ほど以下の項目を実感している
 - ・専門分野の知識習得
 - ・海外の学問の水準や方法の理解
 - ・外国語での研究発表や議論の仕方の向上
- 低学年参加者ほど以下の項目を実感している
 - ・語学への勉強のモチベーションの向上
 - ・語学力の能力が向上
 - ・学業成績の向上
 - ・自らやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができるようになった
- 留学・研修期間が2週間以上では、北米、西ヨーロッパ
2週間以内ではアセアンに行く学生の割合が多い
- 留学・研修期間が長いほど以下の項目を実感(2週間以上)
 - ・語学力の向上
 - ・学業成績の向上
 - ・困難を自力で乗り越える力量の向上
- 北米・西ヨーロッパ・オセアニアへの留学では以下の項目をより実感
 - ・語学力の向上
 - ・外国語で発言する勇気や慣れ
- インターンシップの実施は2週間以上のプログラムの方が多い
- 留学・研修の目的の達成度(満足度)は以下の条件がより高い
 - ・留学・研修前に海外生活経験があった方が満足度が高い
 - ・通算海外旅行期間が長い方が満足度が高い
 - ・留学・研修開始時が高学年ほど満足度が高い
 - ・留学・研修地域が台湾・韓国・アセアンが満足度が高い
 - ・事前オリエンテーションが十分にあった方が満足度が高い
 - ・インターンシップがあった方が満足度が高い

全体のまとめ(1)－「短期派遣」

「留学生交流支援制度(短期派遣)」は、「短期留学推進制度」から脈々と受け継がれてきた、学术交流協定を締結している大学(協定大学)との3カ月以上1年未満の交換留学に参加する学生を主な支援の対象とした制度であり、70-80%が半年以上の滞在である(図2(b))。多くの場合、交換留学に参加する学生は、派遣先大学の受入れ条件の語学能力に達した上で留学が許可されるが、多くの日本人学生が最初の2-3カ月は勉学が容易でない経験をする。派遣先大学の英語または母国語による授業を十分に聞き取ることができず、クラスのディスカッションやグループ・プロジェクトになかなか入っていけない状況を経験する。それでも交換学生は単位を持ち帰ることを想定しているため、何とか理解しようと奮闘し、様々な専

門講義を聞き取り、ディスカッションやプレゼンテーション、レポート作成に対応する。逃げ場のない環境の中で実践的な語学力が否応無しに鍛えられるため、結果として交換留学による語学力向上は、1～2カ月程度の語学留学とは比較にならない。

また、人間関係でも、最初は友人をつくることにも苦労するが、黙していても何も伝わらないため、自らを奮い立たせ、積極的に人間関係をつくることによって困難を克服し、新しい世界が広がる経験をする。このような経験こそが、図5の社会人基礎力や異文化理解・活用力の高い自己評価となり、様々な海外の環境で活躍できる人材の基礎力を育む。

以上のような交換留学経験者の話から、図5や図7を見直すと、図5の留学の効果では、「学業関連」で①専門分野の知識や②専門用語の習得、「語学関連」では⑤語学力、⑥外国語で発言する勇気や慣れ、「異文化理解関連」の⑨～⑬、そしてその他項目では⑰困難を自力で乗り越える力量の向上、⑱視野の拡大、⑳海外の人間関係・人脈の構築、の回答率が高いことを確認できる。また、図7では、1主体性、3実行力、4課題発見力、9柔軟性、10状況把握力、12ストレス・コントロール力、13外国人との協働力、14異文化理解力、15異文化間コミュニケーション力、の能力が特に向上したことを自己評価している。外国語でのコミュニケーション能力だけでなく、「社会人基礎力」、「異文化理解・活用力」等、国際社会で活躍できる資質・能力を合わせて鍛えてきたからこそ、学生交流関係者の多くが、半年～1年の交換留学を終えて帰国した学生の人間としての著しい成長ぶりを目の当たりにすることと思われる。

このような経験から、学生交流関係者は、学生が1カ月程度の留学に満足することなく、少なくとも単位取得を前提とした、半年～1年の交換留学を多くの学生に実現してほしいという願いである。しかし、協定大学から「交換留学」での受入れが認められるためには、協定大学が要求する授業についていけるだけの語学力を準備しておかなければならない。学生が要求する語学力に達していなければ、語学力の準備や留学への積極的な心構えという点で、「SV」の取り組みは重要な意味をもつ。

今回の調査で、「派遣留学」では北米や西ヨーロッパ地域への海外留学・研修がやはり大きな割合を占めるが、東アジアやアセアン諸国への交換留学が一定の割合に増えてきており、中国・韓国・台湾は、留学目的の満足度が高い傾向が見られた。アジア諸国で活躍できるグローバル人材が産業界からも大いに期待されているため、全体の交換留学による派遣を増やすとともに、アジア地域への交換留学もさらに推進することが望まれる。

全体のまとめ（2）－「ショートビジット（SV）」

「留学生交流支援制度（ショートビジット（SV）」は、滞在期間が3カ月未満ということで最低滞在日数の条件もなく、柔軟な制度として出発したため、申請採択された留学・研修プログラムには、様々な目的を持った多種多様なプログラムが含まれている。フィールドワークや派遣先協定大学学生との討議等を加味した語学力強化プログラムが多数含まれる一

方、フィールドワークやインターンシップを中心とするもの、研究室での専門研究・研修、国際会議への参加等、多種多様なプログラムが申請され、採択された。にもかかわらず、「SV」支援学生のアンケート回答の平均値としての結果は、留学の効果の自己評価（図5）も、自己能力評価（図7）も、「短期派遣」のそれぞれの結果をやや下回るものの、傾向のよく似た結果となっている。

「SV」対象者は、30%は海外旅行経験がなく、80%以上は1カ月以上の海外在住経験がないという学生であったため、それらの学生を巻き込んで、留学の裾野を拡げたことは間違いない。また、教育カリキュラムが非常に詰まっていて、半年でも留学をすることに躊躇するような学部や大学院学生に対して、学期の合間を利用できる「SV」はそれらの学部・大学院関係者に大いに歓迎され、その点でも裾野を拡げている。

そして、多様なプログラムの「SV」対象者が、留学の効果や自己能力評価をこれだけ高く自己評価していることは、参加したプログラムの目的への達成度（満足度）が高かったこととも合わせて意義深く、平成23年度新規に開始された「SV」は、対象者に大きな意義と効果をもたらしたと考えて良いと思われる。

ただし、個々の「SV」プログラムは、新しく企画されたものも少なくないため、より詳細なアンケート調査を行う中で、細かい問題点が学生から指摘されて、一時的に評価を下げ、改善に取り組んで評価をまた上げる例も少なくない^{3,10}。

また、細かく見ると、留学の効果の自己評価（図5）では、「短期派遣」と「SV」の間に、③専門用語の習得、⑦外国語での研究発表や議論の仕方の向上、⑰困難を自力で乗り越える力量の向上、の項目において顕著な差が見られたが、他の項目では差が少ない。とくに、図7の能力の自己評価の場合、絶対的な評価で言えば、「短期派遣」と比べると大きな差があるはずである。しかし、対象学生の主観的な自己評価のため、「SV」ではあっても、学生にとっては未知の体験であり、大きな刺激を受けて、自己能力の向上を大きく評価した結果となり、「短期派遣」の場合の能力の自己評価と同様な結果をもたらしたものと思われる。

「短期派遣」の場合には、留学を経験した学生が、「社会人基礎力」と「異文化理解・活用力」のそれぞれの能力を高め、人間としての大きな成長を遂げていることを、図7の結果がよく示していることを述べたが、「SV」の場合は「短期派遣」と同じレベルの能力を身につけた、というわけにはいかないように思われる。

学生交流の関係者が心配するのは、「SV」でこれだけ高い自己評価をすると、留学を十分に経験したような思いとなり、「派遣留学」へのモチベーションが下がってしまうのではないか、という点である。現に、「SV」のような1カ月程度の留学は増えても、半年～1年の交換留学があまり増えない、という関係者の声を最近よく聞いている。

最初のアンケート（図1）問5において、「本事業による留学を経て、より長期の留学をしたいと思うか」に対して、「SV」対象者の約50%が「非常に思う」、約35%が「思う」と回答しており、「SV」の帰国直後は長期留学のかなりのモチベーションがあるかと思われる

ので、「SV」の場合、留学・研修前のオリエンテーションも重要であるが、「短期派遣」を促す、留学・研修後のフォローアップ研修も大変重要ではないかと思われる。また、「SV」対象者が実際に長期留学をどれだけ実現したかの追跡調査が肝要であると思われる。

尚、留学・研修先については、「派遣留学」で割合の高い北米や西ヨーロッパの割合が大きく減り、オセアニア、東アジア、ASEAN 諸国がその分大きく割合が増えている点は有意義である。現地を一度訪問すれば、その地域への愛着と安心感から、その地域の「派遣留学」を後押しするきっかけにもなるため、「SV」で留学・研修先の地域が広がることは大変意義深い。

最後に

国費を使って留学支援を行う以上、その費用対効果を十分に説明する必要がある、というのが行政事業レビューや国の財布を預かる財務省等からの指摘である。残念ながら、日本学生支援機構も、交換留学を実施する各大学の関係者も、この種の説明の準備が足りなかったことは正直なところである。冒頭で説明した経緯から、平成 25 年 8 月に評価分析委員会が発足し、年度内に一部報告することを目指して、8 月には平成 23・24 年度対象者に遡って追加のアンケート調査をせざるを得なかったため、さまざまな課題を抱えつつ、駆け足で実施した。

留学がどのように効果的か、効果や利点を列挙することはできても、それが量的にどれほどの効果があるかを示すことは容易ではない。本来ならば留学前と比べて何がどれだけ変化したか、留学しない学生とどのような差が生ずるかを論ずることも肝要と思われる。また、回答者の主観的評価も一要素であるが、客観的、絶対的な指標も加えなければ、様々なデータの比較に限界がある。さらに、留学の効果は、留学直後の効果だけでなく、進路選択や就職活動、そして社会人として活躍する中で現れてくる。むしろ、社会人としての活躍の差に大きく反映されるのではないだろうか。従って、留学の効果を十分に説明するためにも、個人を追跡し、2～3年後、5年後、10年後も視野に入れた長期的な調査も望ましい。

ただし、網羅的な調査を積み上げていくためには、比較評価できる項目と指標を関係者の間で早期に確立する必要がある。その意味で、今回の調査によって留学の効果の全体像が把握できたことと、留学の効果を図る上で、源島の先行研究事例を踏まえ、「社会人基礎力」と「異文化理解・活用力」の 15 項目を有効な能力評価項目として提起できたことは、大変意義深かったと思われる。

平成 26 年度は、留学生受入れ側である「短期受入れ」と「ショートステイ」の調査を実施し、同様な評価分析を行い、年度内に派遣と受入れを合わせた報告書を作成する予定である。そして、評価分析をここで終わらせず、可能であれば、もっと精度を上げた評価分析が行えるように、『海外留学支援制度』（『留学生交流推進制度』が平成 26 年度から同制度に再編された）の対象者全員に対して、留学前、留学直後、そしてその後の追跡調査を継続的に実施

していく体制の構築が望まれる。これらのデータによって、留学に二の足を踏む学生たちにも、留学の意義や効果、社会での貢献等を、より説得力を持って説明できることになるのではないかと期待される。関係者のご意見・ご批判を仰ぎたい。

1. 文部科学省 行政事業レビュー「公開プロセス」評価者のコメント(2012. 6. 20)
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/06/20/1322354_1.pdf
2. 留学生交流支援制度・評価分析委員会ワーキンググループは、明治大学横田雅弘（主査）、一橋大学太田浩、東京外国語大学岡田昭人、駒澤大学坪井健、明治大学新田功、名古屋大学野水勉によって構成され、日本学生支援機構留学生事業部留学生交流支援課（現：海外留学支援課）の事務的サポートを受けた。
3. 岡田昭人(2012)「新しい国際教育プログラムの展望と課題－東京外国語大学ショート・ビジットプログラム(SV)を事例として」広島大学国際センター紀要、第2号、pp. 69-83
4. 坪井健(1995)『国際化時代の日本の学生』学文社
5. 坪井健(2012)『アジア学生文化の変容に関する国際比較研究』（平成23年度科学研究費<基盤研究C>研究成果報告書、研究代表者坪井健）
6. 横田雅弘・小林明編(2013)『大学の国際化と日本人学生の国際志向性』学文社
7. 経済産業省「社会人基礎力」<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>
8. 源島福己(2009)「大学生の海外留学と社会人基礎力の発達」『留学交流』Vol. 21, no. 12 pp. 2-5
9. 経済産業省グローバル人材育成委員会(2010)『産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会報告書－産学官でグローバル人材の育成を－』経済産業省 2010年4月
10. 佐藤由利子(2014)「海外短期派遣を通じた日本人学生のグローバル化効果と実施上の課題－国際環境事例研究に参加した大学院生及び指導教員の調査結果から－」広島大学国際センター紀要、第4号、pp. 59-75

(4) 事例報告会の開催

グッドプラクティスに選定されたプログラムを担当している教員による事例報告、および「H23・24年度支援対象大学・学生への追加アンケート」の分析結果報告を行うため、広く大学等関係者を対象に「留学生交流支援制度（短期派遣）事例報告会」を東京および大阪の2地区で開催した。

【留学生交流支援制度（短期派遣）事例報告会開催の概要】

開催日および場所

平成26年3月3日（月）東京国際交流館プラザ平成 国際交流会議場

平成26年3月7日（金）大阪国際交流センター 小ホール

内容 グッドプラクティスに選定されたプログラムを実施した教職員による事例報告、追加アンケートの分析結果の説明、短期派遣の意義および効果をテーマとしたパネルディスカッションを行った。

プログラムは以下のとおりである。

- ・「官民協働海外留学支援制度」説明
- ・留学生交流支援制度追加アンケート分析結果説明
- ・平成23・24年度留学生交流支援制度（短期派遣、ショートビジット）採択プログラム事例報告
- ・パネルディスカッション「短期派遣の意義及び効果について」
- ・質疑応答

【プログラム事例報告機関および採択プログラム名】¹

[東京会場]

東京医科歯科大学「国際的な視野をもつアカデミックドクター養成のための、英国インペリアル・カレッジへの（卒前）基礎医学実習派遣プログラム」

桜美林大学「国際協力研修（フィリピン国際協力研修）」

東北大学「スタディ・アブロード・プログラム」

長崎大学「長崎大学大学院国際健康開発研究科短期フィールド研修」

[大阪会場]

広島大学「STARTプログラム」

名古屋大学「国際農学研修」

熊本高等専門学校「英語によるプレゼンテーション力育成キャンプ」

香川大学「東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する大学間相互交流プログラム」

¹ JASSO ホームページ「留学生交流支援制度（短期派遣）事例報告会」
http://www.jasso.go.jp/scholarship/short_term_h_houkokukai.html

【実施結果概要】

- ・参加者数

東京 134 大学等 167 名

大阪 94 大学等 96 名

その他詳細については、「留学生交流支援制度（短期派遣）事例報告会実施概要報告」（巻末に掲載）を参照のこと。

【事例報告会結果の波及】

平成 26 年 9 月、日本学生支援機構ウェブサイトに、事例報告会において事例報告のあった 8 プログラムの説明資料を掲載し、広く一般に公開した。

掲載アドレスは以下のとおりである。

http://www.jasso.go.jp/scholarship/short_term_h_houkokukai.html

4. 短期受入れに関する調査（平成 26 年度）

（1）調査計画

平成 26 年度においては、次の 4 つについて実施した。

① 訪問調査の実施

本年度のプログラム実施大学等への訪問調査を実施し、プログラム担当者および受入れ学生へのインタビューを行った。

② 平成 25 年度支援対象校・学生への「追加アンケート」の実施

外国人留学生からの回答をより確実に得ること、今後も継続してアンケートを実施してデータを蓄積することが望ましいことから、前年度と同じ調査対象年度である平成 23・24 年度の短期受入れ・ショートステイではなく、平成 25 年度の短期受入れ支援大学等・学生に対して調査を実施するとともに、短期派遣支援大学等・学生についても継続して調査を実施した。

③ 学生向けアンケート結果の分析

追加アンケートのうち、受入れ学生を対象としたアンケートの結果については、定量的な指標に関して全体的な傾向とともに、各項目について考察することで、本制度における留学効果の分析を行った。

④ 評価分析の結果をまとめた報告書の作成

本制度の成果を情報発信することを目的として、2 カ年にわたる評価分析の結果をとりまとめた。

（2）支援対象大学等への訪問調査

訪問調査の実施方法は以下のとおりである。

調査対象 平成 26 年度採択プログラムのうち、7 月から 9 月の間に実施されているものの中から学校種別、地域性、分野、過年度の採択実績を考慮するとともに、教職員および受入れ学生が対応可能であった 17 プログラム。

調査期間 平成 26 年 7 月～9 月

調査内容 海外留学支援制度（短期派遣・短期受入れ）評価分析委員および日本学生支援機構役職員が各大学等を訪問し、プログラム担当教員や参加学生に対するインタビュー、およびプログラムの視察（可能な場合のみ）を行い、5 つの観点（①プログラムの目的・達成目標 ②プログラムの内容 ③実施体制 ④フォローアップ・成果検証の実施 ⑤プログラムの自立化・発展化・継続化）において、優れている点（他大学等への参考となりうる取組み）、改善を要する点（今後期待される点）について抽出した。

【実施結果】

委員の報告をもとに、訪問調査対象プログラムの優れている点（他大学等への参考となりうる取組み）を中心に、調査の観点ごとに抜粋し記載する。

観点①「プログラムの目的・達成目標」における優れた例（他大学等への参考となりうる取組み）

- A 高専：実践的かつ創造的技術者を養成することで定評のある工業高等専門学校として、海外協定大学から3週間留学生を受入れ、研究プロジェクトを実施することによって、日本の技術教育環境を体験し、技術者養成における国際貢献を果たすとともに、高専に在籍する日本人学生にとっては、共同作業を通じてコミュニケーション力や国際性を養わせ、高専の教員にとっては協定大学との研究面での連携強化につなげている。
- B 大学：大学院機械工学分野で進められている機械工学の研究・教育プロジェクトに海外の大学生を参加させるとともに、企業ともプロジェクトで連携し、企業訪問や短期インターンシップを通じて、企業と連携した大学の国際化を推進し、機械工学分野の国際競争力を向上させ、最先端研究・開発・教育における人材および知識の国際ネットワークを構築する、としている。将来、プログラム参加者が、研究分野において日本の大学・産業と連携した研究・教育の推進者となることや、産業界に進む場合に日本企業への就職や日本企業との連携を意識してもらうこと等も狙っている。
- C 大学：国際化拠点整備事業（グローバル30）の一環として、既にあった大学院課程とは別に外国人留学生のみを対象として英語で教育する国際コースが設置された。この研究分野はアジア圏ではあまり馴染みのない国も多いことから、まずこの分野を知ってもらい、国際コースへの入学者を確保することが本プログラムの主な目標である。本プログラムは国際コースの運営（存続）とも深く関わっており、国際コースが置かれている学部・大学院の教員の理解と協力のもとに実施されている。また、教職員や学生の国際化についての目標は、大学全体の方向性とも合致しており、本プログラムの意義が大学あるいは大学院全体で共有されていることは重要な点である。

観点②「プログラムの内容」における優れた例（他大学等への参考となりうる取組み）

- A 大学：日本には強い興味を持つが日本語が殆どできない学生から、専門分野等でのある程度の会話が可能な学生まで、幅広い日本語レベルの学生を受入れてレベル別の日本語科目を提供するほか、日本について多角的に日本人学生と共に学ぶ2言語併用の国際交流科目や、専門的な情報の収集や意見交換等ができる機会の提供によって、多様な留学生のニーズに幅広く対応できるように設計されている。また、日本語のレベルがある一定に達した学生に対し、県や市との協定の下での制度的なインターンシップ機会を提供するなど、地方都市ならではの工夫も見られる。
- B 大学：学部生に対しては、提携校からの留学生を短期で受入れ（約2週間）、共同ゼミや共同のフィールドワーク等を実施する。準備の段階から提携校の担当教員との緊密な協

力の下、学生の自主性を生かしつつ学生間にて共同のテーマ選定を行ったり、相互に協力して準備学習を実施するなど、プログラムの一部として実施の工夫がなされており、留学効果を高めている。また、院生に対しては、4カ月の受入れ期間中、テーマごとの閉鎖的な研究活動に陥らないよう、関係する学部の授業に参加させるなど、より多くの日本人学生との交流機会の創出に努めている。これらの院生による学部授業の参加は、適宜、英語・日本語の併用で行われている。

C 大学：短期の受入れ期間中に、外国人留学生の研究課題に応じて、ホスト研究室が実験・実習の機会を提供し、その研究活動を教員と学生が共同で指導・支援する。途上国からの学生の場合、母国の大学では利用できない機材を使って、レベルの高い実験に参加する可能。また、英語による講義やセミナーへの参加も奨励されている。受入れる外国人留学生の生活面のサポートも研究室の教員と学生が共同で行う。短期間の留学に単位を付与するために、柔軟性の高い集中授業を実施している。

D 大学：修士課程学生のものづくり教育プロジェクトを実施する。D'大学とのボート製作プロジェクトでは、留学前の半年間、両大学が SNS で情報交換しながら設計を仕上げる。そして、10名以上の学生を約2週間受入れ、両大学の学生が共同でボートを製作する。実験には D 大学の船型試験水槽施設が利用可能であり、高度な材料や製造技術が必要なため、日本の企業とも連携する。最終的に琵琶湖でのボートレースに参加し、その成果を他大学等と競う。この間に企業訪問や短期インターンシップも含まれており、大学院教育の効果だけでなく、大学・産業界との国際ネットワークづくりに役立っている。

観点③「実施体制」における優れた例（他大学等への参考となりうる取組み）

A 大学：本プログラムの実施は、留学等を所掌する国際教育センターの専任教員（5名）と海外研修等の経験をもつ同センター事務職員で一元的に進められており、経験知の集積が容易である。また、同センターの事務室内の事務職員そばに留学生や日本人学生が自由に集える交流ラウンジが併設されており、留学生と教職員の距離を縮める効果も持っている。単位修得が20単位を越えた者には学長から修了証書が授与されるなど、学修奨励へのインセンティブも加えられている。

B 大学：大学間協定に基づいて実施される。実際のプログラム運営にあたっては、両大学の専門学科の教員が中心となり協力体制がとられている。プログラムに参加する留学生は、現地校でポスターなどにより募集され、書類審査と面接によって選抜される。また来日時には教員が同伴し、生活面での指導や危機管理体制について責任を持つ。留学生はキャンパス内に設置されている国際寮に滞在する。

C 大学：実施・運営は、基本的には事務局の国際課事務職員と大学院・学部の教員と限られた人員により行われているが、互いの密接な協力連携関係がこれを可能としている。また、同時に C 大学の各教員と提携校の担当教員の間にも密接なネットワークと強い協力連携の関係が構築されているが、この連携もプログラムの実施を大変円滑にしており、留学生は選考後から留学、さらに帰国後に至るまで両大学での研究・学習の一定の連続性が確保されている。

- D 大学：受入れ学生の募集と選抜において、交流大学との連携が良く取れている。危機管理においては、学生教育研究災害障害保険を有効に活用しており、研究室での安全対策（実験機器や危険な薬品に関する説明の英語化）もなされている。外国人（中国人）教員の存在が中国から受入れる学生の支援において有効に活かされている。宿舎を確保するため全学の国際関係部署との連携も取れている。
- E 大学：参加希望学生には、外部委託で運営しているオンラインシステムを通して、最新の情報提供が行われている。理事長のもとに危機管理委員会が編成され、24 時間対応の管理体制をとっている。人事異動がなく、経験豊かな高い語学力のある国際交流担当職員が配置されている。寮とホームステイが提供され、授業料免除、単位付与体制も参加者の出身大学との協定書に明記され確実に実行されている。広い学生用交流スペースで日本人学生との交流が日常的に行われ、学生企画の交流会などの情報が大学の確認を得て掲示され、よく利用されている。異文化交流環境が整っているといえる。

観点④「フォローアップ・成果検証の実施」における優れた例（他大学等への参考となりうる取組み）

- A 大学：これまで学部で受入れた短期留学生在が院生として再留学してくるなど、A 大学の短期留学は学生の継続的な学びに対する動機付けになっている。日本語学修では、殆ど日本語のできなかつた学生でも少なくとも日本語能力試験 N4 レベルを達成させ、またそれ以上のレベルの学生は実務の実際や日本の職場でのコミュニケーション方法を学ぶことにより、帰国後のキャリア形成に役立たせることを目標としている。そのため、日本語については各留學生にコンピューターベースのテスト（J-CAT）をプログラム開始前と終了時に実施してその達成度を確認すると共に、日本語科目以外でも学期毎に学習計画の策定とその自己評価を報告させ、あるいはインターン先からの報告書を課すなど、きめ細やかなモニターと多面的な評価を行っている。
- B 大学：約 2 週間の短期受入れながら、期間の最後には日本人参加学生と共同の成果発表や帰国後の各提携校におけるフォローアップセッションの複数回開催など多様なフォローアップ活動が組み込まれている。さらに発表成果は学生の協力により、以前は冊子で、現在はホームページ上で成果報告を公表している。これらフォローアップ活動は、学生の企画運営力の強化に資するだけでなく、学生間のネットワーク構築や強化に繋がっており、プログラムの国際的展開に寄与している。成果評価についても、提携校との相互評価の組み込み等、重層的な評価が試みられている。
- C 大学：例年受入れ学生に対して実施しているアンケート結果で高評価を得ている。また、課題研究に関して同大学の多くの学生が参加する成果発表会を実施され、そこで評価が高かった者は旅費を得て国際学会へ参加できる。当該プログラムに参加する留學生数が多数でないことから講義の合間に学生間のネットワークが十分に構築されている。また、学長・教員等による実施委員会により自己点検や参加学生へのアンケート分析が行われている。
- D 大学：本プログラムで特筆すべき成果は、交換留學生を経て同大学院に進学する者の多

さである（平成 22～23 年度には約 30%の学生が進学）。同大学の大学院進学を志して交換留学に来る学生もいる。認知度の高さ、アジアのトップ大学で教鞭を執る同窓生の指導、先輩学生からの口コミなども非常に有効に作用している。元留学生に対し、年に 1～2 回のペースで日英両語のメールマガジンが発行されている。

E 大学：プログラムの最後に実施される最終的な学習成果報告会によって、参加した学生の能力向上などが評価されている。また参加した学生は帰国した後、各大学でアンケート調査や報告会が義務付けられており、将来的にプログラムに参加を希望する者たちとの情報交換の機会が確保されている。

観点⑤「プログラムの自立化・発展化・継続化」における優れた例（他大学等への参考となりうる取り組み）

A 高専：本留学生受入れプログラムは、平成 26 年度が初年度であるが、海外インターンシップへの学生派遣は平成 15 年度から実施してきており、さらに協定大学への学生派遣プログラムが平成 23 年度から開始し、年々拡大してきている。受入れプログラムが加わったことによって、双方向の学生交流が実現でき、協定大学との研究教育連携が進展し、継続的な発展が大いに期待できる。また、国立高等機構高専改革経費プログラム等、高等専門学校国際化を推進する予算支援が強化されており、プログラムが自立化していくことも大いに期待できる。

B 大学：自立化については、JASSO からの奨学金がない場合は大学の基金と学長裁量経費などの活用が予定されている。留学生を派遣している大学から成果発表会への参加の打診が寄せられており、今後のプログラムの発展が期待できる。また、継続化については、学内のステークホルダーなども関与している PDCA サイクルが確立している。

C 大学：机上の議論だけでなく、高度な技術による製作を行い性能を競うことになるため、学生同士の真剣な情報交換や議論、共同作業を誘起させ、教育効果の極めて高いプロジェクトである。参加した学生達の満足度が高く、再留学を望んでいる学生の紹介もあったほどで、日本留学の大きな魅力とその成果を上げている事例と思われる。製作費用の確保が別途重要であるが、研究予算や世界展開力強化事業をはじめとした競争資金、大学院補助で一部予算が賄われているほか、プロジェクトの発展性から、素材企業や関連企業から積極的な資材の提供を受けて実施されており、自立化、発展化、継続化について疑いがないと思われる。同様な仕組みで、他分野へ拡がることが期待される。

D 大学：ビジネス日本語研修では対象者を日本語上級者に絞っており、研修内容の研究・開発が続いている。インターンシップ研修の受入れ企業の確保については、初期は外部委託したこともあったが、現在では自前で維持、拡大が図られ、観光・リゾート関連産業、マスコミ関係を中心に参加企業が増えている。本プログラム参加者が日本企業に就職した実績も増えつつあり、日本語ができる優秀なグローバル人材を求める日本企業のニーズと相まって、発展することが期待できる。本プログラム修了を待たずに、企業の採用面接に進んでいる参加学生もいた。資金面については、JASSO の支援だけでなく、本プログラム実施のために大学から予算を獲得している。

以上が優れた実践例であるが、改善を要する点（今後期待される点）としては、主に以下のような点が挙げられた。

- ・研究室に所属した留学生と日本人学生が英語でのコミュニケーションや討論ができず、教育効果が上がらない例。受入側のサポート力や語学（英語）力の向上、日本人学生のプログラム参加や交流に関する目標設定、達成のための取り組みがあるとよい。受入れ留学生の支援のみならず、日本人学生の国際化・グローバル化、派遣留学やより長期の留学につながる可能性が開かれる。
- ・プログラム運営において、担当教職員の属人的要素が強く運営側の負担が多くなっている例。組織的・制度的な体制構築、専門職員の採用や育成が望まれる
- ・受入れ留学生とプログラムの性格・意向とが一致しない例や、帰国後の単位互換状況が把握しきれしていない例などがある。提携校との意思疎通の改善が必要
- ・宿舎に関する問題（学校から遠い、数が不足、費用が高い、日本人学生との交流ができない、日本での生活に関するサポートが少ない等）
- ・計画書に書かれている評価アンケートや評価・点検が十分に行われていないか、行われていても結果の取りまとめや分析、成果把握に至っていない例。評価基準の策定、結果の活用策等の具体的な検討が望まれる
- ・プログラム終了後、受入れ学生が大学院等に進学することを目標としているが、当該学生に大学院入学の説明等が行われていない。また、進学の際に奨学金が十分に確保されていない

(3) H25 年度支援対象大学・学生への追加アンケート

ア. 実施方法

留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）追加アンケート調査の実施方法は以下のとおりである。

調査対象 平成 25 年度留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）採用大学等および採用学生

調査期間 平成 26 年 8 月～9 月

調査内容 大学等および受入れ・派遣学生を対象に追加アンケートを実施し、回答を集計した。

【追加アンケートの内容】

受入れ学生用アンケートの作成にあたっては、前年度実施した短期派遣・ショートビジット対象の調査用紙を受入れ用に改編したほか、受入れ学生用の設問を追加した。また、質問用紙は日本語版および英語版を用意し、日英どちらかの言語で回答できるようにした。

学生用追加アンケート（受入れ）質問項目の概要は以下のとおりである。なお、アンケート本文は巻末に掲載した。

- ・基本情報

- ・過去の海外経験
- ・日本留学の効果を感じた項目
- ・日本留学後の語学力の変化
- ・日本留学後の学業成績の変化
- ・自己能力評価（15項目）と日本留学後の能力向上の有無
- ・本事業による留学目的の達成度（満足度）
- ・日本で留学プログラムに参加した経験や印象
- ・筆記意見

派遣学生および派遣プログラム実施大学用のアンケートは前年度と同様とした。また、受入れプログラム実施大学用のアンケートは派遣大学用アンケートの内容に準じて作成した。

イ. 集計結果、ウェブマガジン『留学交流』への論考掲載

【集計結果】

回答数・回答割合は以下のとおり。

	受入れ学生	派遣学生	受入れ大学	派遣大学
対象件数	5,448 人	9,593 人	122 校・363 プログラム	192 校・647 プログラム
回答数	2,254 人	4,705 人	122 校・340 プログラム	189 校・589 プログラム
回答割合	41.4%	49.0%	100.0%・93.7%	98.4%・91.0%

学生用アンケート回答の集計結果（グラフ）および分析資料は巻末に掲載した。

【分析結果－『留学交流』論考】

平成 26 年度においては、前年度に派遣学生の追加アンケート調査結果を分析したことに鑑み、受入学生の追加アンケート調査結果についてのみ、ワーキンググループにより分析を行った。

分析結果については、前年度同様に野水委員および新田構成員がとりまとめ論考として執筆し、『留学交流』平成 27 年 6 月号に掲載した。

平成 26 年度追加アンケートの分析結果として、以下に掲載原稿を転載する。

海外留学することの意義（II）
-平成25（2013）年度留学生交流支援制度（短期受入れ）
追加アンケート調査分析結果から-

Benefits of Study Abroad Experience - II:

Results from Additional Survey and Analysis for International Students Supported by
the Student Exchange Support Program (Scholarships for Short-term Study in Japan)
in 2013

名古屋大学 国際教育交流センター 野水 勉

明治大学 政治経済学部 新田 功

NOMIZU Tsutomu (International Education & Exchange Center, Nagoya University)

NITTA Isao (School of Political Science and Economics, Meiji University)

キーワード：短期留学受入れ、交換留学、海外留学、外国人留学生獲得戦略

はじめに

著者らは、昨年のウェブマガジン『留学交流』7月号に掲載された「海外留学することの意義—平成23・24年度留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）追加アンケート調査分析結果から—」¹において、同制度（平成27（2015）年度現在『海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）』に名称変更）によって支援された日本の大学等高等教育機関（以下「大学等」と略す）から海外の大学等へ派遣留学した日本人学生へのアンケート調査結果を報告したが、本稿は平成25（2013）年度『留学生交流支援制度（短期受入れ）』によって支援された、海外の大学等から日本の大学等に受け入れた留学生に対するアンケート調査結果を報告する。

『留学生交流支援制度』（平成7～19（1995～2007）年度は『短期留学推進制度』）の歴史的経緯と、制度によって支援された学生に対する追加アンケート調査を実施するに至った経緯については、前稿を参照していただきたい。少しだけ概略を繰り返すと、調査の大きなきっかけは、平成24（2012）年6月に『留学生交流支援制度』が文部科学省行政事業レビューの対象となり、抜本的改善が求められる評価結果となったことである²。レビューの中ではプログラム要件や効果に対する厳しい意見が寄せられ、この結果を受けて文部科学省は、平成25（2013）年度から「ショートビジット」「ショートステイ」を廃止したうえで「短期派遣」「短期受入れ」の制度改編を行い、語学力、学業成績、家計基準等の条件を付与または強

化することとなった。また、『留学生交流支援制度』による留学支援の効果を丁寧に調査する必要性が確認され、平成 25（2013）年度から日本学生支援機構の中に「留学生交流支援制度評価分析委員会」が設置されることとなった。

平成 25（2013）年度の「留学生交流支援制度評価分析委員会」は、まず派遣関係の категорияであった平成 23・24（2011・2012）年度『留学生交流支援制度（短期派遣）』および『同（ショートビジット）』の奨学金受給者を対象に、海外留学の効果を調査するための追加アンケート調査（平成 25（2013）年 8～9 月に実施）を実施し、その概要を『留学交流』平成 26 年 7 月号に報告した。また、特に優れたプログラム事例を調査し、選ばれた代表事例 10 件のうち 8 件の事例報告会を平成 26 年 3 月に東京・大阪の 2 会場に分けて実施した。

平成 26（2014）年度は、受入れ関係の category となる平成 25（2013）年度『留学生交流支援制度（短期受入れ）』の奨学金受給者を対象に、日本留学の効果を調査するための追加アンケート調査（平成 26（2014）年 8～9 月に実施）の集計分析結果に基づき、留学の効果を報告する。同時に、短期受入れ関係の優れたプログラム事例について調査した。これらの調査結果をとりまとめ、「留学生交流支援制度／海外留学支援制度評価・分析（フォローアップ）調査報告書」として機構ホームページ³への掲載及び印刷物の配布により公表する予定である。

尚、平成 23・24（2011・2012）年度の『留学生交流支援制度』には、「短期派遣」（3 カ月以上 1 年未満の海外派遣）および「ショートビジット」（3 カ月未満の海外派遣）と対をなす形で「短期受入れ」（3 カ月以上 1 年未満の留学生受入れ）と「ショートステイ」（3 カ月未満の留学生受入れ）の category があつたが、平成 25 年（2013）度の制度見直しによって、「ショートビジット」「ショートステイ」は廃止され、「短期派遣」「短期受入れ」の制度改編を行った結果、「短期派遣」「短期受入れ」にはそれぞれ新たに「交流協定留学型」（平成 26（2014）年度以降「双方向協定型」に変更）および「短期研修・研究型」の二つの種別がつくられた。「短期受入れ」の「交流協定留学型」は、授業料不徴収・授業料免除の内容を含む学生交流協定の締結大学等から 1 学期以上 1 年以内の受入れ、そして在留資格「留学」を条件とするため、実質的に 3 カ月以上の受入れが前提となり、従来の『留学生交流支援制度（短期受入れ）』がほぼ引き継がれたものである。他方の「短期研修・研究型」は、“在籍大学等との連携により作成されたプログラムに基づき学生を受入れる（在留資格の種類は問わない）”としたため、留学受入れ期間は 8 日以上から 1 年に近い期間まで含まれることとなった。従って、本調査では、昨年報告した派遣関係の「短期派遣」（3 カ月以上）と「ショートビジット」（3 カ月未満）と対比しやすいうように、留学受入れ期間が 3 カ月以上と 3 カ月未満の対象者群に分け、「短期受入れ（3 カ月以上）」と「同（3 カ月未満）」（平成 24・25（2012・2013）年度の「ショートステイ」に相当）として分類し、解析を行った。

前稿と同様に、評価分析委員会並びに同委員会の下で編成されたワーキンググループ（WG）⁴に参画し、WG を代表して筆者野水が本稿を執筆した。クロス集計は、新田功が統計ソ

フト IBM SPSS を用いて主に行った。

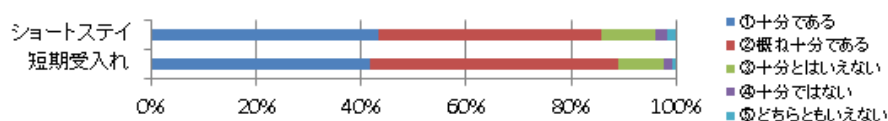
当初の受給者アンケート（短期派遣／短期受入れ状況調査）の結果

追加アンケートの紹介の前に、昨年の報告と同様に、日本学生支援機構が『留学生交流支援制度』の奨学金受給者に対して、留学修了時に行っている当初のアンケート（「短期派遣／短期受入れ状況調査」）の項目と結果の概要（平成24（2012）年度）の短期受入れ関係（「短期受入れ」・「ショートステイ」）を図1に紹介する。本稿の本題である「短期受入れ」の追加アンケートは、平成25（2013）年度の受給者に対して行っているため、同じ年度のアンケート結果を紹介すべきところであるが、平成25（2013）年度の当初アンケートは集計が完了していなかったため、平成24（2012）年度の結果の紹介となった（平成25（2013）年度の奨学金受給者が年度を超えて平成26（2014）年度後半期まで留学しているケースが一部に残っているため）。平成24（2012）年度『留学生交流支援制度』の受入れ関係は、「短期受入れ」と「ショートステイ」の分類であったため、その分類名のまま示している。

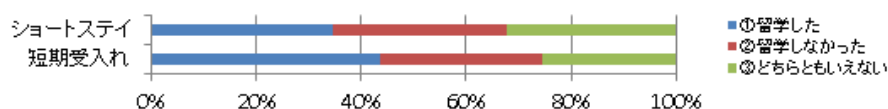
1-1. 留学目的（語学力の上達、学位取得等自由記述）（結果省略）

1-2. 留学目的の達成度（満足度）とその理由（結果省略）

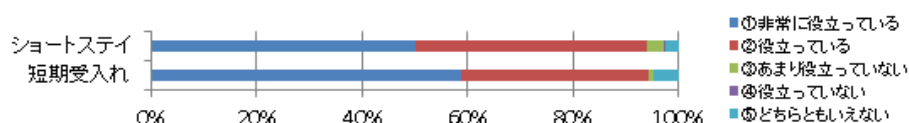
2. 奨学金として支給された金額の満足度



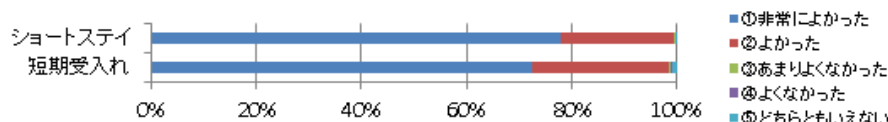
3. 本制度による奨学金がなくても日本に留学したかどうか



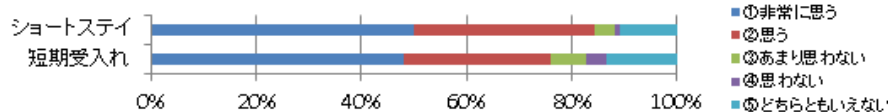
4-1. 本事業による留学経験が、学業、就職活動等に役立っているか



4-2. 日本に来て良かったと思うか（日本の風土や日本人が好きになったか）



5. 本制度による留学を経て、より長期の留学をしたいか



6. そのほか、必要と思われる支援はなにか（自由記述）

図1. 留学生交流推進制度(短期受入れ・ショートステイ) (平成24(2012)年度) 支援対象者への当初アンケート質問項目と回答結果の概要

質問項目は、日本人派遣学生対象のアンケートとほぼ同様であるが、派遣関係で「4-1」と「4-2」がそれぞれ在學生と卒業生に対して「本制度による留学経験が学業、就職活動に役立っているか」を質問したのに対して、受入れ関係では、「4-1. 本事業による留学経験が、学業、就職活動等に役立っているか」、「4-2. 日本に来て良かったと思うか（日本の風土や日本人が好きになったか）」という質問項目に置き換わっている。

この調査結果でまず興味深い点は、「2. 奨学金の支給金額の満足度」が、いずれも「十分である」が40-50%にのぼり、「概ね十分である」を含めると80%以上が金額に満足しており、本制度の奨学金支給金額の設定が、海外の学生からも受け入れられていることである。ただし、「3. 本制度の奨学金が無くても留学したか」との問いに対する肯定的な回答は、派遣の場合は、短期派遣77%、ショートビジット57%であったのに対し、受入れ関係では短期受入れ44%、ショートステイ35%と大きく減少する。海外大学からの受入れの場合、奨学金支給が日本留学の大きな動機づけとなっていることが確認できる。

「本事業による留学経験が学業、就職活動に役立っているか」の質問に対して、50%以上が「非常に役立っている」を含め、90%以上が「役立っている」との回答であり、受入れ関係だけに加えられた「4-2. 日本に来て良かったと思うか」への回答は、70%以上が「非常に思う」を含めて、97%が「良かったと思う」であった。「本制度による留学を経て、より長期の留学をしたいか」は50%近くが「非常に」であることを含めて80%近くが希望している。少ない調査項目であるが、これだけでも本制度の支援留学生が、日本留学を高く評価し、より長期の留学の動機づけにも貢献していることが推察できる。

追加アンケートの調査項目の設定

平成25（2013）年度のWGにおいて、WG委員がこれまで行ってきた先行事例⁵や日本人学生の国際志向性の調査事例⁶⁷⁸を参考にした上で、さらに種々の個人能力の留学による向上を評価するため、2006年に経済産業省が提唱し各方面で利用されている「社会人基礎力」12項目（2009年に源島福己が当時在籍していた国際教養大学の海外留学経験学生の留学効果の評価に利用）^{9 10}、そして2010年に経済産業省グローバル人材育成委員会が、グローバル人材に求められる共通の能力として掲げた、①「社会人基礎力」、②外国語でのコミュニケーション能力、③「異文化理解・活用力」¹¹の3つを加え、派遣関係の追加アンケート調査を組み上げた。

平成26（2014）年度のWGにおいて留学受入れ関係の調査項目を検討したが、派遣留学関係のデータとの比較ができるように、質問項目をあまり変えずに、表1のとおりとした。基礎情報から問6までは、ほぼ同様な内容であり、派遣関係の問3は外国語力の変化を尋ねていたが、今回の受入れ関係では、留学中に日本語講座が含まれていたかを確認の上で、日本語力の変化を尋ねた。

今回の調査では、問7を新たに加えた。問6において留学・研修後の満足度を尋ねている

が、問7-1において、さらに受入れ環境の細部の満足度を尋ねた。また、問7-2：日本への将来の関わり、問7-3：同級生・後輩に日本留学を勧めるか、を尋ねた。

表1. 留学生交流推進制度(短期受入れ)経験者への追加アンケート質問項目の概略

基本情報

- ・日本留学・研修開始時学年 ・期間 ・地域
- ・留学・研修前オリエンテーションの有無 ・インターンシップの有無

- 問1 過去の海外経験

- ・海外生活の経験の有無、期間 ・海外旅行経験の有無、通算期間

- 問2 日本留学・研修の効果を感じた項目を20項目から選択

- ・学業関連(4項目) ・語学関連(4項目) ・異文化理解関連(5項目)
- ・進学・就職関連(3項目) ・その他(グローバルな視野等4項目)

- 問3 日本留学後の日本語力の変化

- 問4 日本留学・研修後の学業成績の変化

- 問5 自己能力評価(15項目)と日本留学・研修後の能力向上の有無

- ・社会人基礎力(12項目)
- 前へ踏み出す力(3項目) 考え抜く力(3項目) チームで働く力(6項目)
- ・異文化間理解力 (3項目)

- 問6 本事業による留学・研修目的の達成度(満足度:10点満点)

- 問7 日本での留学プログラムの環境や印象

- ・7-1日常生活6項目、学習・研究項目2項目、学校生活2項目
(満足度:10点満点)
- ・7-2 将来、日本へ関わりたいか
- ・7-3 同級生・後輩に日本留学を勧めたいか

- 問8 筆記意見

各質問の回答内容を集計した上で、さらに(1)派遣元大学の所属学部が文系か理系か、(2)留学開始時の派遣元大学での学年(学部1・2年、学部3・4年、修士課程、博士課程)、(3)派遣元大学の国・地域、の観点に基づくクロス集計を行った。

尚、対象留学生へのアンケート調査と同時に、日本の学校側の採択プログラム実施責任者にも追加アンケート調査を実施したが、問2の効果を知る質問項目にほぼ全部丸をつけてしまう等の結果から、あまり有意な差を見いだせなかったために、その評価分析を断念した。

基本情報に基づく全体像

平成25(2013)年度『留学生交流支援制度(短期受入れ)』に申請・採択されたプログラムに基づき、奨学金の支援を受けた留学生に対して、平成26(2014)年8月12日～9月12日に、所属する大学等を通じて追加アンケート調査を行った。

表2に、今回の追加アンケートの大学等高等教育機関の学校種別の回収数と全体の回収率を示す。

表2. 平成25(2013)年度短期受入れ・アンケート結果の大学等高等教育機関種別の回収数と全体の回収率

	H25受入れ					
	3カ月未満			3カ月以上		
	回答校数	回答人数	機関別割合	回答校数	回答人数	機関別割合
国立大学	44校	712人	(63.9%)	45校	743人	(65.2%)
公立大学	3校	50人	(4.5%)	4校	48人	(4.2%)
私立大学	22校	308人	(27.6%)	27校	328人	(28.8%)
短期大学	1校	2人	(0.2%)	0校	0人	(0.0%)
高等専門学校	6校	42人	(3.8%)	4校	21人	(1.8%)
専修学校専門課程	0校	0人	(0.0%)	0校	0人	(0.0%)
合計	76校	1114人		80校	1140人	
支援実績(調査対象)人数		3221人			2227人	
回答率	34.6%			51.2%		

平成25(2013)年度「短期受入れ(3カ月以上)」は、多くの調査対象留学生在が平成25(2013)年9～10月に渡日し、1年の留学期間を終えるタイミングでの調査だったため、51.2%もの回答率が得られた。一方、平成25(2013)年度「短期受入れ(3カ月未満)」は、ほぼ平成25(2013)年度中にプログラムが終了しており、調査時点で、調査対象留学生在は派遣元大学に戻って半年以上を経過しているため、回答率は34.6%に留まった。しかし、平成23・24(2011・2012)年度の「ショートビジット」が日本人学生を主な対象にしているにも関わらず、いずれも30%を下回ったのに対して、派遣元大学に戻った留学生在からの回答として考えれば、かなり高い回答率であったと思われる。

調査時点で、留学期間を修了していない留学生在が、「短期受入れ(3カ月未満)」の回答者1,114名中36名、「短期受入れ(3カ月以上)」の回答者1,044名中96名が含まれたが、解析の精度を上げるため、本稿では留学期間を終了していなかった回答者は、基本的に除外して解析を行った。

学校種別の割合では、「3カ月未満」が高等専門学校3.8%、短期大学0.2%、「3カ月以上」が高等専門学校1.8%、短期大学0%と、4年制大学以外はわずかにとどまるが、平成23・24(2011・2012)年度の派遣関係の割合に比べ、それぞれ倍近くの数字となっている。

表3に、回答者の男女の割合を示す。「3カ月未満」は男女比が1:1に近いが、「3カ月以上」では、女性の割合が多くなり、1:2に近づいている。ただし、男性、女性のそれぞれの回答率もこの数字に影響するため、この数字が正確な実態を反映しているかどうかは判断できない。

表3. アンケート回答者の男女の割合

性別	3カ月未満	3カ月以上
男性	43.6%	39.7%
女性	56.3%	60.2%
未回答	0.1%	0.1%

図2 (a) は、大学に所属する留学生の留学・研修開始時の学年の分布である。

(a) 留学・研修の開始学年(大学のみ対象)

(b) 留学・研修期間

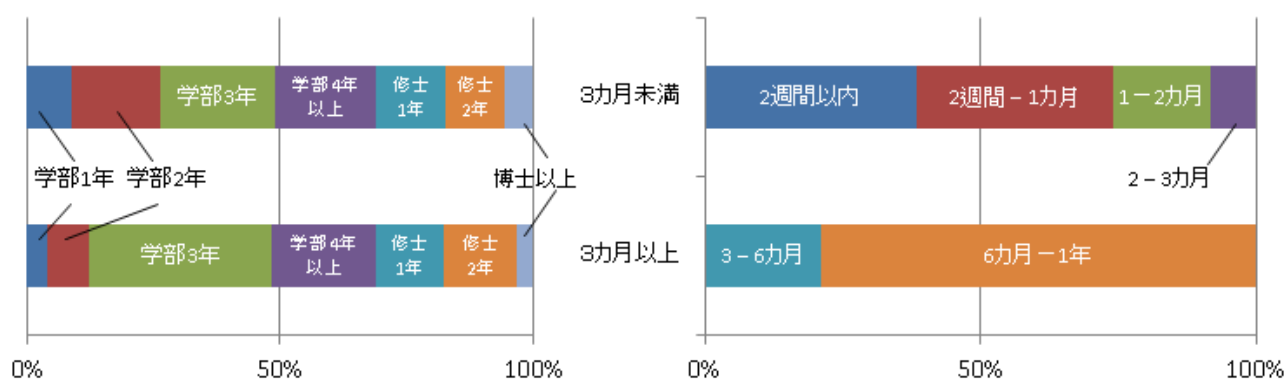
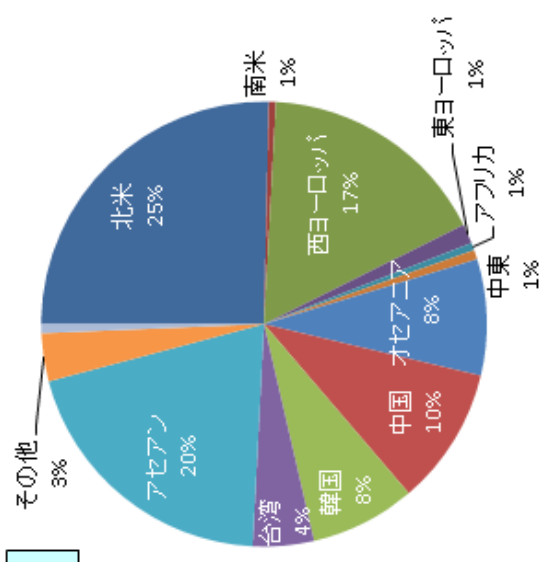


図2. 「短期受入れ」の留学・研修の開始学年と期間(平成25(2013)年度)

平成23・24(2011・2012)年度の「ショートビジット」(3カ月未満)の場合は、学部1・2年で留学する割合が50%以上を占めたが、「短期受入れ(3カ月未満)」の場合は26%に留まり、学部3年生を加えると50%を越える。「短期受入れ(3カ月以上)」の場合は、「同(3カ月未満)」に比べて、学部1・2年生の割合が減る分、学部3年生時の留学が大きく増え、全体の36%を占める。学部3年より上になると、「短期受入れ(3カ月未満)」と「同(3カ月以上)」との間で、学部4年以上(学部5・6年含む)、修士1年、修士2年、博士後期課程で、割合の差があまりないことは興味深い。

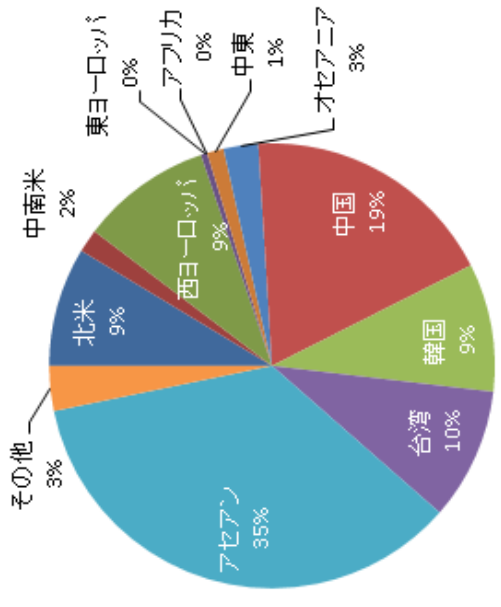
図2(b)は、留学・研修期間の分布である。「短期受入れ(3カ月未満)」では、2週間未満が38%、3-4週間を合わせて1カ月未満が74%を占める。派遣関係の平成24(2012)年度ショートビジットが2週間未満36%、3-4週間を合わせて1カ月未満で83%を占めていたほどではなかったが、同様に高い割合となった。「短期受入れ(3カ月以上)」では、6カ月以上が79%を占め、平成24(2012)年度3カ月以上の日本人派遣学生の75%が6カ月以上であったことと同様であった。

派遣 (2012)



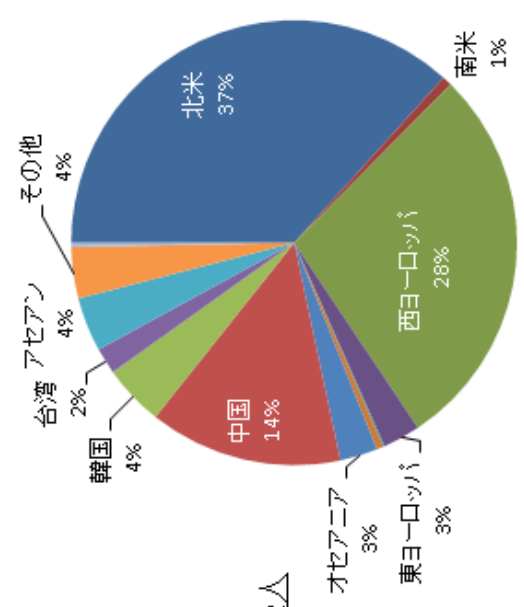
ショートビジット
(3カ月未満)
回答総数: 3,663人

受入 (2013)



短期受入れ
(3カ月未満)
回答総数: 1,078人

**短期派遣
(3カ月以上)**



短期受入れ
(3カ月以上)
回答総数: 1,044人

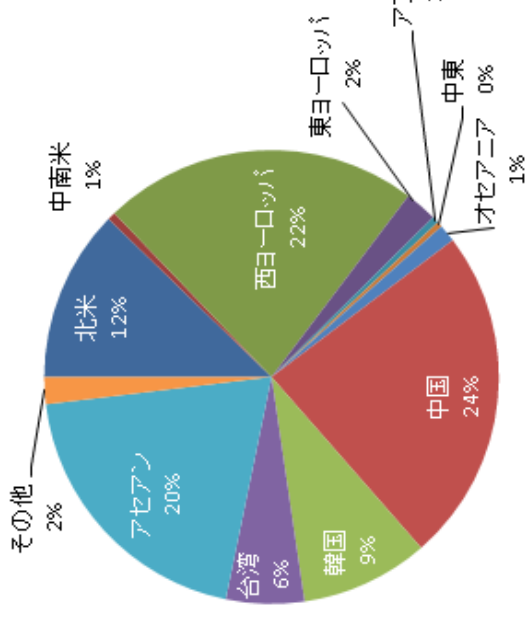


図3. ショートビジット・短期派遣(平成24(2012)年度)の派遣先地域と短期受入れ(平成25(2013)年度)の派遣元大学の所在地域

図3は、平成25(2013)年度「短期受入れ(3カ月未満)」と「同(3カ月以上)」で受け入れた留学生の派遣元大学の地域分布を示す。比較のために、平成24(2012)年度の「ショートビジット」(3カ月未満)と「短期派遣」(3カ月以上)における留学派遣先の地域分布も合わせて示した。交換留学を前提とした3カ月以上の短期派遣と短期受入れを比較すると、派遣先地域の37%を占める北米からの受入れが12%に留まっている。もう一つの有力な派遣留学の地域である西ヨーロッパへの派遣が28%に対して、受入れが22%であることと比べて、北米の受入れ割合がかなり低い状態は今後大変懸念される場所である。奨学金の支援がなくても留学してくる学生が一定数存在するとは言え、北米大学の場合、双方向で1:1の交換を厳しく要求することが多いため、受入れが不十分な状態が続けば、派遣も先細りになるおそれが大きい。中国からの短期受入れが24%を占めてやはり大きな割合となっているが、短期派遣の中国の割合も14%と留学が拡大しているため、以前に比べると受入れ一方ではなくなっている。図からも明らかのようにアセアン諸国から受入れが20%を占め、今後さらに拡大してくることが予測される。

一方、3カ月未満の「ショートビジット」と「短期受入れ(3カ月未満)」を比較すると、アセアン諸国からの受入れが昨今大きく拡大し、35%をも占める状況となっている。しかし、派遣も大きく拡大し20%を占めるまでとなっていることは、改めて注目すべきことである。3カ月未満のプログラムの場合、必ずしも双方向が求められないが、派遣の回答総数の3,663人のうち、欧米・オセアニア地域で、ちょうど半分の1,800人を占めるのに対して、受入れは約1,100人の回答総数に対して、3地域で21%の222名にすぎない。欧米・オセアニア地域に対して、派遣に偏らず、3カ月未満、3カ月以上の短期受入れの拡大を進めることも改めて重要ではないかと思われる。

図4(a)は、追加アンケート問1で尋ねている留学・研修に参加した留学生の、海外在住経験(海外生活、長期滞在など日常生活の基盤を海外に置いた経験)、そして図4(b)は海外旅行の経験である。さらに、図4(c)は海外旅行経験者の中で、通算した旅行期間について尋ねている。参考のために、平成24(2012)年度の派遣関係「ショートビジット」と「短期派遣(3カ月以上)」とも比較した。加えて、「短期受入れ(3カ月未満)」に対する派遣元大学の地域・国別クロス集計結果を合わせて示した。

平均化された各項目の数字の割合は、派遣関係と似た傾向を示したが、地域・国別クロス集計結果からは、地域・国によって顕著な差が現れた。中国を始めとしてアジア地域からの短期受入れ(3カ月未満)の参加者は、海外在住経験が少なく、海外旅行経験も比較的少ない。一方、北米、ヨーロッパ、オセアニア地域は海外滞在経験、海外旅行経験の割合が大きく上昇し、海外旅行期間も1カ月以上が7-8割を超える。ここに示していないが、「短期受入れ(3カ月以上)」の地域・国別クロス集計結果もほぼ同様の傾向であった。

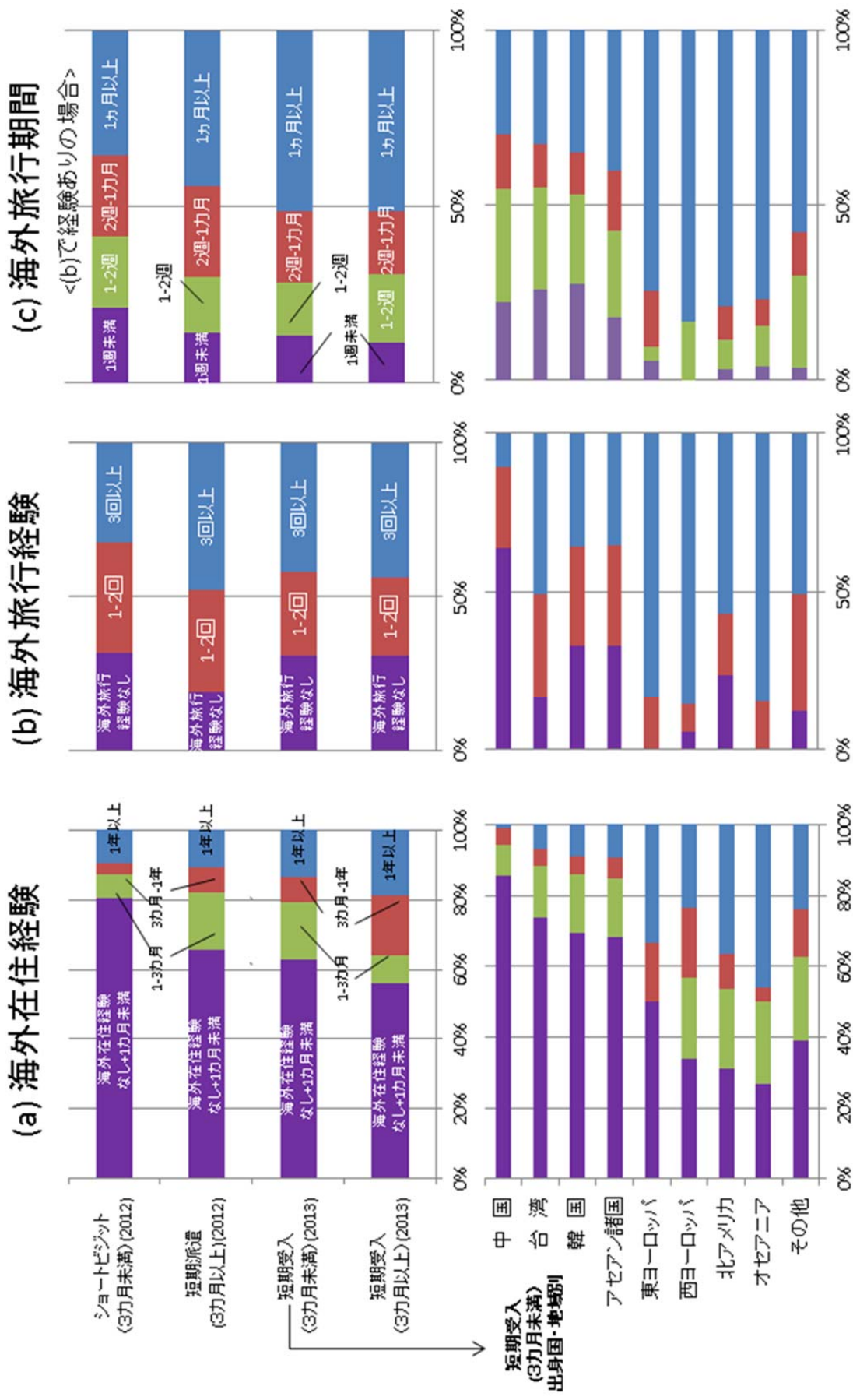


図4. 支援学生の海外在住経験と海外旅行経験

改めて、「短期派遣（ショートビジット）」（3カ月未満）の支援学生（主に日本人学生）の数字を振り返ってみると、海外旅行の未経験者は30%前後であるが、在住経験となると80%が「海外在住経験なしまたは1カ月未満」と回答しており、この数字は「短期受入れ（3カ月未満）」の場合の中国に近い数字である。北米、西ヨーロッパ、オセアニア地域からの学生が、1カ月以上の海外在住経験者が6-7割に達する状況と比べて、日本の学生が海外の生活を経験する割合が非常に低いことが改めて確認された。

尚、全体を平均した数字であるが、「短期受入れ（3カ月以上）」留学生は、「短期受入れ（3カ月未満）」に比べて、3カ月以上の海外在住経験のある者の割合が21%から36%に大きく増えている。これにより、派遣の場合と同様に、「短期受入れ（3カ月未満）」が「短期受入れ（3カ月以上）」等の長期の留学の呼び水となる効果がここでも推測できる。

図5は、留学へ出発する前のオリエンテーションと渡日後のオリエンテーションの有無についての回答である。

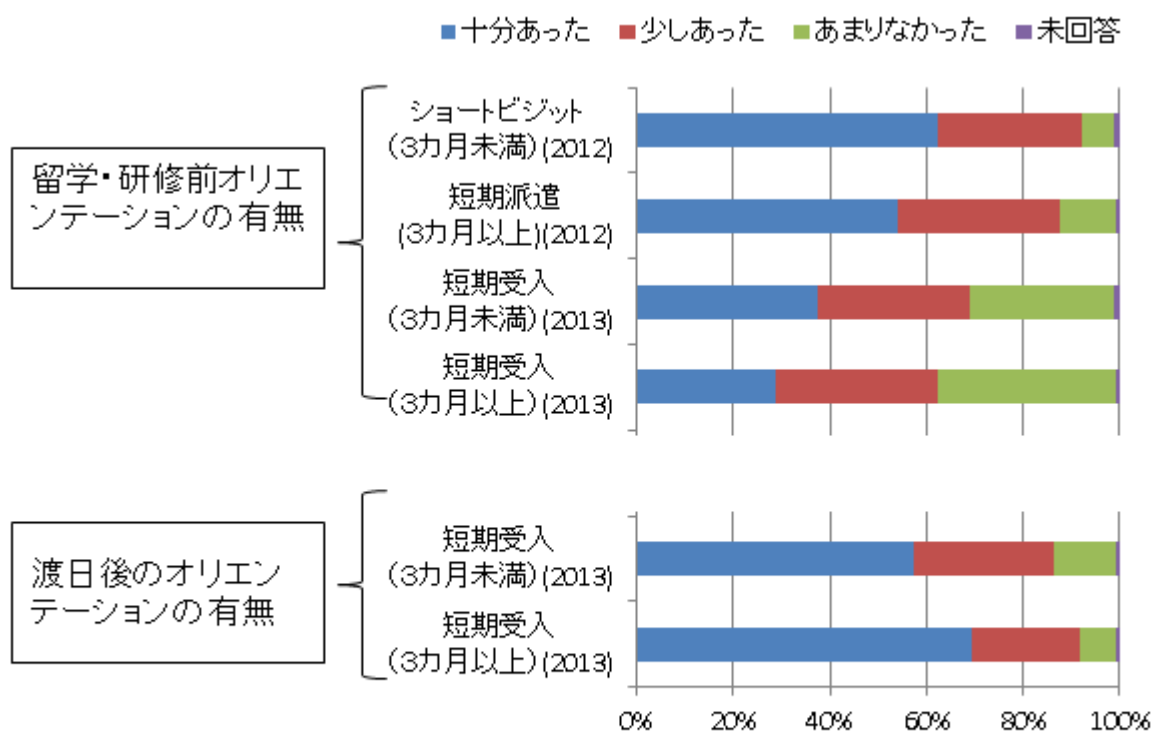


図5. 留学・研修前オリエンテーション、渡日後オリエンテーションの有無

平成24（2012）年度の派遣関係とも比較したが、派遣関係では留学後のオリエンテーションの有無は尋ねていなかったため、留学前オリエンテーションの有無のみが比較できる。平成25（2013）年度の派遣関係のアンケート回答では、「十分あった」との回答は、「ショートビジット」62%、「短期派遣」54%であり、「少しあった」との回答を含めると、それぞれ92%、88%に達した。しかし、短期受入れ留学生に対する派遣元大学でのオリエンテーションは、「十

分あった」との回答が「3カ月未満」36%、「3カ月以上」26%と低く、「少しあった」との回答を含めてもそれぞれ67%、57%という状況であった。渡日後のオリエンテーションは、「十分あった」との回答が、短期受入れ（3カ月未満）57%、短期受入れ（3カ月以上）70%となり、「少しあった」を加えるとそれぞれ87%、92%に達する。昨年の『留学交流』で報告しているように、オリエンテーションは留学の成果を向上させる効果もあるため、留学前のオリエンテーションについて派遣元大学に要請することが望ましいと思われる。

自己評価に基づく海外留学・研修の効果

アンケート問2においては、平成23・24（2011・2012）年度の派遣関係の調査と同様に、本制度を利用して経験した日本留学・研修の効果について、学業関連4項目、語学関連4項目、異文化理解関連5項目、進学・就職関連3項目、そしてその他4項目の全20項目から“複数回答可”として選択させている。これらの分類と各項目の設問内容は、ほとんど同じ内容である（日本からの海外留学と海外から留学生受入れの違いに基づく表現の修正のみ）。20項目の各項目について、何%の留学生が選択したかを集計したデータを図6に示す。派遣関係と同一またはほぼ同じ内容の質問項目であるため、比較のために、平成24（2012）年度の派遣関係の結果と合わせたものを図7に示す。

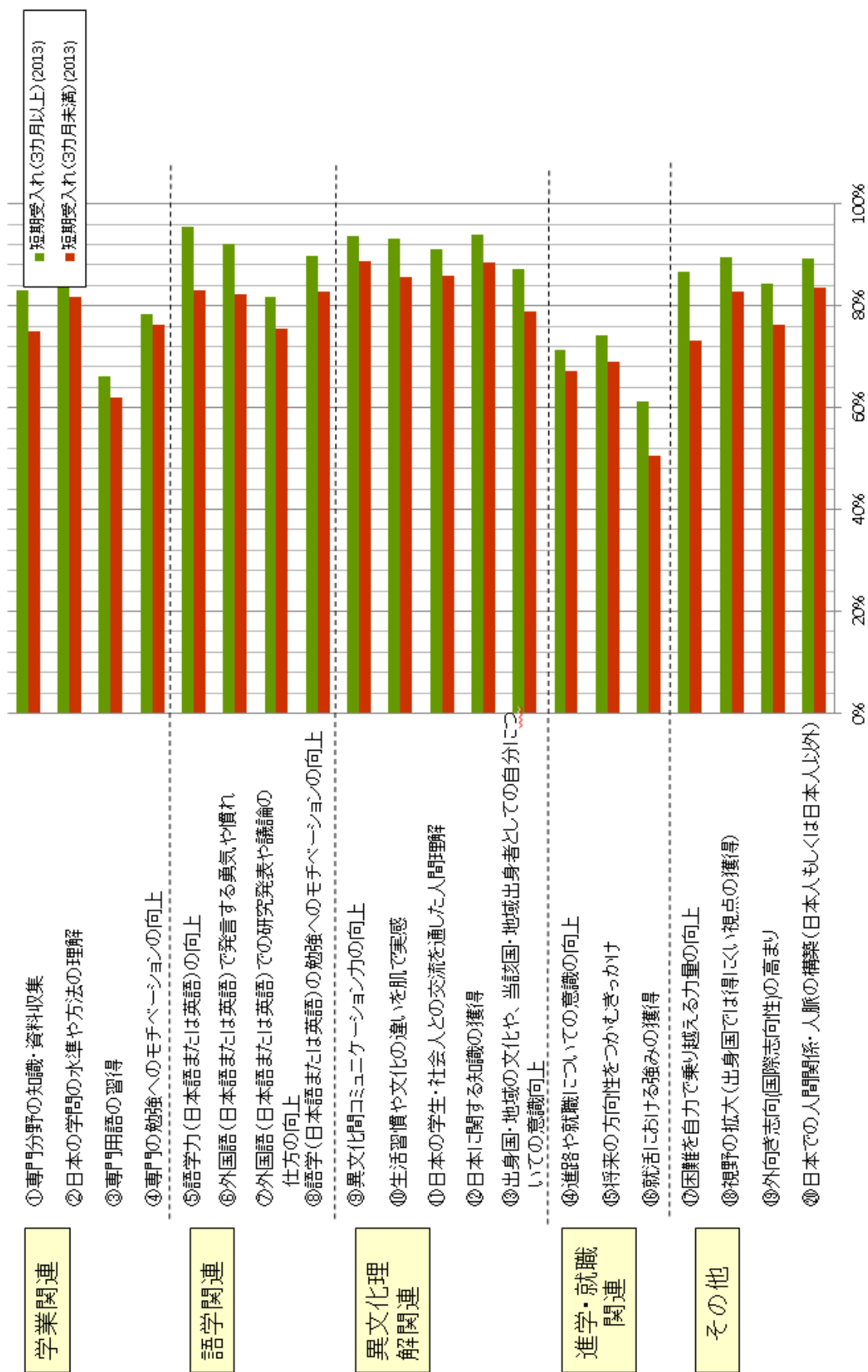


図6. 留学・研修を経験して獲得した効果(平成25(2013)年度留学受入)
(各項目について効果有りを選択した学生の割合を%で表示)

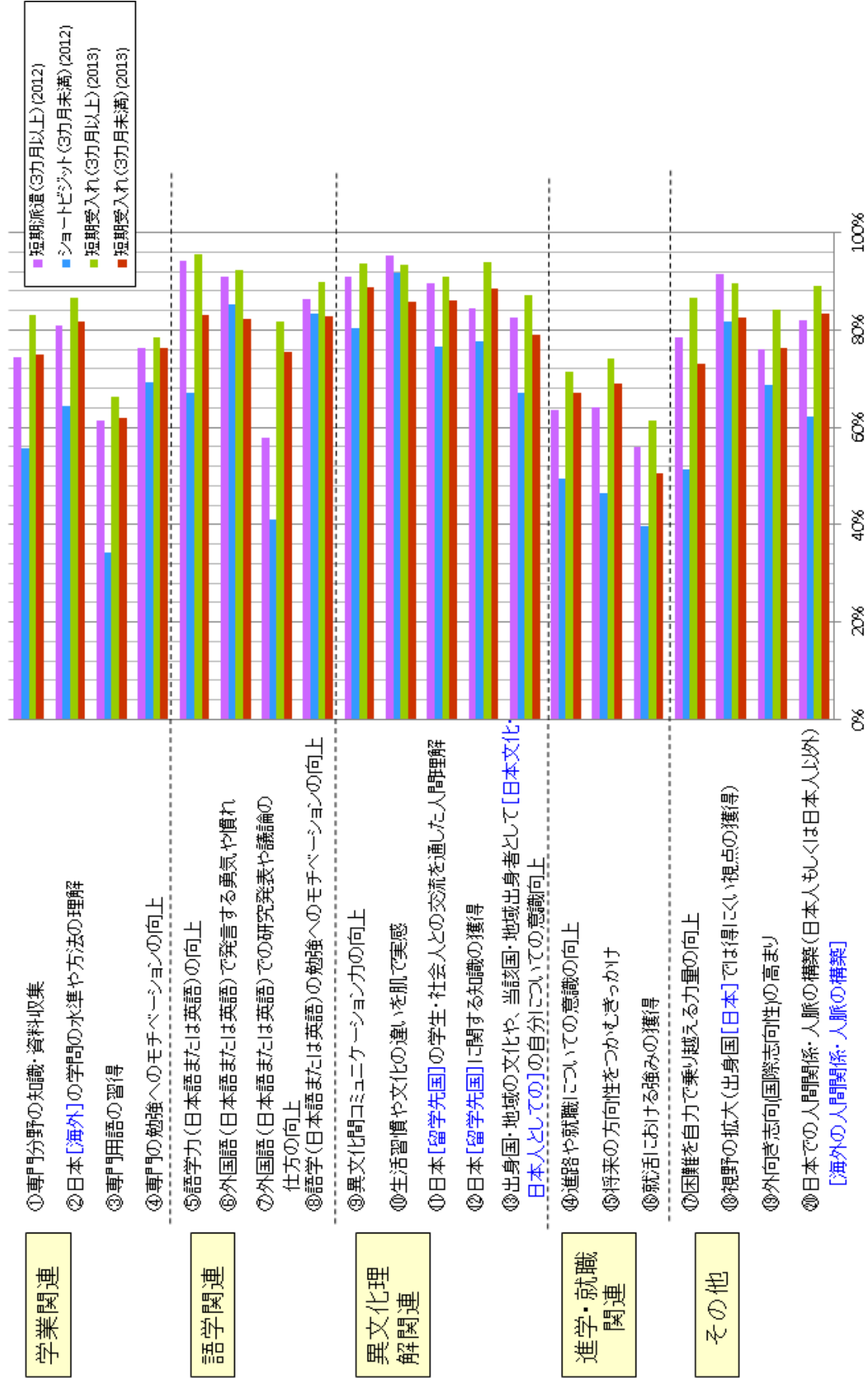


図7. 留学・研修を経験して獲得した効果(平成24(2012)年度短期派遣・ショートビジット及び平成25(2013)年度短期受入れ(3カ月未満・3カ月以上)) (各項目について効果有りを選択した学生の割合を%で表示。項目名内の[](青字)内は、派遣関係の質問表現。)

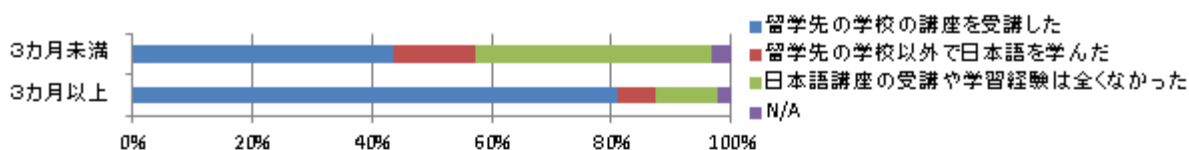
質問した全部の項目に対して、いずれも 50%以上の回答者が「効果があった」と回答している。質問項目の中で、「③専門用語の習得」と進学・就職関係の⑭～⑯項目が他に比べてやや数字が低い（50～70%）、その他の項目は 70%以上が「効果があった」と回答し、語学関連と異文化理解関連の数字がとくに高くなっている。「短期受入（3カ月以上）」と「同（3カ月未満）」を比較すると、「⑤語学力の向上」、「⑥外国語で発言する勇気や慣れ」、そして「⑰困難を自力で乗り越える力量の向上」の3項目で、やや開きがあるが、その他はいずれも数字が似通っており、「短期受入（3カ月以上）」が他方を常に上回っている。

図7において昨年の派遣関係と合わせて比較したが、よく似た傾向を示し、「短期受入れ（3カ月以上）」は「短期派遣」（3カ月以上）を、「短期受入れ（3カ月未満）」は「ショートビジット」（3カ月未満）をほとんどの項目で上回る。「短期派遣」関係の調査対象はほとんどが日本人であるが、今回対象の「短期受入れ」の調査対象は、様々な地域・国からの多様な留学生であることを考えると、これだけ数字に近い結果となったことは、興味深い結果であった。

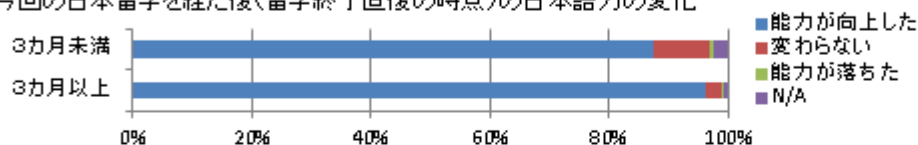
留学・研修後の語学能力と学業成績の向上

図8は、アンケートの問3において、留学・研修後に語学能力が向上したかどうかを尋ねた結果である。「短期受入れ（3カ月以上）」の場合、80%以上が留学先学校の日本語講座を受講し、90%近くがなんらかの形で日本語講座を受講している。一方、「短期受入れ（3カ月未満）」は、留学先学校の日本語講座受講は43%に留まり、他の場所での受講を含めても60%弱に留まる。「短期受入れ（3カ月未満）」に採択されているプログラムには、日本語学習以外を主な留学目的としている短期間のプログラムが多数含まれているため、数字に表れてきている。

【問3-1】日本留学中の日本語の講座(参加プログラムの授業以外の講座も含む)受講について

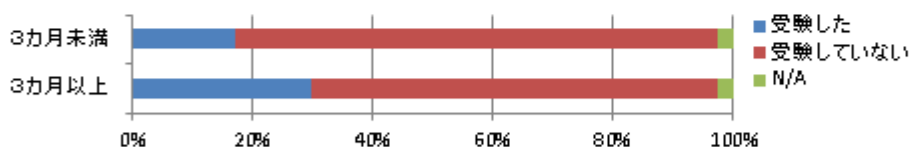


〔上の質問で「留学先の学校の講座を受講した」または「留学先の学校以外で日本語を学んだ」の選択者のみ〕
今回の日本留学を経た後(留学終了直後の時点)の日本語力の変化



【問3-2】日本留学の前や、日本留学開始後に、日本語能力試験(JLPT)、日本留学試験(EJU)等の日本語能力を測る試験の受験について

〔留学前〕日本留学開始前1年以内に語学試験を受験したか。



〔留学後〕日本留学開始後に語学試験を受験したか。

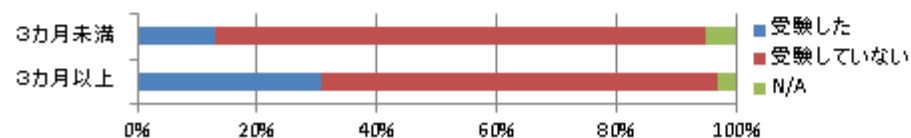
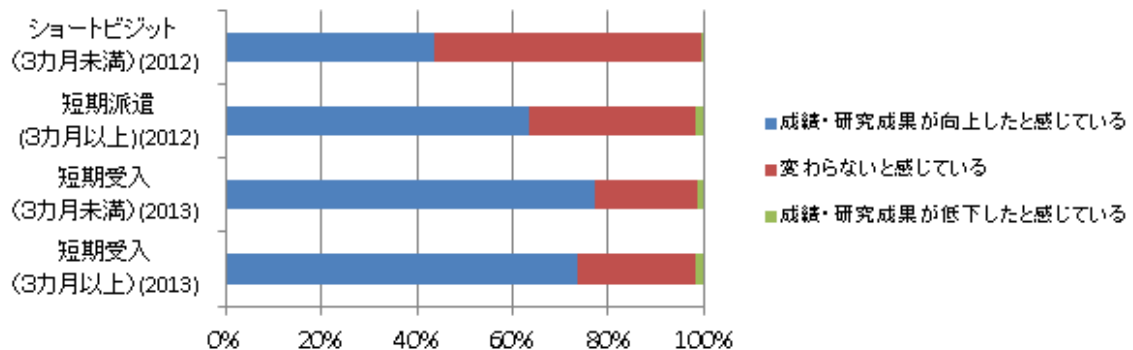


図8. 留学・研修後の日本語能力の向上

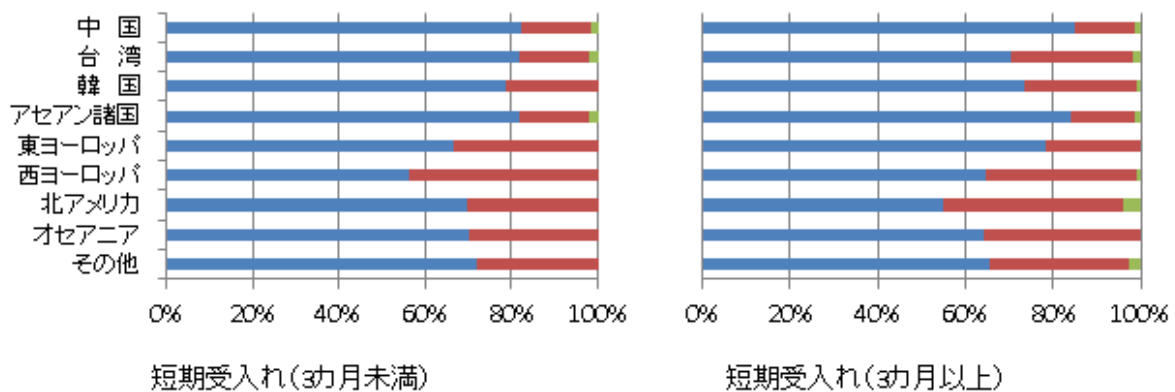
昨年の派遣関係の調査結果と比較すると、「短期受入れ(3カ月以上)」や「短期派遣」(3カ月以上)の場合はどちらも滞在が長期にわたるため、90%の対象者が語学力向上を回答するのは当然として、「短期受入れ(3カ月未満)」は日本語講座受講者の87%が日本語能力向上を回答している。一方、「ショートビジット」(3カ月未満)の場合は、語学力向上を回答した割合は、60-70%に留まっている。図9は、留学・研修後に学業成績が向上したかを尋ねた結果であるが、派遣関係のデータとも比較し、さらに地域・国別のクロス集計結果を比較した。派遣関係の場合、学業成績向上を回答したのは、「ショートビジット」(3カ月未満)が41%、「短期派遣」(3カ月以上)が60%に留まったことに比べ、「短期受入れ(3カ月未満)」が76%、「同(3カ月以上)」は72%が回答している。3カ月以上の派遣または受入れは、1学期または1年の間に所定の単位数を取得するケースが多いため、学業成績の向上を自覚することは当然と思われるが、「短期受入れ(3カ月未満)」でも高い数字を示したことは、日本の各大学等がプログラム内で取り組んでいる内容が、参加留学生の学業成績にも十分に貢献していることが裏付けられた。

地域・国別クロス集計の結果は、中国、台湾、韓国の漢字圏とアセアン諸国の数字が全体的に高く、北米、ヨーロッパ、オセアニアの数字がやや下がる傾向が浮かび上がる。欧米・

オセアニア諸国の学生らは、学業に関わるプログラム内容としてより厳しい評価をしている傾向にあると思われる。



(a) 平成24(2012)年度短期派遣・ショートビジットと平成25(2013)年度短期受入れの比較



(b) 平成25(2013)年度短期受入れの地域・国別クロス集計

図9. 留学・研修後の学業成績について

社会人基礎力と異文化理解・活用力の自己評価

図10は、社会人基礎力12項目および異文化理解・活用力3項目に対する、(a)自己評価点(0~3の4段階評価)と、その評価が留学・研修後に向上したかどうか(能力向上(1)、変化なし(0)、能力低下(-1))の評価点を平均した結果であるが、比較のため、派遣関係と合わせてグラフに示す。

まず、「短期受入れ(3カ月以上)」と「同(3カ月未満)」のどちらにおいても、各項目に対する自己評価はいずれも高く、全体的な傾向はよく似ている。図3で見たように、「同(3カ月以上)」と「同(3カ月未満)」では受け入れた留学生地域分布が大きく異なるにもかかわらず、各項目の自己評価の数値は驚くほど近く、ほとんど差がないほどである。一方、派遣関係と比較すると、「14 異文化理解力」や「15 異文化間コミュニケーション力」の場合はほぼ差がないが、他の項目ではいずれも0.2~0.4ポイント高い自己評価の結果が見られる。

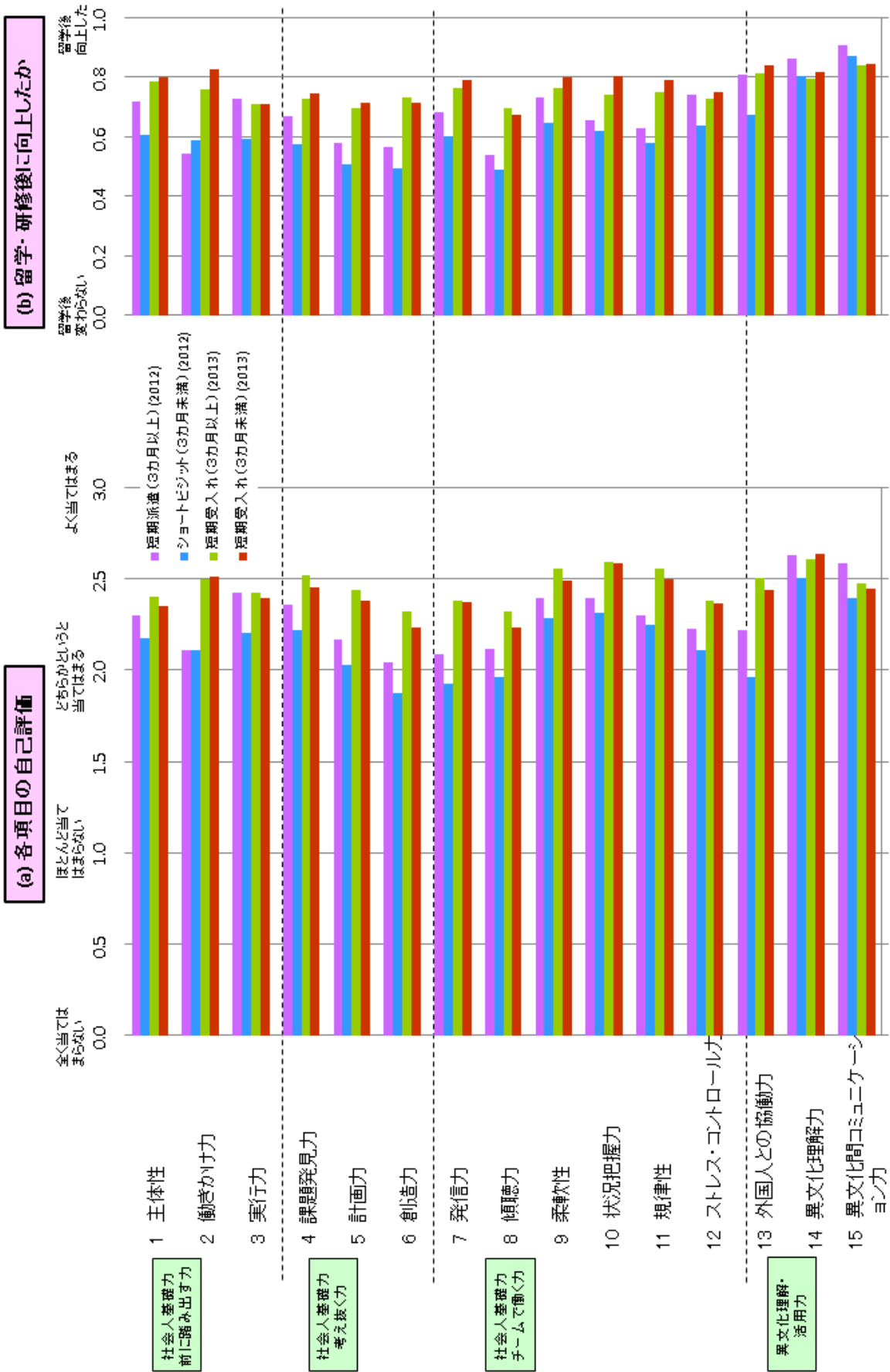


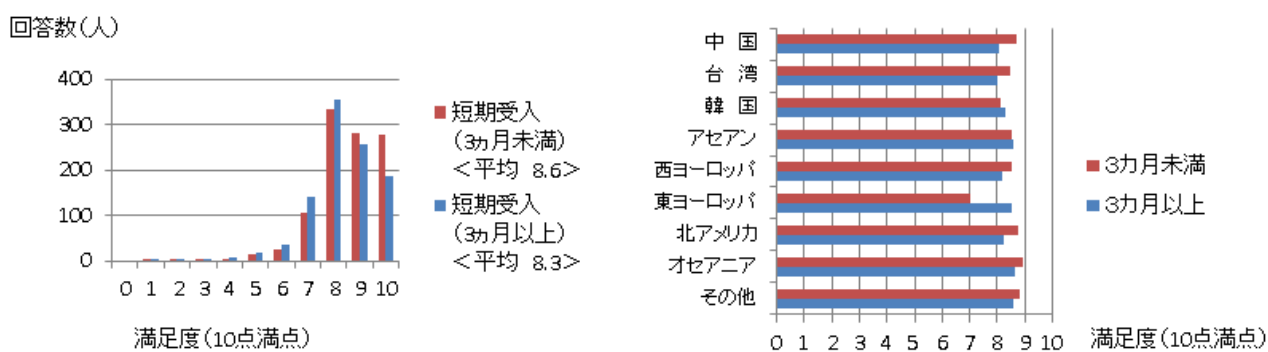
図10. 社会人基礎力／異文化理解・活用力の自己評価と留学・研修後の能力向上

これら各項目が留学・研修後に向上したかどうかについての平均値は、ほとんどが 0.7 を上回った。「能力が低下した(-1)」と回答した留学生はすべての項目で1%以下であり、マイナスの効果はほとんど無視できるため、数字は「能力が向上した(+1)」と回答した留学生の割合をほぼ示している。派遣の調査の際は、各項目とも 0.5 を上回ったことを報告したが、受入れの場合はさらに数値が高い結果となった。

図7の結果と考え合わせると、本制度で受け入れた留学生は、日本の学生が海外大学に留学して体感してくるものとほぼ同様に留学の効果を感じとり、留学経験によって、社会人としての基礎力や異文化理解力・活用力の各能力が大きく向上したと自己分析していることが確かめられた。

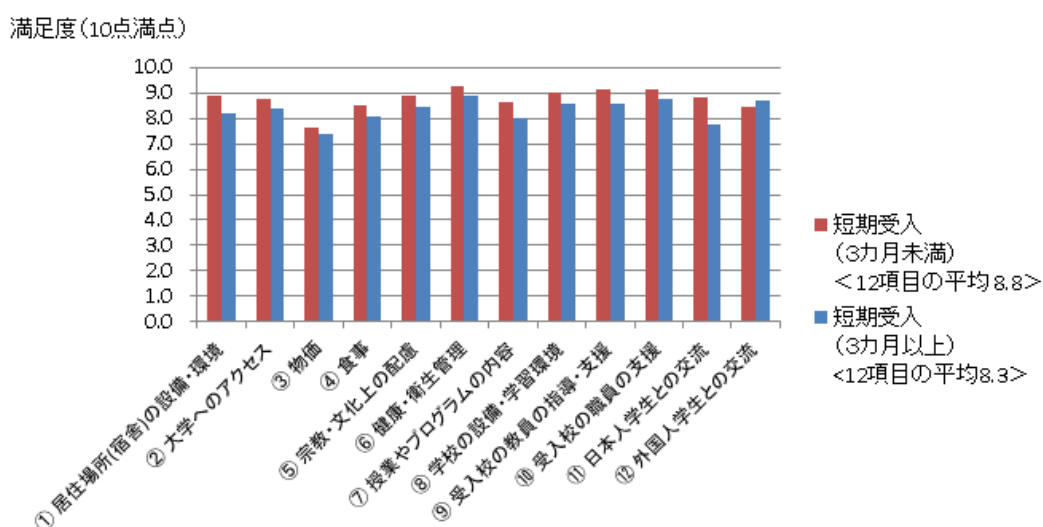
留学目的の達成度と受入れ環境の満足度

図11(a)は、留学目的の達成度(満足度)を10点満点として回答した満足度の分布を示す。



(a) 留学目的の達成度(満足度)の全体の分布

(b) 留学目的の達成度(満足度)の地域・国平均



(c) 受入れ環境の満足度(10点満点の平均値)

図11. 留学目的の達成度(満足度)と受入れ環境の満足度

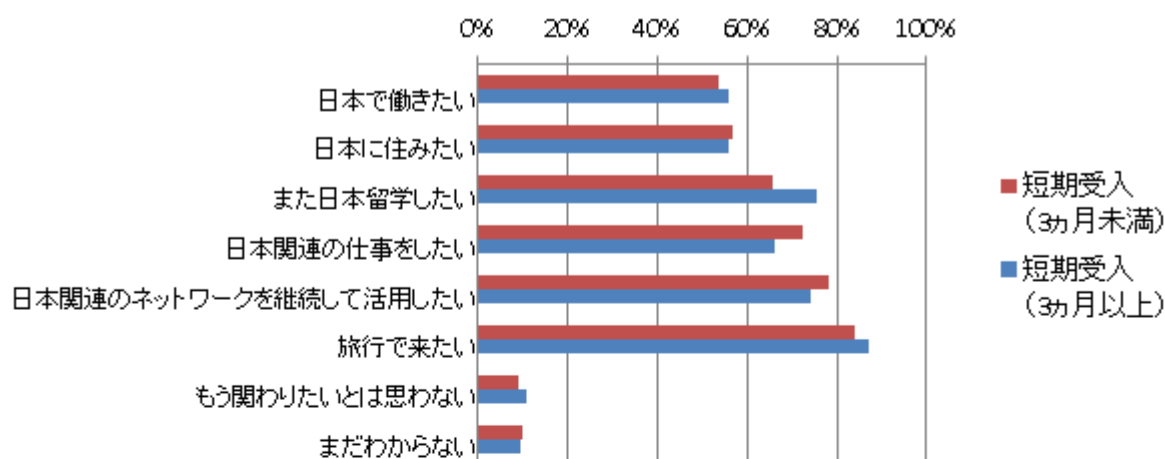
派遣関係の場合と同様に、8点の満足度の回答者が最も多く、平均値は、「短期受入れ(3

カ月未満)」が 8.6 点、「短期受入れ（3カ月以上）」が 8.3 点であった。平成 24（2012）年度の派遣関係の「ショートビジット」（3カ月未満）7.6 点、「短期派遣」（3カ月以上）8.0 点と比べて数字が上回り、「短期受入れ」の方では、3カ月未満の方が満足度の高い結果となっていることは特筆すべきである。地域・国別のクロス集計によって、満足度の差が現れるかと想像したが、図 1 1 (b)の通り、東ヨーロッパの「短期受入れ（3カ月未満）」を除いて、ほとんど差が現れなかった。東ヨーロッパの該当データは 5名の回答者のデータであるため、統計的には有意なデータであるとは言い難いが、何か特殊な理由があるのかもしれない。

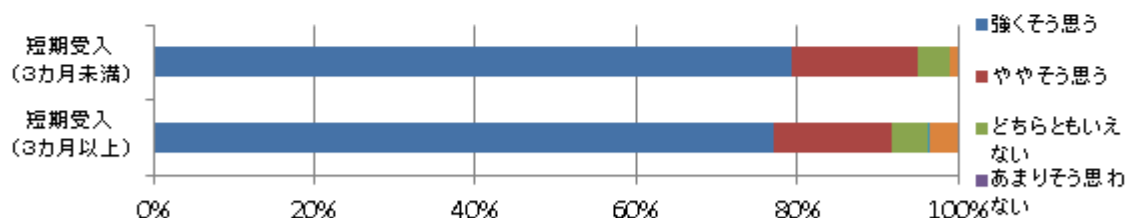
今回の「短期受入れ」関係の調査では、全体の満足度とともに、種々の受入れ環境への満足度についても調査を行い、各調査項目の満足度の平均値を比較したものが図 1 1 (c)である。こちらも概ね満足度の高い回答であり、「短期受入れ（3カ月未満）」の方がほとんどの項目で「同（3カ月以上）」を上回っている。調査項目の中では、「③物価」に対する満足度が最も低くなっているが、受入大学側として対策の施しようがない。「⑫外国人学生との交流」の項目のみ「同（3カ月以上）」がやや上回っており、一方「⑪日本人学生との交流」では、「同（3カ月以上）」の数字が平均以上に下がっている。「同（3カ月以上）」の方が、日本に長く滞在するので、日本人学生との交流が十分に確保できるはずであるが、受入れ留学生同士の交流の方が活発で、日本人学生との交流が少ないとの批判的意見を、日本の大学関係者が交換留学生からよく聞くことを裏付けた格好となっている。

佐藤由利子が 2011-13 年に、米国およびオーストラリアから日本の短期（交換）留学プログラムに参加した留学生に対する幅広いアンケート調査を行ったが、留学時の主な問題点として「英語による専門分野の授業の質が思っていたより低かった」と「日本人の英語力のなさにより十分にコミュニケーションできなかった」の 2項目が最も高い割合であったことを指摘している¹²。図 1 1 (c)を見ると、それほど目立たないが、「短期受入れ（3カ月以上）」の中で「③物価」に次いで数字が低いのは、「⑪日本人学生との交流」、そして「⑦授業やプログラムの内容」が続く。図に示していないが、「⑦授業やプログラム内容」に対する満足度が全体平均で 8.0 に対して、地域・国別クロス集計では、半数以上を占める中国・韓国・アセアンの平均値 8.4 に対して、北米 7.6、西ヨーロッパ 7.3 であるため、北米・オーストラリアを調査対象とした佐藤の調査結果を一部裏付ける。一方、「⑪日本人学生との交流」の方は、地域・国別の差は少ない。

図 1 2 (a)は、将来、日本とどう関わりたいかを尋ね、選択肢から複数回答可として回答してもらったものについての、各選択肢の回答率である。「短期受入れ（3カ月未満）」と「同（3カ月以上）」とでは回答者が全く異なるが、いずれの項目も同様な回答率となっていることは驚きである。「日本に住みたい」はもちろん、「日本で働きたい」や「また留学をしたい」も含めて、半数以上が長期に日本に住む（滞在する）ことを望んでいる結果である。



(a) 【問7-2】 将来日本とどのように関わりたいと思いますか (複数回答可)



(b) 【問7-3】 同級生、後輩等に日本留学を勧めたいと思いますか

図12. 将来日本との関わりと同級生・後輩への日本留学の勧め

図12(b)は、同級生、後輩等に日本留学を勧めたいかを尋ねた結果である。「短期受入れ(3ヵ月未満)」も、「同(3ヵ月以上)」も、「強くそう思う」が80%近くであり、「ややそう思う」を含めると本制度参加者の90%以上が、後輩や同級生に日本留学を勧める、との回答であることが確認された。

クロス集計と傾向分析

以上で、基礎データや質問項目の一通りの回答結果を紹介したが、さらに(1)派遣元大学の所属学部が文系か理系か(判別があいまいなものは、「その他」に分類)、(2)留学開始時の派遣元大学での学年(学部1・2年、学部3・4年、修士課程、博士課程)、そして(3)派遣元大学の国・地域(中国、台湾、韓国、アセアン諸国、東ヨーロッパ、ヨーロッパ、北米、オセアニア、その他に分類)に基づくクロス集計を行った。派遣元大学の国・地域に基づくクロス集計結果の一部は、図4、図9、図11で紹介しているが、クロス集計結果に基づいた全体の傾向分析を行い、「短期受入れ(3ヵ月以上)」は表4に、「同(3ヵ月未満)」は表5にまとめた。

表4 「短期受入れ(3カ月以上)」対象者の傾向分析

- 受入れ学校種別
 - ・理系学生は国立大学への受入れが圧倒的に多い(全体平均65%に対し、約80%)
 - ・北米からの受入れは、私立大学が多く、アセアン諸国、オセアニア、東ヨーロッパからの受入れは国立大学が多い
- 留学開始時の学年
 - ・文系が学部3・4年(全体の63%)に集中しているが、理系は学部3・4年(全体の41%)と修士課程(全体の48%)と、高学年に動いている
 - ・北米、韓国からの受入れは、学部3・4年(それぞれ83%、75%)に集中している
 - ・修士課程の学生受入れでは、アセアン諸国、西ヨーロッパからの受入れ割合が高くなる(それぞれ44%、43%)
- 留学中のインターンシップ経験者は、文系14%に対して、理系学生は31%。
- 留学の効果
 - ・低学年参加者ほど、語学関連の効果を実感
 - ・高学年参加者ほど、学業関連(専門分野の知識、専門の勉強へのモチベーション)、進学・就職関連、人脈の構築の効果を実感
 - ・日本語力は学部参加が、効果をより実感。
- 社会人基礎力と異文化理解・活用力の自己評価
 - ・対象者の50%以上が各項目の能力の向上を実感しているが、アジア地域(中国、台湾、韓国、アセアン諸国)は、向上を評価している割合が10%以上高い。
- 留学目的の達成度(満足度)
 - ・高学年参加者ほど、達成度(満足度)が高くなる傾向

表5 「短期受入れ(3カ月未満)」対象者の傾向分析

- 受入れ学校種別
 - ・理系学生は国立大学への受入れがやや多い(全体平均64%に対し、約70%)
 - ・北米・西ヨーロッパからの受入れは、私立大学が多く、アセアン諸国、韓国、台湾からの受入れは国立大学が多い
- 留学開始時の学年
 - ・文系が学部1・2年(全体の40%)と学部3・4年(全体の40%)に集中しているが、理系は学部3・4年(43%)と修士課程(31%)と高学年に動いている
 - ・北米、韓国、オセアニアからの受入れは、学部(それぞれ78%、80%、89%)に集中するが、中国、台湾、アセアン、ヨーロッパは、修士課程の学生参加が25%を超える
- 留学中のインターンシップ経験者は、文系12%に対して、理系学生は35%
- 日本語講座
 - ・文系学生の70%が受入れ大学等における日本語講座を受講しているが、理系学生は30%に留まっている。
- 留学の効果
 - ・低学年参加者ほど、異文化間コミュニケーション力の向上、生活習慣・文化の違いを認識し、語学(日本語または英語)勉強のモチベーション向上を実感
 - ・高学年参加者ほど、学業関連(専門分野の知識、専門の勉強へのモチベーション)、進学・就職関連、人脈の構築の効果を実感
 - ・日本語力は学部参加が、効果をより実感。
- 社会人基礎力と異文化理解・活用力の自己評価
 - ・対象者の40%以上が各項目の能力の向上を実感しているが、アジア地域(中国、台湾、韓国、アセアン諸国)は、向上を評価している割合が約20%以上高い。
- 留学目的の達成度(満足度)
 - ・高学年参加者ほど、達成度(満足度)が高くなる傾向

全体のまとめ（１）－「短期受入れ（３カ月以上）」

「短期受入れ（３カ月以上）」のカテゴリーは、もともと『留学生交流支援制度』の前身である『短期留学推進制度』が平成７（１９９５）年度に策定された際に開始されたものである。一部の私立大学で先行して実施されていた１学期ないし１年間の「短期留学受入れプログラム」（または「交換留学受入れプログラム」と呼ぶ）を、国立大学等主要大学に大きく拡げ、留学生受入れの一定の割合を構成するべく発展してきた。当初は、各大学での英語による授業を中心とした「短期留学受入れプログラム」の設立を推進するために、英語プログラムに対する奨学金割当の優先枠が設けられたが、『短期留学推進制度』から『留学生交流支援制度』への再編の際に、特色をもった「短期留学受入れプログラム」を１大学から複数申請できることとなり、加えてこの数年間の制度の変更により、多様な「短期留学受入れプログラム」が加わる形となっている。

「短期受入れ（３カ月以上）」で支援される留学生の場合、図２より８０％近くが６カ月以上の滞在であり、その多くが１学期ないし１年の間、派遣先大学である日本の大学で単位取得が基本的に義務づけられる（大学院における研究を中心とする受入れも可能であるが、相当する研究成果の報告が同様に義務づけられている）。また「短期受入れ（３カ月以上）」の支援学生の８０％が日本語講座を受講している（図８．問３－１）。異なる文化・習慣の中で生活をしながら、短期間に学業成果を上げることは、大きなストレスがかかることとなるが、必死に内容を理解する努力を行い、ディスカッションやプレゼンテーションを行うことを通じて、コミュニケーション能力や語学力も飛躍的に向上する。また、人間関係でも、自らを奮い立たせ、積極的に人間関係をつくることによって、文化、習慣、宗教等の違いを理解し、国際的視野が広がる経験をする。

このような観点で図７および図１０を見直すと、図７の留学の効果では、「短期派遣」（３カ月以上）とほぼ同様に、「学業関連」で①専門分野の知識や②専門用語の習得、④専門勉強へのモチベーション向上、「語学関連」では⑤語学力、⑥外国語で発言する勇気や慣れ、⑧語学勉強へのモチベーション向上、「異文化理解関連」の⑨～⑬、そしてその他項目では⑰困難を自力で乗り越える力量の向上、⑱視野の拡大、⑲国際指向性の高まり、⑳海外の人間関係・人脈の構築、の回答率が高いことを確認でき、ほとんどの項目で、「短期派遣」（３カ月以上）の数値を上回る。また図１０の自己能力の評価と向上については、ほとんどの項目で高い自己評価と留学後の向上を認識している。項目間の差はわずかであるが、１主体性、２働きかけ力、７発信力、９柔軟性、１３外国人との協働力、１４異文化理解力、１５異文化間コミュニケーション力は、中でも特に向上したことを自己評価している。全体の留学目的の達成度（満足度）（図１１）でも、「短期受入れ（３カ月未満）」をやや数字で下回るものの、派遣関係の数字を上回る結果である。

多くの大学で、１学期ないし１年間の「短期留学受入れプログラム」が毎年のように受入れ人数を拡大してきている状況から、「短期受入れ（３カ月以上）」の対象学生から、一定の評価を期待していた一方で、様々な地域・国から留学生を受入れ（図３）、海外経験もかなり

異なる（図4）ため、異なる結果も予想されたが、派遣関係と概ね傾向がよく似ており、留学の効果の各項目平均値はむしろ高い評価結果となった。図11(b)が示すように、全体としての留学目的の達成度（満足度）において、国・地域の差があまり出なかったことは意外である。しかし、図11(c)（受入れ環境の満足度）で指摘された、「授業やプログラム内容」「日本人学生とのコミュニケーション」については、今後改善の努力が必要かと思われる。

図12(a)「将来の日本と関わり」は、留学を終えたばかりの対象者に尋ねており、希望的な観測による回答である。しかし、長年「短期（交換）留学受入れプログラム」を運営してきた関係者にとっては、短期（交換）留学の経験者が一定の割合で、日本の大学院へ進学したり、日本との関わりをもつ会社に就職して日本を頻繁に訪れたり、日本に滞在している事例を数多く知る。「短期受入れ（3カ月以上）」の対象者は、日本滞在が長いだけ愛着も強くなり、この数字の期待度は確実に大きいと考えられる。できるならば、今回の調査対象者の将来の追跡調査を是非進めたいところである。

全体のまとめ（2）－「短期受入れ（3カ月未満）」

このカテゴリーは、平成25（2013）年度『留学生交流支援制度（短期受入れ）』の中の、「短期研修・研究型」として申請されたプログラムの対象者のうち、留学期間が3カ月未満の支援学生を取り出して分析したものである。平成23・24（2011・2012）年度に実施された『留学生交流支援制度（ショートステイ）』のカテゴリーにほぼ相当する。留学受入れ期間が8日間から3カ月未満のため、申請採択された留学・研修プログラムには、様々な目的を持った多種多様なプログラムが含まれている。受入れ大学の日本人学生との討議や文化交流等を加味した語学強化プログラムが多数含まれる一方、フィールドワークやインターンシップを中心とするもの、研究室での専門研究・研修、国際会議への参加等、多種多様なプログラムが申請され、採択されている。1学期ないし1年間の短期（交換）留学を実施しにくい分野や高等専門学校等にも、短期留学受入れの裾野を拡大することに大きく貢献したことは間違いない。

「短期受入れ（3カ月未満）」も、アジア地域、とくにアセアン諸国に偏りがあるものの、様々な地域・国から留学生を受入れ（図3）、地域・国によって海外経験もかなり異なる（図4）ため、それぞれのアンケート項目でデータがばらつくのではないかと予想されたが、「短期受入れ（3カ月未満）」受給者の回答の平均値は、留学の効果の評価（図6）も、社会人基礎力／異文化理解・活用力の自己評価（図10）も、そして留学目的・受入れ環境の満足度（図11）でも、「短期受入れ（3カ月以上）」とほぼ同じ傾向と同等の数字の結果が現れた。

これらはもちろん、本カテゴリーに申請・採択されたプログラムの内容が、それぞれ十分に充実したものであったことを裏付けるものである。ただし、昨年の派遣関係でも指摘したように、本調査では留学終了後の留学当事者の主観に基づく自己評価であるため、1カ月未満の滞在期間でも経験できる効果が、「短期受入れ（3カ月以上）」（79%が6カ月以上）の効果と同等であるとの誤解が生まれてはならない。

改めて指摘すれば、「短期受入れ（3カ月未満）」の主流である1カ月未満のプログラム参加者でも、そのプログラムの内容が充実していれば、大きな留学の効果を生むことは間違い

ない。それでも1カ月の留学滞在は、6カ月以上滞在し単位を持ち帰る「短期（交換）留学」に比べると、その国の社会制度や仕組みを十分に知るまでには至らず、一時訪問のお客さん的な滞在とならざるを得ない。

もちろん、交換留学へこの足を踏むような学生に対する、“お試し留学”としては大きく貢献することと思われる。文化・言語が大きく異なる欧米の学生のより長期の留学へとつながり、日本との関係を作り出す大きなきっかけになることは間違いない。また、日本より欧米諸国への留学を優先しがちなアジアの学生を呼び込むことでも大きな貢献となることと思われる。就職後のアジア経済圏におけるネットワーク構築にも大きく貢献することが期待される。

最後に

昨年の『留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）』の調査に引き続き、今回『同（短期受入れ）』に対して、全面的な追加アンケート調査が実施できたことは、大変大きな意義があった。

平成24（2012）年6月に文部科学省行政事業レビューにおいて、『留学生交流支援制度』に対して抜本的見直しが指示されたが、レビューの過程において、国費を使った留学支援にもかかわらず、一部に「遊学」の実態があるのではないかとの指摘があり、有効に反論できる調査データを示せなかったことも見直しの大きな要因となった。

平成25（2013）年度『留学生交流支援制度（短期受入れ）』は見直し後の制度であるが、平成23・24（2011・2012）年度『同（ショートステイ）』と平成25（2013）年度『同（短期受入れ）』の「短期研修・研究型」とでは、学業成績の条件が加えられた以外は学生の応募条件面での大きな変更はない（『同（短期受入れ）』は従来から学業成績の条件が課されており、派遣関係では語学力、家計基準が見直し後に課されている）。

調査結果から、「短期受入れ（3カ月未満）」も、「同（3カ月以上）」も、留学の効果、社会人基礎力／異文化理解・活用力の評価、留学後の学業評価、留学目的全体の到達度（満足度）の平均値が、派遣関係で得られた高い平均値をさらに上回る結果が得られた。また、そのような留学の成果が得られたからこそ、図12（将来日本との関わりと同級生・後輩への日本留学の勧め）においても将来を十分に期待される意見が寄せられている。日本の大学等関係者が、本制度の目的・趣旨を理解し、真摯にプログラムを立案して運営した成果であると思われる。

昨年の派遣関係の報告でも言及したが、今回のアンケート調査結果は本制度の支援対象となった学生の主観に基づく評価結果であり、留学の効果や利点を列挙することはできても、それが量的にどれほどの効果があるかを示すことは容易ではない。本来ならば留学前と比べて何がどれだけ変化したか、留学しない学生とどのような差が生ずるかを論ずることも肝要と思われる。また、回答者の主観的評価も一要素であるが、客観的、絶対的な指標も加えなければ、様々なデータの比較に限界がある。さらに、留学の効果は、留学直後の効果だけでなく、進路選択や就職活動、そして社会人として活躍する中で現れてくる。むしろ、社会人としての活躍の差に大きく反映されるのではないだろうか。従って、留学の効果を十分に説明するためにも、個人を追跡し、2-3年後、5年後、10年後も視野に入れた長期的な調査

も望ましい。

大変幸いなことに、平成 27 (2015) 年度も「海外留学支援制度評価分析委員会」として、委員会が継続することになり、2年間の調査を踏まえて、さらに留学の効果や評価の制度を高める工夫や、追跡調査、隠れている問題点や課題などを丁寧に調査していきたいところである。今後とも関係者からのご提案、ご意見、ご批判を是非仰ぎたい。

1. 野水勉・新田功(2014)「海外留学することの意義ー平成 23・24 年度留学生交流支援制度(短期派遣・ショートビジット)追加アンケート調査分析結果からー」『留学交流』Vol. 40, pp. 20-39.
2. 文部科学省 行政事業レビュー「公開プロセス」評価者のコメント(2012. 6. 20)
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/06/20/1322354_1.pdf
3. 海外留学支援制度ページ
http://www.jasso.go.jp/scholarship/kaigairyugaku_sienseido.html からリンクを設定。
4. 留学生交流支援制度・評価分析委員会ワーキンググループは、明治大学横田雅弘(主査)、一橋大学太田浩、東京外国語大学岡田昭人、駒澤大学坪井健、明治大学新田功、名古屋大学野水勉によって構成され、日本学生支援機構海外留学支援課の事務的サポートを受けた。
5. 岡田昭人(2012)「新しい国際教育プログラムの展望と課題ー東京外国語大学ショート・ビジットプログラム(SV)を事例として」広島大学国際センター紀要、第 2 号、pp. 69-83
6. 坪井健(1995)『国際化時代の日本の学生』学文社
7. 坪井健(2012)『アジア学生文化の変容に関する国際比較研究』(平成 23 年度科学研究費<基盤研究 C>研究成果報告書、研究代表者坪井健)
8. 横田雅弘・小林明編(2013)『大学の国際化と日本人学生の国際志向性』学文社
9. 経済産業省「社会人基礎力」<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>
10. 源島福己(2009)「大学生の海外留学と社会人基礎力の発達」『留学交流』Vol. 21, no. 12 pp. 2-5
11. 経済産業省グローバル人材育成委員会(2010)『産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会報告書ー産学官でグローバル人材の育成をー』経済産業省 2010 年 4 月
12. 佐藤由利子(2011)「日本と EU 諸国における短期留学の特徴と高等教育の国際化に果たす役割の比較研究」平成 20-22 年度「科学研究費補助金」基盤研究 C・研究成果報告書、p. 53、2011 年 3 月
http://www.ryu.titech.ac.jp/~yusato/route_file.html

5. 海外留学支援制度への提言

本報告書では、評価分析委員会が2か年にわたり実施した「海外留学支援制度」への評価分析の実施方法および分析結果について詳述してきた。

追加アンケート調査およびその分析、訪問調査で得られた知見に基づき、本制度への評価および効果を以下のように取りまとめることができる。

評価分析の結果に基づく海外留学支援制度への評価および効果

- 利用者（学生および学校）の満足度が高い。
- 本制度の効果としては、学生への海外体験の提供、語学力・学力・社会人基礎力にかかる幅広い能力の向上、大学の国際化等が挙げられる。
- 行政事業レビューのコメントで見直しの必要性が指摘された3カ月未満の短期留学対象事業については、3カ月以上の留学とは異なる意義を持っていることが認められた。とくに3カ月未満の事業実施により、調査事例に典型的に現れているように、より多くの大学・高等教育機関、様々な学部・大学院が参加する、多様な留学プログラムが学生に提供され、制度の裾野を大きく広げている。留学生交流やグローバル人材育成の更なる推進のためには、3カ月未満の留学とそれ以上の期間の留学、それぞれの長所を活かした制度として引き続き運営することが必要である。
- 成果検証のためには、報告書等、評価・分析（フォローアップ）に必要なデータ等を適切かつ確実に収集し、評価分析を継続していくことが望ましい。

以上のような評価結果や、本奨学金が重要なきっかけとなって実現する留学の教育効果に鑑みると、本制度はより効果的な方法で継続していくことが欠かせないと判断できる。

また、政府方針の日本再興戦略により、留学生30万人計画および海外留学の倍増を2020年までに実現させるという目標が掲げられていることから、その牽引策として、海外留学支援制度の存在意義は重要であると考えられる。

また、本調査の分析結果や学生・学校等からの意見に基づき、今後の本制度の運用に反映させることが有益と思われる点について、次の検討項目を挙げる。

- 留学プログラムの多様性の認識および採択プログラムの質向上のための方策の検討
- 多様な留学効果を挙げられる支給対象者の採用方法の検討
- よりよい効果測定を目的とした追跡調査および評価・分析（フォローアップ）の検討

これらの検討項目について、以下（１）～（３）に提言したい。

（１）留学プログラムの多様性の認識と、採択プログラムの質向上のための方策の検討

前頁「評価分析の結果に基づく海外留学支援制度への評価および効果」にも記載のとおり、本調査の実施により、留学プログラムの目的に応じて、各プログラム毎に効果的な企画・運営が行われていることが明らかになった。また、今後も留学プログラムによる教育効果および大学の国際化を最大限に促進するため、多様なプログラムが採択されるような工夫が求められる。

このための一方策として、海外留学支援制度では、募集要項に「プログラムの選考における審査の観点」（以下、「審査の観点」という。）を記載し、プログラムに係る計画・実施・報告について充足すべき条件を規定しており、これらの条件の改善を検討することが考えられる。

についてはこれらの観点について、以下の提言を行いたい。

①プログラムの性質や留学期間による審査基準の検討

現在、プログラム選考の条件については、審査の観点に定められているが、これは短期留学プログラム全体を対象としており、プログラムの性質および期間による違いについてあまり設けられていない。しかし、本調査で見てきたように、留学生交流にもさまざまな形態があり、従来の交換留学をベースにした１ Semester以上の期間を有する留学プログラムと、比較的短期間の海外体験を主な目的とする体験型のプログラムとでは、以下のような性質や実施の意義の違いが存在することが明らかである。

1 Semester以上のプログラム：長期間の海外留学を経験することにより、在学中に可能な限りの留学体験を学生に与えることが可能。教育的効果も高く、さらに長期の学位取得留学の動機づけにもなりうる

短期間の体験型プログラム：短期間であるためハードルが低いことから、より長期の留学への動機付けとしての意義が大きい。体験型プログラムとして質の高い内容を提供することが可能

これらの異なる効果をそれぞれ最大限に活かすため、プログラムの性質ごとにより質の高いプログラムが選ばれるような、審査の観点を設定することについて検討が望まれる。

②プログラムの形態区分の多様化

現在、本制度による支援プログラムは2つの募集形態（双方向協定型（留学期間を1セメスター以上とし学校間の学生交流協定に基づく双方向型留学プログラム）と短期研修・研究型（期間を問わない、学校間の協定または合意に基づく派遣・受入れプログラム）の2つのプログラム型）において募集されている。この分類は、前項に見る留学期間別の分類と比べると、前者が支援対象学生に与える教育効果の差を重視しているのに対し、後者は学校間における多彩な性格の留学生交流の実現を重視して設定されていると考えることができる。

双方向協定型プログラムは、双方向での留学生交流を継続的に実施することにより大学の国際化の効果が高く、研究交流等、他の面からの交流とも密接に結びついていることが多い。短期研修・研究型プログラムは、交流協定締結レベルまでの結びつきがないプログラムや留学期間を問わないプログラムでも、より自由に多くの学生の海外派遣または受入れを行うことを可能としている。

ただし、近年、全世界において、留学形態および留学プログラムの形態は一層の多様化を見せており、双方向交流すなわち従来の少人数による交換留学が長期間の留学であるとは限らず、また、一方向のみの留学がすべて短期間の体験型留学とも限らない。

1セメスター未満の短期間の双方向の研究交流などを協定に基づき行っているにもかかわらず、当制度の支援を受けるに当たっては、プログラム型の期間制限により、派遣・受入れ別々のプログラムとして短期研修・研究型に応募する必要があるが、このことにより、申請の手間がかかるほか、万一派遣または受入れの一方しか採択されなかった場合、双方向交流としてのプログラムの実施が不安定になり、質の高い超短期プログラムを安定的に運営することが困難となる。

特徴をもった多様なプログラムの発展を促すため、このような制限を緩和することなど、多様な形の双方向交流を後押しできるよう検討することが望ましい。

③申請書類の改善

プログラム申請時に提出する計画書において、プログラム内容の全体像を把握しやすい記載箇所がない一方、計画書の分量が膨大になっており、申請校や選考委員の負担となっている。全体像および審査のポイントが明確に示され、内容を把握しやすくなるような様式への改善を検討することが望ましい。

(2) 多様な留学効果を挙げられる支給対象者の採用方法の検討

追加アンケートの分析によると、派遣・受入れプログラムともに、留学期間に関わらず、

語学力・学力・社会人基礎力等の能力の向上において大きな効果が認められた。

これらの効果を更に促進することを目的に、以下について提言する。

①成績評価方法の検討

海外留学支援制度では、平成 26 年度の募集要項に「奨学金支給対象者の資格および要件」を記載し、派遣／受入れ学生として支援を受ける資格を有する者が備えるべき条件を、「在籍大学等における前年度の成績評価係数が 2.30 以上であること」としている。

しかし、国内外の各学校の成績評価の方法は多岐にわたり、機構が例示する方法のみでは成績の適正な算出が難しいケースが多く存在するのが現状である。

他方で、留学には、語学力や積極性など、成績だけで一元的に測れない総合的な能力を有していることが望ましい。これらについては、今後継続して分析を行いたい。

なお、この検討事項については、平成 27 年度からは取扱いを変更し、成績評価係数の規定を 2.30 以上に保ちつつ、短期研修・研究型のプログラム参加者に限り、別途推薦書を提出し審査を受けることにより成績評価係数が 2.00 以上の者も資格を満たすことができるようになった。

②家計基準及び支給月額の地区区分の検討

派遣留学については、行政事業レビューにおいて「経済的理由で参加が困難である学生等に支援対象を重点化する」などの見直しを指摘されたことを受け、平成 25 年度から支援対象者の要件として家計基準を設定し、これに当てはまる者を原則、支援の対象としている。

また、派遣留学にかかる経費については、研究内容・滞在期間等の条件のみならず、留学先国の物価や経済状況によって大きく左右されるが、現在用いられている奨学金支給月額の地区区分は、必ずしも最新の物価や経済状況を反映しているものではない。

多くの日本人学生に海外留学を体験させ、グローバルに活躍できる人材の育成に寄与することの必要性を鑑み、これらの基準等については今後引き続き内容を検討されることが望ましい。

(3) よりよい効果測定を目的とした追跡調査および評価・分析（フォローアップ）の検討

2 年間にわたる評価分析の実施により、本制度の成果検証における報告書、アンケート等の追跡調査および評価・分析（フォローアップ）の重要性が改めて明らかになった。引き続き、より効果的に本制度の成果検証を図るための評価・分析（フォローアップ）を継続し制度の改善に資するために、実施方法について以下のとおり検討することを提言したい。

①フォローアップおよび成果検証に関する審査の観点の検討

募集要項の審査の観点には「フォローアップ・成果検証の実施」が記載されており、

このうちソーシャル・ネットワーキング・サービス等（以下「SNS」という。）の計画・推進について言及している。SNS が実際に効果を発揮するためには、適切な方法で設置のうえ、長期にわたり適切な運営管理を行うことが必須である。しかし、他の多様な報告書の提出義務に加えて SNS の管理運営が求められることで、学校側の負担を強いる状況になっている。また、評価基準の設定も困難であり、窓口（アカウント）の設置のみで実際には学生の利用に任せ管理が放置されているような状態でも「（設置を）達成した」との自己評価が行われることが懸念される。

SNS 活用の重要性は引き続き認識しつつも、適切な実施および評価が困難な観点であることが認められるため、審査の観点としての記載方法の改善が考えられる。様々な評価・分析（フォローアップ）策の一環として積極的に利用を促す一方で、「実施報告会やシンポジウム等によりプログラム実施の成果を波及させる取組みを行っているか」という評価の観点と統合して審査・評価するなど、同様の効果をもたらさうる代替や複合的な案を利用可能とする柔軟な対応を検討することが望ましい。

また、留学プログラムの継続発展のためには、新入生への効果的な広報実践や、国内学生のプログラムへの取り込み（過去に派遣留学経験のある学生やこれから留学を考える学生による受入れ留学生支援、翌年度のプログラムの企画運営など）、現地拠点や NGO の活用による独自の取組みなど、大学の国際化、さらなる派遣留学の動機付けおよび派遣留学後の教育効果持続につながる実践が多数考えられる。このような取組みについても、積極的に評価の対象とすることを検討したい。

②大学等が記載する報告書様式の改善

本制度への申請時に大学等が計画書に記載している内容が確実に履行されているか正確に評価するためには、以下のようなプログラム実施報告書の見直しを検討することが望まれる。

- ・チェックリストの提出
- ・評価・分析（フォローアップ）関連項目において、参加者に行ったアンケートや作成されたプログラム成果報告書の提出

また、プログラム実施報告書の評価は各学校の自己評価によっているため、「達成した」「概ね達成した」「達成できなかった」の基準には回答者により大きな幅が認められる。項目によっては各学校に対し達成度の基準を示すことで、より明確な評価が可能になると思われる。

③支給対象学生が記載する留学状況調査票（アンケート）の改訂

プログラム終了後、支給対象学生には「支給対象者修了報告書」「留学状況調査票」の提出を求めている。そのうち留学状況調査票については、質問内容や成果検証の向上のため、評価分析で実施した追加アンケートの項目等を設問が増えすぎないように十分に精査したうえで留学状況調査票に組み込み、両者を一本化するとともに、継続的に実施しながら、よりよい効果測定へのフィードバックを行っていきたい。

④評価・分析（フォローアップ）調査の義務化

補助金の適切な利用を促すことや、支援結果を明確に残し今後の効果測定にも活用するため、実績報告書の記載内容の精査・充実とともに、成果報告の義務化や活動事例の収集・発信を義務化し、未実施の場合は、ペナルティ（次年度採択件数の減等）を課すことは従来から求められていた。このことに基づき、平成 27 年度採択においては、報告書未提出校が実施するプログラムの採択に当たって、割当人数・人月数に一定率のペナルティを課す対応を実施した。

補助金を利用した制度の適正な運営のためには、引き続き、必要な措置を実施することが求められる。

6. おわりに

本調査報告書は留学生交流支援制度および海外留学支援制度に対し、同制度「評価分析委員会」が主体となり、2年間にわたってその成果検証を目的とした調査を行い、分析結果をとりまとめたものである。

本調査では、追加アンケート調査および訪問調査での聞き取りを通じて、留学生交流支援制度および海外留学支援制度により支援を受けた大学等および学生が、本制度を高く評価していることが確認できた。

また、追加アンケート調査結果の詳細な分析や大学等の優れた実践事例を通じて、留学期間やプログラムの内容等のプログラムの属性や、出身国や学年等の支援対象者の属性の、それぞれの幅広さを超えて、高い教育的効果をもたらすことのできる制度であることが実証できた。

以上の調査報告により、文部科学省行政事業レビューにおいて「抜本的改善」を求められた本制度が、制度の改善を経て高い評価を得ており、教育的効果も認められるものとして機能していることを総合的に示すことができたと考える。

一方で、平成25年度調査および26年度調査における「論考」のまとめや、「5. 海外留学支援制度への提言」にて指摘したとおり、本制度の内容および評価分析の方法には今後さらなる向上が望ましい項目が存在する。

短期留学のための奨学金制度は昭和47年に誕生して以来、社会が求める人材像の変化や国際的な留学生交流の趨勢などに伴い、多くの変遷を経て今日に至っており、今後も姿を変える必要が生じる可能性がある。引き続き本制度の質を高め、利用者、関係者のみならず国民からより高い評価を得られるよう、効果的な制度の実施に取り組むことを期待したい。

【付録 1】

海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）評価分析委員会委員・評価分析委員会ワーキンググループ構成員名簿（平成 25 年度～平成 26 年度）

評価分析委員会委員

主査	横田 雅弘	明治大学国際日本学部長
副主査	野水 勉	名古屋大学国際教育交流センター教授
	太田 浩	一橋大学国際教育センター教授
	岡田 昭人	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授*
	岡本 能里子	東京国際大学国際関係学部教授
	志甫 啓	関西学院大学国際学部准教授
	堀田 泰司	広島大学国際センター国際教育部門准教授**
	堀江 未来	立命館大学国際教育推進機構准教授
	松本 勉	独立行政法人国立高等専門学校機構 国際交流センター副センター長
	森尾 郁子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
	森園 浩一	国際教養大学学生部長

（主査・副主査を除き 50 音順。所属・職名は平成 27 年 3 月現在）

* 平成 26 年 4 月～

** 平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月

評価分析委員会ワーキンググループ構成員

主査	横田 雅弘	明治大学国際日本学部長
副主査	野水 勉	名古屋大学国際教育交流センター教授
	太田 浩	一橋大学国際教育センター教授
	岡田 昭人	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
	坪井 健	駒澤大学文学部教授
	新田 功	明治大学政治経済学部教授

（主査・副主査を除き 50 音順。所属・職名は平成 27 年 3 月現在）

【付録2】

海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）評価分析委員会・評価分析委員会ワーキンググループ会合開催記録（平成25年度－平成26年度）

（平成25年度）

評価分析委員会

- 第1回 平成25年8月8日（木）
- 第2回 平成25年10月28日（月）
- 第3回 平成26年1月29日（水）

評価分析委員会ワーキンググループ

- 第1回 平成25年7月18日（木）
- 第2回 平成25年10月26日（土）
- 第3回 平成26年1月21日（火）

（平成26年度）

評価分析委員会

- 第1回 平成26年7月22日（火）
- 第2回 平成26年11月26日（水）
- 第3回 平成27年2月23日（月）

評価分析委員会ワーキンググループ

- 第1回 平成26年5月19日（月）
- 第2回 平成26年6月24日（火）
- 第3回 平成26年11月17日（月）
- 第4回 平成27年2月（資料回付により開催）

留学生交流支援制度（短期派遣）事例報告会実施概要報告

1. 開催日時及び場所

(1) 東京

平成 26 年 3 月 3 日（月） 13 時 30 分～16 時 30 分

東京国際交流館 プラザ平成 国際交流会議場 （東京都江東区青海 2-2-1）

(2) 大阪

平成 26 年 3 月 7 日（金） 13 時 30 分～16 時 30 分

大阪国際交流センター 小ホール （大阪市天王寺区上本町 8-2-6）

2. 実施者

日本学生支援機構、文部科学省

3. 参加者数

(1) 東京 134 大学等 167 名

(2) 大阪 94 大学等 96 名

4. 内容

(1) 東京

① 開会挨拶 日本学生支援機構理事 米川英樹

② 「官民協働海外留学支援制度」について

文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐 佐藤稔晃

③ 留学生交流支援制度追加アンケートの分析結果について

名古屋大学国際教育交流センター教授 野水勉

④ 平成 23、24 年度留学生交流支援制度（短期派遣、ショートビジット）採択プログラム事例報告

ア. 東京医科歯科大学

報告者：グローバルキャリア支援室特任助教 若林健二

プログラム：「国際的な視野をもつアカデミックドクター養成のための、英国インペリアル・カレッジへの（卒前）基礎医学実習派遣プログラム」

イ. 桜美林大学

報告者：基盤教育院専任講師 向井一朗

プログラム：「国際協力研修（フィリピン国際協力研修）」

ウ. 東北大学

報告者：国際交流センター教授 末松和子
プログラム：「スタディ・アブロード・プログラム」

エ. 長崎大学

報告者：国際健康開発研究科教授 松山章子
プログラム：「長崎大学大学院国際健康開発研究科短期フィールド研修」

⑤ パネルディスカッション 「短期派遣の意義及び効果について」

ナビゲーター 名古屋大学国際教育交流センター教授 野水勉
パネリスト 東京医科歯科大学グローバルキャリア支援室特任助教
若林健二

桜美林大学基盤教育院専任講師 向井一朗
東北大学国際交流センター教授 末松和子
長崎大学国際健康開発研究科教授 松山章子

(2) 大阪

① 開会挨拶 日本学生支援機構理事 米川英樹

② 「官民協働海外留学支援制度」について

文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐 佐藤稔晃

③ 留学生交流支援制度追加アンケートの分析結果について

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 岡田昭人

④ 平成 23、24 年度留学生交流支援制度（短期派遣、ショートビジット）採択プログラム事例報告

ア. 広島大学

報告者：国際センター准教授 中矢礼美
プログラム：「START プログラム」

イ. 名古屋大学

報告者：生命農学研究科教授 川北一人
プログラム：「国際農学研修」

ウ. 熊本高等専門学校

報告者：国立高等専門学校機構国際交流室長 松本勉
プログラム：「英語によるプレゼンテーション力育成キャンプ」

エ. 香川大学

報告者：農学部教授 田村啓敏
プログラム：「東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する大学間相互交流プログラム」

⑤ パネルディスカッション 「短期派遣の意義及び効果について」

ナビゲーター 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 岡田昭人
パネリスト 広島大学国際センター准教授 中矢礼美
名古屋大学生命農学研究科教授 川北一人

国立高等専門学校機構国際交流室長 松本勉

香川大学農学部教授 田村啓敏

(以上、氏名はすべて敬称略)

(参考写真)



【開会挨拶（大阪）】



【文部科学省説明（大阪）】



【追加アンケート分析結果説明（東京）】



【パネルディスカッション（東京）】



【パネルディスカッション（大阪）】



【質疑応答（東京）】

留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）経験者追加アンケート

平成23、24年度留学生交流支援制度（短期派遣、ショートビジット）奨学金受給者のみなさんへ

この度、本奨学金制度についてアンケートを実施することとなりました。奨学金受給者のみなさんがどのような体験をし、効果があったか調査することによって、奨学金制度の今後のあり方の検討と改善につながります。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

基本情報

①性別：男性・女性

②所属大学等名 _____

③学部・研究科名 _____

④参加プログラム名称 _____

⑤留学・研修開始時の学年：

(1つに○)

学部1年、学部2年、学部3年、学部4年以上、修士1年、修士2年、博士以上、短大1年、短大2年、短大3年以上、高専4年、高専5年、高専専攻科、専修1年、専修2年、専修3年以上

⑥留学・研修期間：

(1つに○)

2週間以内、2週間～1か月、1～2か月、2～3か月、3～6か月、6か月～1年

⑦留学・研修地域：

(1つに○)

北米、南米、西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、アフリカ、中東、オセアニア、中国、韓国、台湾、アセアン、それ以外

⑧留学・研修前オリエンテーション：

(1つに○)

十分あった ・ 少しあった ・ あまりなかった

⑨留学・研修中のインターンシップ経験の有無：

(1つに○)

あり ・ なし

* 参加プログラムにインターンシップが含まれている場合

(インターンシップについては、公的機関、企業、NGOにおける研修、大学研究室での研究体験、臨床実習体験、教育実習を含む。)

【問1】 今回のプログラム以前のあなたの過去の海外経験についてお尋ねします。

当てはまるものに○印をつけて下さい。

【問1-1】 海外生活、長期滞在など日常生活の基盤を海外に置いた経験について

() ①1年以上の経験があった

() ②3ヶ月以上1年未満の経験があった

() ③1ヶ月以上3ヶ月未満の経験があった

() ④なし(1ヶ月未満の経験を含む)

【問1-2】 海外旅行の経験について

(問1-2-1) 海外旅行の回数について

- () ① 3回以上の経験があった
- () ② 1回～2回の経験があった
- () ③ なし

(問1-2-2) (過去に海外旅行の経験があったと回答した人) これまでの海外旅行経験を通算した場合の期間について

- () ① 1ヶ月以上
- () ② 2週間以上～1ヶ月未満
- () ③ 1週間以上～2週間未満
- () ④ 1週間未満

【問2】 本事業の海外留学・研修において、あなたが得ることができたと思う項目全てに○をつけてください(複数回答可)。

[学業関連]

- () ① 専門分野の知識・資料収集
- () ② 海外の学問の水準や方法の理解
- () ③ 専門用語の習得
- () ④ 専門の勉強へのモチベーションの向上

[語学関連]

- () ⑤ 語学力の向上
- () ⑥ 外国語で発言する勇気や慣れ
- () ⑦ 外国語での研究発表や議論の仕方の向上
- () ⑧ 語学の勉強へのモチベーションの向上

[異文化理解関連]

- () ⑨ 異文化間コミュニケーション力の向上
- () ⑩ 生活習慣や文化の違いを肌で実感
- () ⑪ 留学先国の学生・社会人との交流を通じた人間理解
- () ⑫ 留学先国に関する知識の獲得
- () ⑬ 日本文化・日本人としての自分についての意識向上

[進学・就職関連]

- () ⑭ 進路や就職についての意識の向上
- () ⑮ 将来の方向性をつかむきっかけ
- () ⑯ 就活における強みの獲得

[その他]

- () ⑰ 困難を自力で乗り越える力量の向上
- () ⑱ 視野の拡大 (日本では得にくい視点の獲得)
- () ⑲ 外向き志向(国際志向性)の高まり
- () ⑳ 海外の人間関係・人脈の構築

【問 3】 本事業の海外留学・研修を経た後の語学力の変化についてお聞きします。

【問 3－1】 本事業の海外留学・研修を経た後の語学力の変化について、当てはまるものに○印をつけて下さい。

- () ①能力が向上した
- () ②変わらない
- () ③能力が落ちた

【問 3－2】 本事業の海外留学・研修の前後でTOEFL、TOEIC等の語学能力試験を受験している場合、そのスコアを記入してください。

● 海外留学・研修の開始前の直近のもの

- ・語学試験の種類 () (例) TOEIC
- ・スコア () (例) 650点

● 海外留学・研修後

- ・語学試験の種類 () (例) TOEIC
- ・スコア () (例) 750点

【問 4】 本事業の海外留学・研修を経た後の学業成績の変化について、当てはまるものに○印をつけて下さい。

- () ①成績が向上したと感じている
- () ②変わらないと感じている
- () ③成績が落ちたと感じている

【問5】下記の1から15の各項目で当てはまる番号に○印を付けてください。

		現在のあなたの能力を自己評価してください				今回の海外体験の後で、あなたの能力は向上しましたか		
		よく当てはまる	どちらかという当てはまる	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない	能力が向上した	変わらない	能力が落ちた
1	自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができる。	3	2	1	0	1	0	-1
2	仲間に働きかけて、問題点を一緒に改善するために行動することができる	3	2	1	0	1	0	-1
3	自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	3	2	1	0	1	0	-1
4	自分なりに現状分析して課題や問題点を具体的に提示することができる	3	2	1	0	1	0	-1
5	課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる	3	2	1	0	1	0	-1
6	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えで、意見やアイデアを工夫して提案できる	3	2	1	0	1	0	-1
7	自分の意見を分かりやすく整理した上で相手に理解してもらえよう的確に伝えることができる	3	2	1	0	1	0	-1
8	相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで相手の意見を引き出すことができる	3	2	1	0	1	0	-1
9	自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる	3	2	1	0	1	0	-1
10	チームで仕事をするとき、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる	3	2	1	0	1	0	-1
11	その場のルールや手続きに従って自らの行動や発言を適切にすることができる	3	2	1	0	1	0	-1
12	ストレス状況におかれても、自分の成長機会だとポジティブにとらえ、前向きに対処することができる	3	2	1	0	1	0	-1
13	外国人との協働作業においても、その意思決定作業に参加し、自分の役割を果たすことができる	3	2	1	0	1	0	-1
14	外国人の行動が奇妙に思えても、それをよし悪しで判断せず、文化的な差異ではないかと疑ってみることができる。	3	2	1	0	1	0	-1
15	不十分な外国語力であっても、なんとか意味を伝えようと積極的に発信することができる	3	2	1	0	1	0	-1

【問6】あなたは本事業による留学・研修の目的をどの程度達成(満足)できたと思いますか。

10点満点で評価してください。

_____点

【問7】その他ご意見等

(_____)

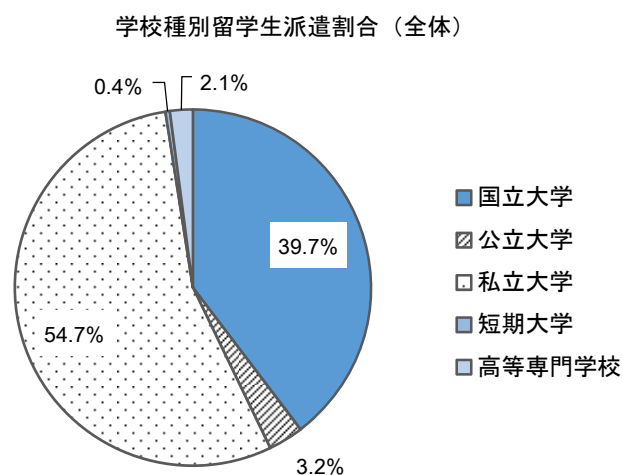
ご協力ありがとうございました。

JASSO 日本学生支援機構

平成 23・24 年度 留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）
追加アンケート調査結果【学生】

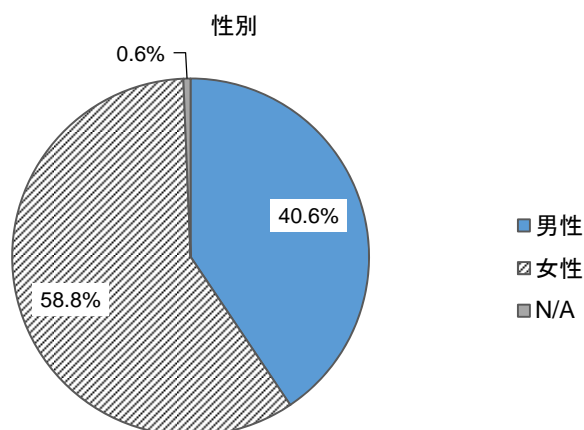
[I] アンケート回答者の基本情報（フェースシートの要約）

(1) 短期派遣留学生の学校種別



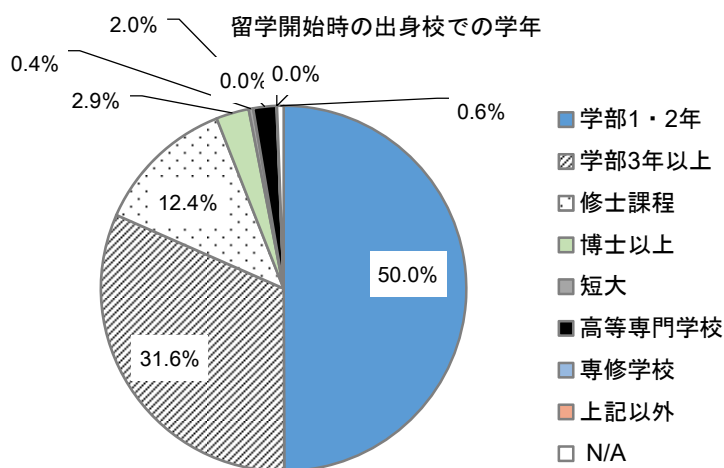
学校種別	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人	(%)	人	(%)	人	(%)				
国立大学	1112	35.8%	202	41.0%	1611	44.0%	349	35.2%	2723	40.2%	551	37.1%	3274	39.7%
公立大学	117	3.8%	11	2.2%	109	3.0%	26	2.6%	226	3.3%	37	2.5%	263	3.2%
私立大学	1801	58.0%	276	56.0%	1829	49.9%	607	61.2%	3630	53.6%	883	59.5%	4513	54.7%
短期大学	7	0.2%	2	0.4%	25	0.7%	0	0.0%	32	0.5%	2	0.1%	34	0.4%
高等専門学校	69	2.2%	2	0.4%	89	2.4%	10	1.0%	158	2.3%	12	0.8%	170	2.1%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

(2) 性別



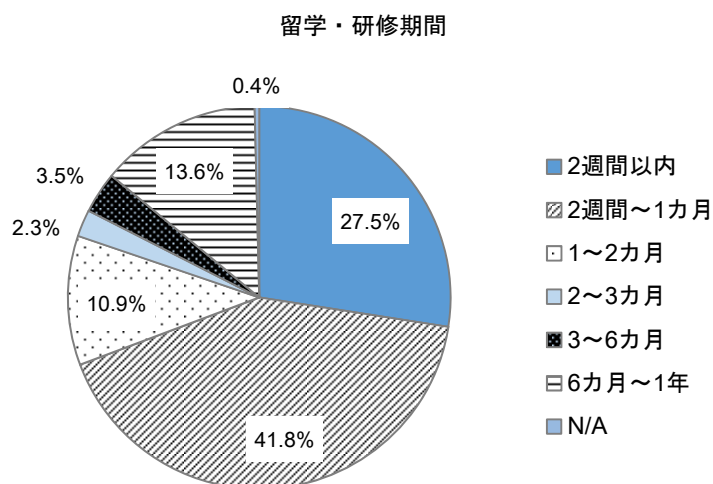
性別	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人	(%)	人	(%)	人	(%)				
男性	1234	39.7%	164	33.3%	1622	44.3%	329	33.2%	2856	42.2%	493	33.2%	3349	40.6%
女性	1863	60.0%	329	66.7%	1997	54.5%	663	66.8%	3860	57.0%	992	66.8%	4852	58.8%
N/A	9	0.3%	0	0.0%	44	1.2%	0	0.0%	53	0.8%	0	0.0%	53	0.6%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

(4) 留学開始時の出身校での学年



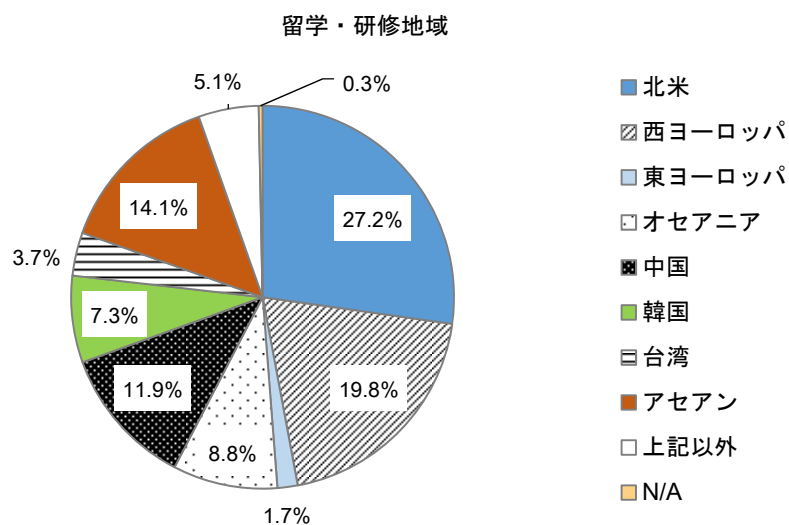
留学・研修開始時の学年	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)				
学部1・2年	1874	60.3%	132	26.8%	1783	48.7%	334	33.7%	3657	54.0%	466	31.4%	4123	50.0%
学部3年以上	768	24.7%	287	58.2%	1044	28.5%	513	51.7%	1812	26.8%	800	53.9%	2612	31.6%
修士課程	279	9.0%	62	12.6%	575	15.7%	110	11.1%	854	12.6%	172	11.6%	1026	12.4%
博士以上	103	3.3%	8	1.6%	104	2.8%	25	2.5%	207	3.1%	33	2.2%	240	2.9%
短大	6	0.2%	2	0.4%	25	0.7%	0	0.0%	31	0.5%	2	0.1%	33	0.4%
高等専門学校	69	2.2%	2	0.4%	88	2.4%	10	1.0%	157	2.3%	12	0.8%	169	2.0%
専修学校	1	0.0%	0	0.0%	2	0.1%	0	0.0%	3	0.0%	0	0.0%	3	0.0%
上記以外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
N/A	6	0.2%	0	0.0%	42	1.1%	0	0.0%	48	0.7%	0	0.0%	48	0.6%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

(5) 留学・研修期間



留学・研修期間	H23				H24				ショートビジット		短期派遣		合計	
	ショートビジット		短期派遣		ショートビジット		短期派遣		人	(%)	人	(%)	人	(%)
2週間以内	909	29.3%	10	2.0%	1324	36.1%	23	2.3%	2233	33.0%	33	2.2%	2266	27.5%
2週間～1カ月	1735	55.9%	15	3.0%	1699	46.4%	4	0.4%	3434	50.7%	19	1.3%	3453	41.8%
1～2カ月	390	12.6%	4	0.8%	506	13.8%	2	0.2%	896	13.2%	6	0.4%	902	10.9%
2～3カ月	56	1.8%	12	2.4%	95	2.6%	24	2.4%	151	2.2%	36	2.4%	187	2.3%
3～6カ月	10	0.3%	36	7.3%	6	0.2%	236	23.8%	16	0.2%	272	18.3%	288	3.5%
6カ月～1年	3	0.1%	416	84.4%	4	0.1%	703	70.9%	7	0.1%	1119	75.4%	1126	13.6%
N/A	3	0.1%	0	0.0%	29	0.8%	0	0.0%	32	0.5%	0	0.0%	32	0.4%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

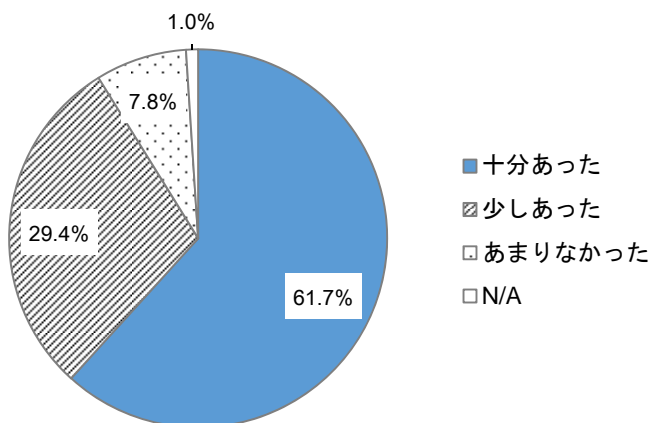
(6) 留学生の出身校所在国・所在地域



留学・研修地域	H23				H24				ショートビジット		短期派遣		合計	
	ショートビジット		短期派遣		ショートビジット		短期派遣		人	(%)	人	(%)	人	(%)
北米	788	25.4%	168	34.1%	928	25.3%	364	36.7%	1716	25.4%	532	35.8%	2248	27.2%
西ヨーロッパ	575	18.5%	166	33.7%	615	16.8%	280	28.2%	1190	17.6%	446	30.0%	1636	19.8%
東ヨーロッパ	37	1.2%	25	5.1%	52	1.4%	27	2.7%	89	1.3%	52	3.5%	141	1.7%
オセアニア	382	12.3%	12	2.4%	309	8.4%	27	2.7%	691	10.2%	39	2.6%	730	8.8%
中国	426	13.7%	48	9.7%	367	10.0%	139	14.0%	793	11.7%	187	12.6%	980	11.9%
韓国	257	8.3%	24	4.9%	280	7.6%	44	4.4%	537	7.9%	68	4.6%	605	7.3%
台湾	113	3.6%	8	1.6%	162	4.4%	19	1.9%	275	4.1%	27	1.8%	302	3.7%
アセアン	378	12.2%	15	3.0%	734	20.0%	39	3.9%	1112	16.4%	54	3.6%	1166	14.1%
上記以外	150	4.8%	27	5.5%	192	5.2%	50	5.0%	342	5.1%	77	5.2%	419	5.1%
N/A	0	0.0%	0	0.0%	24	0.7%	3	0.3%	24	0.4%	3	0.2%	27	0.3%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

(7) 渡日前のオリエンテーション

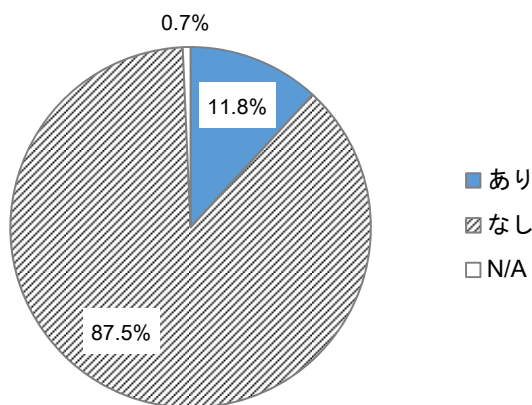
留学・研修前オリエンテーション



留学・研修前オリエンテーション	H23				H24				ショートビジット		短期派遣		合計	
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
十分あった	2049	66.0%	226	45.8%	2284	62.4%	536	54.0%	4333	64.0%	762	51.3%	5095	61.7%
少しあった	835	26.9%	166	33.7%	1095	29.9%	334	33.7%	1930	28.5%	500	33.7%	2430	29.4%
あまりなかった	197	6.3%	99	20.1%	234	6.4%	114	11.5%	431	6.4%	213	14.3%	644	7.8%
N/A	25	0.8%	2	0.4%	50	1.4%	8	0.8%	75	1.1%	10	0.7%	85	1.0%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

(8) 留学中のインターンシップ経験の有無

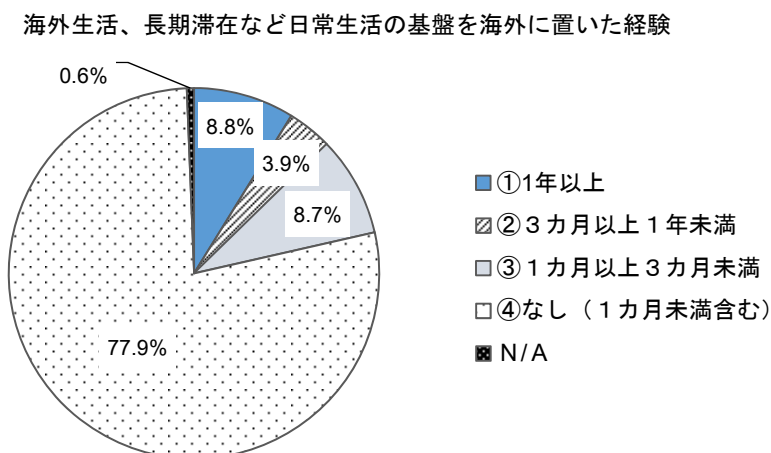
留学・研修中インターンシップ



留学・研修中のインターンシップ経験	H23				H24				ショートビジット		短期派遣		合計	
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
あり	312	10.0%	55	11.2%	527	14.4%	83	8.4%	839	12.4%	138	9.3%	977	11.8%
なし	2782	89.6%	435	88.2%	3097	84.5%	906	91.3%	5879	86.9%	1341	90.3%	7220	87.5%
N/A	12	0.4%	3	0.6%	39	1.1%	3	0.3%	51	0.8%	6	0.4%	57	0.7%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

【問1】今回の日本留学以前のあなたの外国での滞在経験についてお尋ねします。当てはまるものに○印をつけてください。

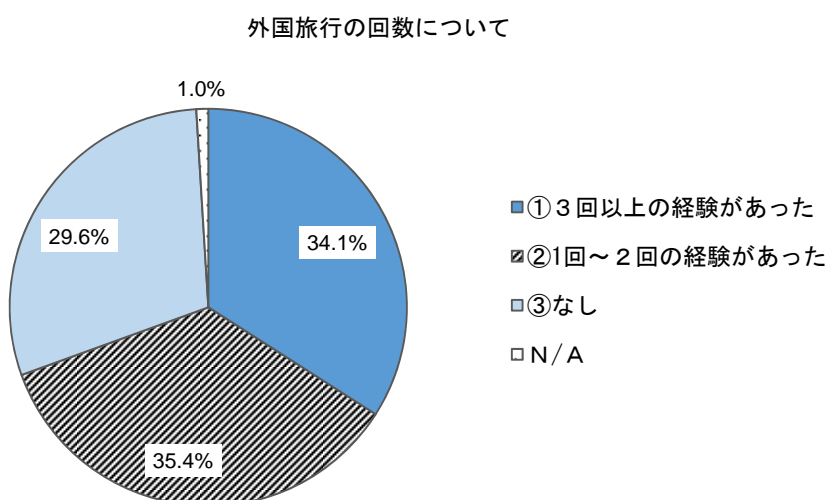
【問1-1】外国生活、長期滞在など日常生活の基盤を外国に置いた経験について



日常生活の基盤を海外に置いた経験	H23				H24				ショートビジット		短期派遣		合計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
①1年以上	231	7.4%	46	9.3%	345	9.4%	105	10.6%	576	8.5%	151	10.2%	727	8.8%
②3カ月以上1年未満	94	3.0%	35	7.1%	119	3.2%	73	7.4%	213	3.1%	108	7.3%	321	3.9%
③1カ月以上3カ月未満	232	7.5%	80	16.2%	248	6.8%	162	16.3%	480	7.1%	242	16.3%	722	8.7%
④なし（1カ月未満含む）	2538	81.7%	330	66.9%	2913	79.5%	651	65.6%	5451	80.5%	981	66.1%	6432	77.9%
N/A	11	0.4%	2	0.4%	38	1.0%	1	0.1%	49	0.7%	3	0.2%	52	0.6%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

【問1-2】外国旅行の経験について

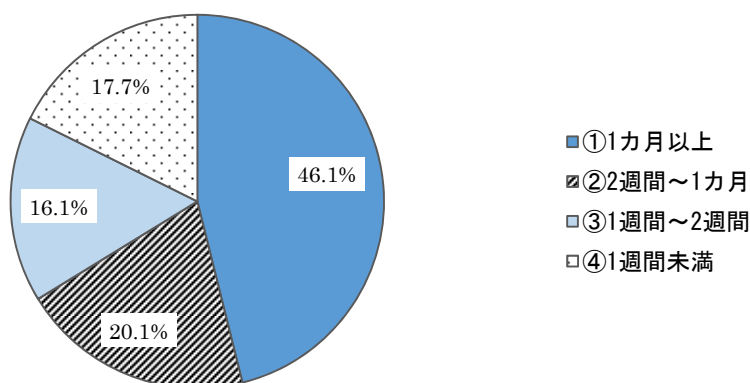
[問1-2-1] 外国旅行の回数について



海外旅行の回数	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人	(%)	人	(%)	人	(%)				
①3回以上	958	30.8%	210	42.6%	1175	32.1%	468	47.2%	2133	31.5%	678	45.7%	2811	34.1%
②1回～2回	1111	35.8%	201	40.8%	1283	35.0%	328	33.1%	2394	35.4%	529	35.6%	2923	35.4%
③なし	1019	32.8%	78	15.8%	1156	31.6%	187	18.9%	2175	32.1%	265	17.8%	2440	29.6%
N/A	18	0.6%	4	0.8%	49	1.3%	9	0.9%	67	1.0%	13	0.9%	80	1.0%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

[問1-2-2] これまでの外国旅行経験を通算した場合の期間について（問1-2-1で過去に外国旅行経験ありと回答した者のみ回答）。

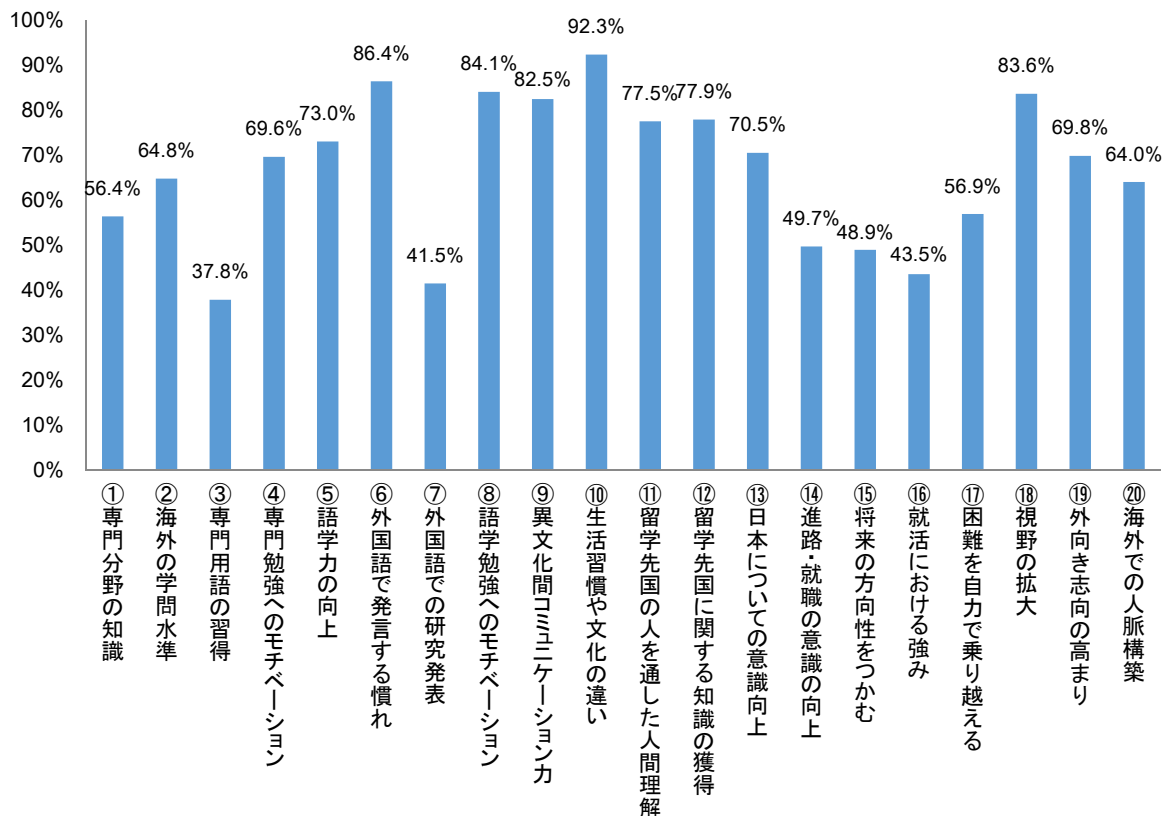
これまでの海外旅行経験を通算した期間



海外旅行経験の通算	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人	(%)	人	(%)	人	(%)				
①1カ月以上	719	35.1%	173	42.2%	864	35.5%	348	44.0%	1583	35.4%	521	43.4%	2104	37.1%
②2週間～1カ月	470	23.0%	105	25.6%	556	22.9%	205	25.9%	1026	22.9%	310	25.8%	1336	23.5%
③1週間～2週間	375	18.3%	67	16.3%	498	20.5%	127	16.1%	873	19.5%	194	16.2%	1067	18.8%
④1週間未満	482	23.6%	65	15.9%	513	21.1%	111	14.0%	995	22.2%	176	14.7%	1171	20.6%
合計	2046	100.0%	410	100.0%	2431	100.0%	791	100.0%	4477	100.0%	1201	100.0%	5678	100.0%

【問2】今回の海外留学において、あなたが得ることができたと思う項目全てに○をつけてください（複数回答可）

海外留学で得ることができたと思うこと

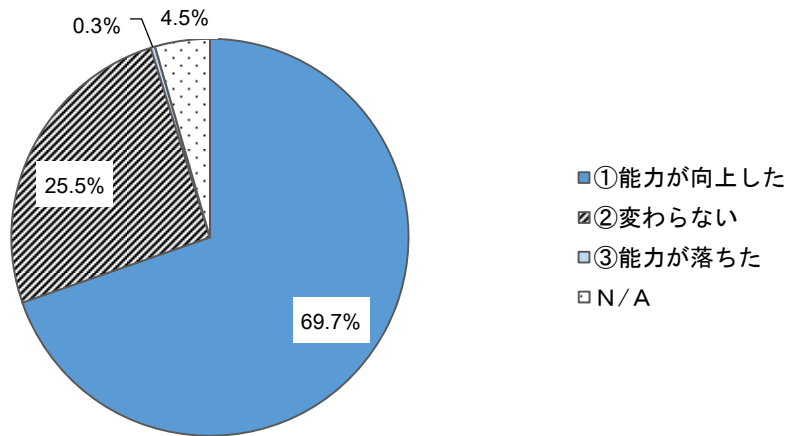


領域	今回の海外留学で得ることができたと思う項目(複数回答)	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計	
		ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)		
学業	① 専門分野の知識	1509 48.6%	363 73.6%	2045 55.8%	738 74.4%	3554 52.5%	1101 74.1%	4655 56.4%			
	② 海外の学問水準	1780 57.3%	405 82.2%	2360 64.4%	803 80.9%	4140 61.2%	1208 81.3%	5348 64.8%			
	③ 専門用語の習得	973 31.3%	285 57.8%	1255 34.3%	610 61.5%	2228 32.9%	895 60.3%	3123 37.8%			
	④ 専門勉強へのモチベーション	2065 66.5%	385 78.1%	2540 69.3%	757 76.3%	4605 68.0%	1142 76.9%	5747 69.6%			
語学	⑤ 語学力の向上	2185 70.3%	455 92.3%	2453 67.0%	935 94.3%	4638 68.5%	1390 93.6%	6028 73.0%			
	⑥ 外国語で発言する慣れ	2660 85.6%	447 90.7%	3125 85.3%	901 90.8%	5785 85.5%	1348 90.8%	7133 86.4%			
	⑦ 外国語での研究発表	1047 33.7%	295 59.8%	1508 41.2%	573 57.8%	2555 37.7%	868 58.5%	3423 41.5%			
	⑧ 語学勉強へのモチベーション	2605 83.9%	426 86.4%	3053 83.3%	856 86.3%	5658 83.6%	1282 86.3%	6940 84.1%			
異文化理解	⑨ 異文化間コミュニケーション力	2508 80.7%	450 91.3%	2947 80.5%	903 91.0%	5455 80.6%	1353 91.1%	6808 82.5%			
	⑩ 生活習慣や文化の違い	2846 91.6%	474 96.1%	3357 91.6%	945 95.3%	6203 91.6%	1419 95.6%	7622 92.3%			
	⑪ 留学先国の人を通じた人間理解	2266 73.0%	442 89.7%	2801 76.5%	889 89.6%	5067 74.9%	1331 89.6%	6398 77.5%			
	⑫ 留学先国に関する知識の獲得	2313 74.5%	434 88.0%	2846 77.7%	838 84.5%	5159 76.2%	1272 85.7%	6431 77.9%			
	⑬ 日本についての意識向上	2123 68.4%	421 85.4%	2457 67.1%	820 82.7%	4580 67.7%	1241 83.6%	5821 70.5%			
進学就職	⑭ 進路・就職の意識の向上	1370 44.1%	286 58.0%	1814 49.5%	630 63.5%	3184 47.0%	916 61.7%	4100 49.7%			
	⑮ 将来の方向性をつかむ	1390 44.8%	311 63.1%	1702 46.5%	637 64.2%	3092 45.7%	948 63.8%	4040 48.9%			
	⑯ 就活における強み	1289 41.5%	298 60.4%	1450 39.6%	556 56.0%	2739 40.5%	854 57.5%	3593 43.5%			
その他	⑰ 困難を自力で乗り越える	1641 52.8%	401 81.3%	1877 51.2%	778 78.4%	3518 52.0%	1179 79.4%	4697 56.9%			
	⑱ 視野の拡大	2557 82.3%	448 90.9%	2992 81.7%	907 91.4%	5549 82.0%	1355 91.2%	6904 83.6%			
	⑲ 外向き志向の高まり	2120 68.3%	371 75.3%	2518 68.7%	755 76.1%	4638 68.5%	1126 75.8%	5764 69.8%			
	⑳ 海外での人脈構築	1773 57.1%	416 84.4%	2283 62.3%	814 82.1%	4056 59.9%	1230 82.8%	5286 64.0%			
	合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%			

【問3】 今回の留学プログラムにおける語学力の変化についてお聞きします。

【問3-1】 本事業の海外留学・研修を経た後の語学力の変化について、当てはまるものに○印をつけてください。

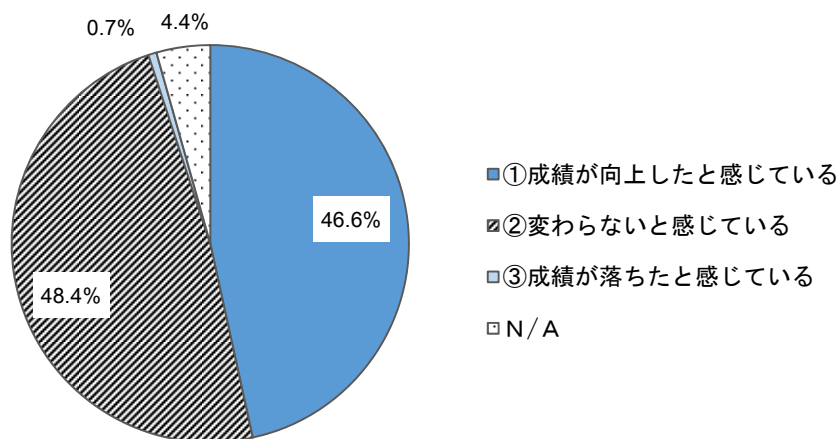
海外留学・研修を経た後の語学力の変化



海外留学・研修を経た後の語学力の変化	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)				
①能力が向上した	2122	68.3%	432	87.6%	2304	62.9%	893	90.0%	4426	65.4%	1325	89.2%	5751	69.7%
②変わらない	846	27.2%	39	7.9%	1163	31.7%	58	5.8%	2009	29.7%	97	6.5%	2106	25.5%
③能力が落ちた	4	0.1%	6	1.2%	15	0.4%	3	0.3%	19	0.3%	9	0.6%	28	0.3%
N/A	134	4.3%	16	3.2%	181	4.9%	38	3.8%	315	4.7%	54	3.6%	369	4.5%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

【問4】 本事業の海外留学・研修を経た後の学業成績の変化について、当てはまるものに○印をつけてください。

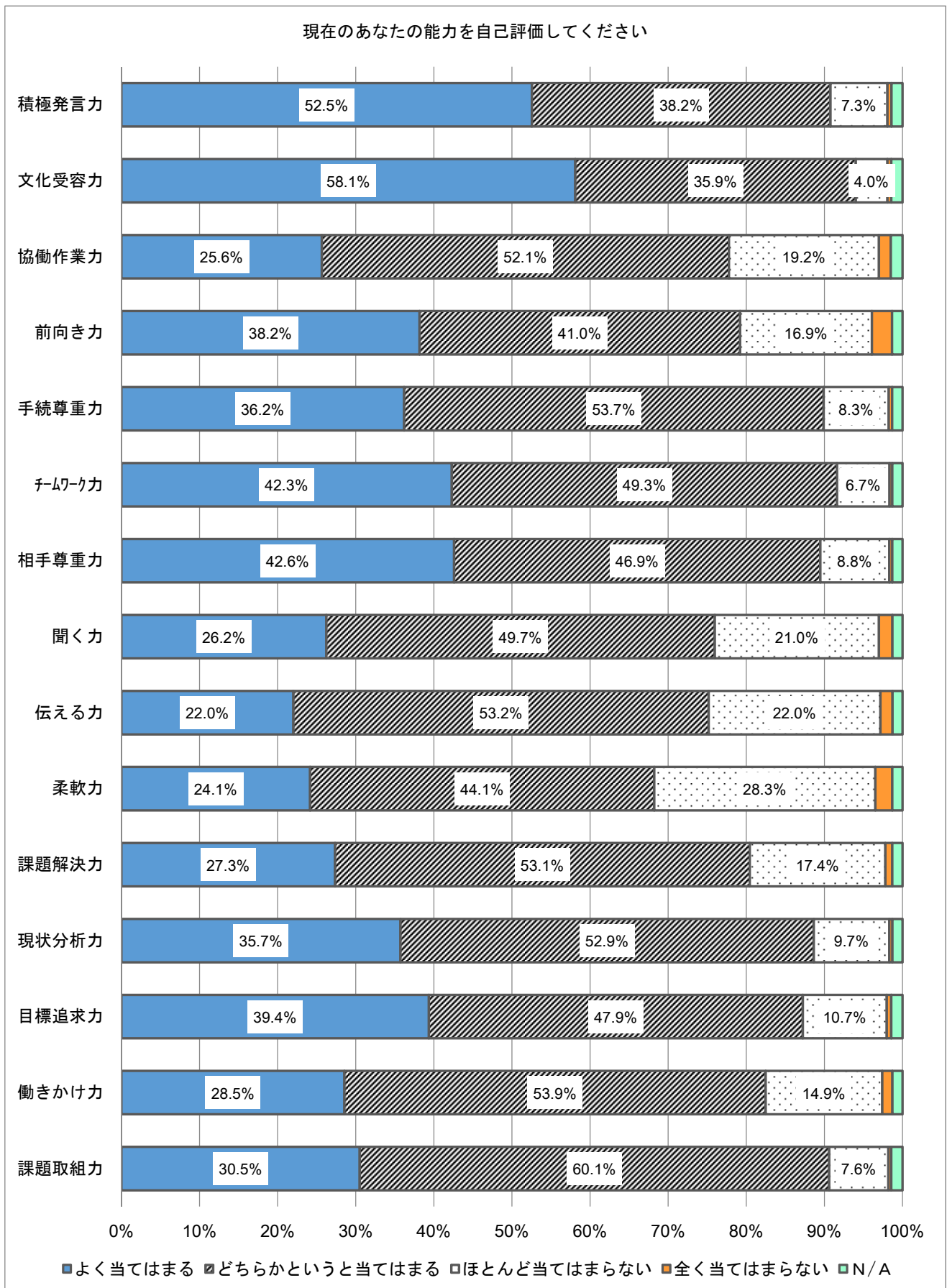
海外留学・研修を経た後の成績の変化



海外留学・研修を経た後の学業成績の変化	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)				
①成績が向上したと感じている	1481	47.7%	250	50.7%	1518	41.4%	595	60.0%	2999	44.3%	845	56.9%	3844	46.6%
②変わらないと感じている	1503	48.4%	216	7.0%	1945	53.1%	330	33.3%	3448	50.9%	546	36.8%	3994	48.4%
③成績が落ちたと感じている	14	0.5%	10	0.3%	16	0.4%	15	1.5%	30	0.4%	25	1.7%	55	0.7%
N/A	108	3.5%	17	0.5%	184	5.0%	52	5.2%	292	4.3%	69	4.6%	361	4.4%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

【問5】下記の1から15の各項目で当てはまる番号に○印をつけてください。

〔現在のあなたの能力を自己評価してください〕



[現在のあなたの能力を自己評価してください]

1 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができる	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)				
よく当てはまる	960	30.9%	206	41.8%	1010	27.6%	342	34.5%	1970	29.1%	548	36.9%	2518	30.5%
どちらかという当てはまる	1896	61.0%	254	51.5%	2231	60.9%	580	58.5%	4127	61.0%	834	56.2%	4961	60.1%
ほとんど当てはまらない	205	6.6%	26	5.3%	347	9.5%	47	4.7%	552	8.2%	73	4.9%	625	7.6%
全く当てはまらない	11	0.4%	1	0.2%	16	0.4%	3	0.3%	27	0.4%	4	0.3%	31	0.4%
N/A	34	1.1%	6	1.2%	59	1.6%	20	2.0%	93	1.4%	26	1.8%	119	1.4%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

2 仲間に働きかけて、問題点を一緒に改善するために行動することができる	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)				
よく当てはまる	885	28.5%	148	30.0%	1045	28.5%	278	28.0%	1930	28.5%	426	28.7%	2356	28.5%
どちらかという当てはまる	1694	54.5%	257	52.1%	1960	53.5%	540	54.4%	3654	54.0%	797	53.7%	4451	53.9%
ほとんど当てはまらない	454	14.6%	76	15.4%	555	15.2%	148	14.9%	1009	14.9%	224	15.1%	1233	14.9%
全く当てはまらない	35	1.1%	8	1.6%	52	1.4%	12	1.2%	87	1.3%	20	1.3%	107	1.3%
N/A	38	1.2%	4	0.8%	51	1.4%	14	1.4%	89	1.3%	18	1.2%	107	1.3%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

3 自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)				
よく当てはまる	1253	40.3%	268	54.4%	1248	34.1%	479	48.3%	2501	36.9%	747	50.3%	3248	39.4%
どちらかという当てはまる	1474	47.5%	190	38.5%	1860	50.8%	429	43.2%	3334	49.3%	619	41.7%	3953	47.9%
ほとんど当てはまらない	317	10.2%	29	5.9%	480	13.1%	60	6.0%	797	11.8%	89	6.0%	886	10.7%
全く当てはまらない	25	0.8%	2	0.4%	19	0.5%	2	0.2%	44	0.7%	4	0.3%	48	0.6%
N/A	37	1.2%	4	0.8%	56	1.5%	22	2.2%	93	1.4%	26	1.8%	119	1.4%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

4 自分なりに現状分析して課題や問題点を具体的に提示することができる	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)				
よく当てはまる	1083	34.9%	225	45.6%	1212	33.1%	428	43.1%	2295	33.9%	653	44.0%	2948	35.7%
どちらかという当てはまる	1670	53.8%	225	45.6%	2000	54.6%	473	47.7%	3670	54.2%	698	47.0%	4368	52.9%
ほとんど当てはまらない	303	9.8%	39	7.9%	384	10.5%	72	7.3%	687	10.1%	111	7.5%	798	9.7%
全く当てはまらない	16	0.5%	1	0.2%	14	0.4%	2	0.2%	30	0.4%	3	0.2%	33	0.4%
N/A	34	1.1%	3	0.6%	53	1.4%	17	1.7%	87	1.3%	20	1.3%	107	1.3%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

5 課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる	H23		H24		ショートビジット		短期派遣		合計					
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)				
よく当てはまる	867	27.9%	167	33.9%	915	25.0%	308	31.0%	1782	26.3%	475	32.0%	2257	27.3%
どちらかという当てはまる	1651	53.2%	280	56.8%	1926	52.6%	526	53.0%	3577	52.8%	806	54.3%	4383	53.1%
ほとんど当てはまらない	522	16.8%	40	8.1%	732	20.0%	139	14.0%	1254	18.5%	179	12.1%	1433	17.4%
全く当てはまらない	30	1.0%	2	0.4%	39	1.1%	2	0.2%	69	1.0%	4	0.3%	73	0.9%
N/A	36	1.2%	4	0.8%	51	1.4%	17	1.7%	87	1.3%	21	1.4%	108	1.3%
合計	3106	100.0%	493	100.0%	3663	100.0%	992	100.0%	6769	100.0%	1485	100.0%	8254	100.0%

6 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えで、意見やアイデアを工夫して提案できる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	748 24.1%	151 30.6%	818 22.3%	276 27.8%	1566 23.1%	427 28.8%	1993 24.1%
どちらかという当てはまる	1341 43.2%	213 43.2%	1607 43.9%	476 48.0%	2948 43.6%	689 46.4%	3637 44.1%
ほとんど当てはまらない	910 29.3%	115 23.3%	1096 29.9%	216 21.8%	2006 29.6%	331 22.3%	2337 28.3%
全く当てはまらない	71 2.3%	12 2.4%	86 2.3%	10 1.0%	157 2.3%	22 1.5%	179 2.2%
N/A	36 1.2%	2 0.4%	56 1.5%	14 1.4%	92 1.4%	16 1.1%	108 1.3%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

7 自分の意見を分かりやすく整理した上で相手に理解してもらえるように確に伝えることができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	639 20.6%	143 29.0%	762 20.8%	273 27.5%	1401 20.7%	416 28.0%	1817 22.0%
どちらかという当てはまる	1727 55.6%	262 53.1%	1872 51.1%	528 53.2%	3599 53.2%	790 53.2%	4389 53.2%
ほとんど当てはまらない	651 21.0%	80 16.2%	913 24.9%	170 17.1%	1564 23.1%	250 16.8%	1814 22.0%
全く当てはまらない	51 1.6%	6 1.2%	64 1.7%	7 0.7%	115 1.7%	13 0.9%	128 1.6%
N/A	38 1.2%	2 0.4%	52 1.4%	14 1.4%	90 1.3%	16 1.1%	106 1.3%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

8 相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで相手の意見を引き出すことができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	835 26.9%	156 31.6%	859 23.5%	315 31.8%	1694 25.0%	471 31.7%	2165 26.2%
どちらかという当てはまる	1541 49.6%	254 51.5%	1839 50.2%	471 47.5%	3380 49.9%	725 48.8%	4105 49.7%
ほとんど当てはまらない	645 20.8%	76 15.4%	837 22.9%	177 17.8%	1482 21.9%	253 17.0%	1735 21.0%
全く当てはまらない	50 1.6%	4 0.8%	76 2.1%	12 1.2%	126 1.9%	16 1.1%	142 1.7%
N/A	35 1.1%	3 0.6%	52 1.4%	17 1.7%	87 1.3%	20 1.3%	107 1.3%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

9 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	1339 43.1%	266 54.0%	1447 39.5%	463 46.7%	2786 41.2%	729 49.1%	3515 42.6%
どちらかという当てはまる	1460 47.0%	197 40.0%	1769 48.3%	444 44.8%	3229 47.7%	641 43.2%	3870 46.9%
ほとんど当てはまらない	265 8.5%	28 5.7%	370 10.1%	66 6.7%	635 9.4%	94 6.3%	729 8.8%
全く当てはまらない	7 0.2%	1 0.2%	20 0.5%	4 0.4%	27 0.4%	5 0.3%	32 0.4%
N/A	35 1.1%	1 0.2%	57 1.6%	15 1.5%	92 1.4%	16 1.1%	108 1.3%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

10 チームで仕事をするとき、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	1345 43.3%	252 51.1%	1446 39.5%	448 45.2%	2791 41.2%	700 47.1%	3491 42.3%
どちらかという当てはまる	1530 49.3%	210 42.6%	1860 50.8%	471 47.5%	3390 50.1%	681 45.9%	4071 49.3%
ほとんど当てはまらない	188 6.1%	23 4.7%	292 8.0%	51 5.1%	480 7.1%	74 5.0%	554 6.7%
全く当てはまらない	7 0.2%	5 1.0%	13 0.4%	5 0.5%	20 0.3%	10 0.7%	30 0.4%
N/A	36 1.2%	3 0.6%	52 1.4%	17 1.7%	88 1.3%	20 1.3%	108 1.3%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

11 その場のルールや手続きに従って 自らの行動や発言を適切にすることができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	1132 36.4%	197 40.0%	1287 35.1%	371 37.4%	2419 35.7%	568 38.2%	2987 36.2%
どちらかという当てはまる	1679 54.1%	256 51.9%	1965 53.6%	533 53.7%	3644 53.8%	789 53.1%	4433 53.7%
ほとんど当てはまらない	245 7.9%	33 6.7%	339 9.3%	71 7.2%	584 8.6%	104 7.0%	688 8.3%
全く当てはまらない	12 0.4%	2 0.4%	20 0.5%	2 0.2%	32 0.5%	4 0.3%	36 0.4%
N/A	38 1.2%	5 1.0%	52 1.4%	15 1.5%	90 1.3%	20 1.3%	110 1.3%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

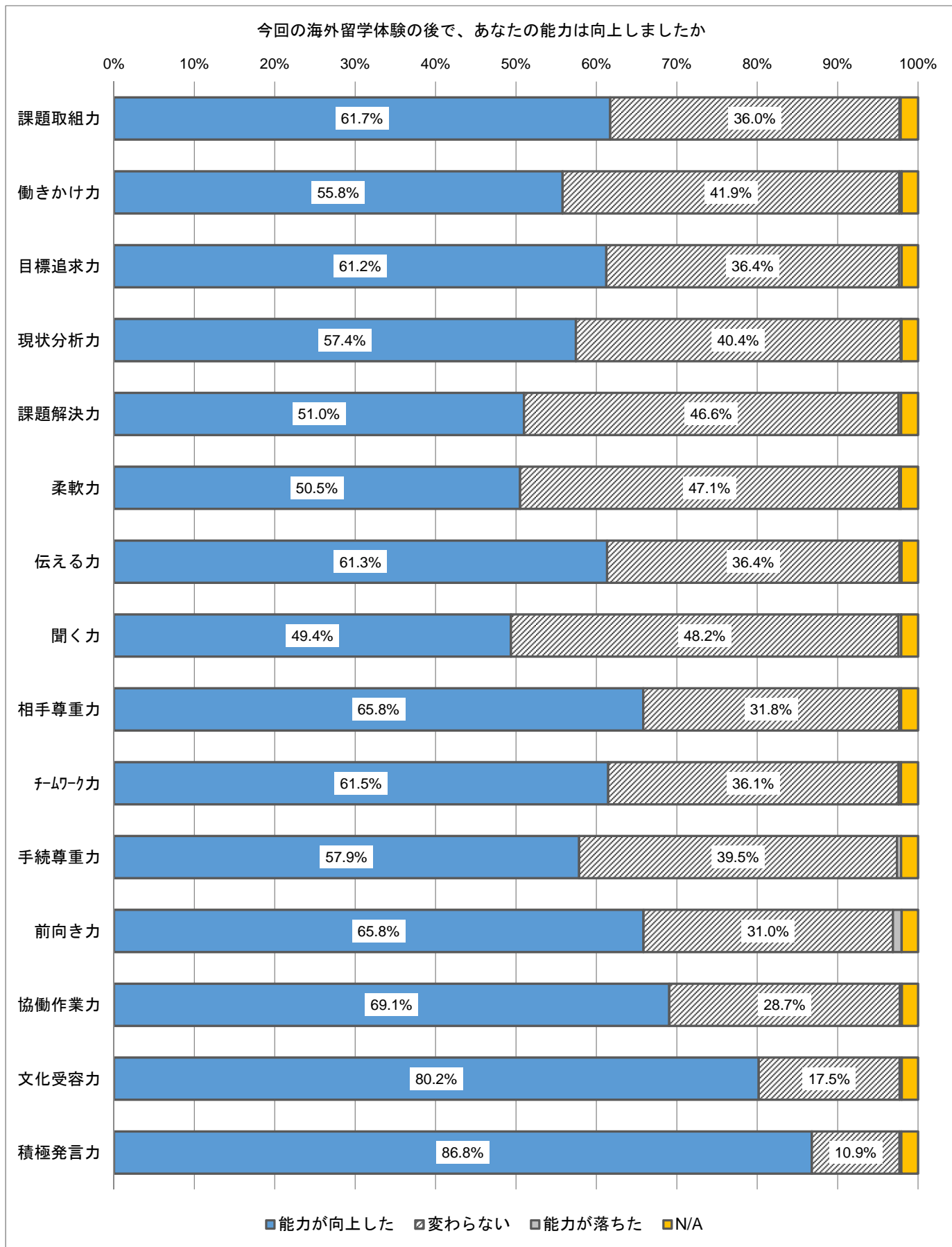
12 ストレス状況におかれても、自分の 成長機会だとポジティブにとらえ、前向 きに対処することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	1186 38.2%	240 48.7%	1313 35.8%	411 41.4%	2499 36.9%	651 43.8%	3150 38.2%
どちらかという当てはまる	1327 42.7%	186 37.7%	1485 40.5%	389 39.2%	2812 41.5%	575 38.7%	3387 41.0%
ほとんど当てはまらない	485 15.6%	58 11.8%	703 19.2%	147 14.8%	1188 17.6%	205 13.8%	1393 16.9%
全く当てはまらない	72 2.3%	7 1.4%	112 3.1%	22 2.2%	184 2.7%	29 2.0%	213 2.6%
N/A	36 1.2%	2 0.4%	50 1.4%	23 2.3%	86 1.3%	25 1.7%	111 1.3%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

13 外国人との協働作業においても、 その意思決定作業に参加し、自分の役 割を果たすことができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	744 24.0%	190 38.5%	848 23.2%	335 33.8%	1592 23.5%	525 35.4%	2117 25.6%
どちらかという当てはまる	1683 54.2%	257 52.1%	1850 50.5%	513 51.7%	3533 52.2%	770 51.9%	4303 52.1%
ほとんど当てはまらない	581 18.7%	37 7.5%	845 23.1%	121 12.2%	1426 21.1%	158 10.6%	1584 19.2%
全く当てはまらない	57 1.8%	4 0.8%	63 1.7%	2 0.2%	120 1.8%	6 0.4%	126 1.5%
N/A	41 1.3%	5 1.0%	57 1.6%	21 2.1%	98 1.4%	26 1.8%	124 1.5%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

14 外国人の行動が奇妙に思えても、 それを良し悪しで判断せず、文化的な 差異ではないかと疑ってみることができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	1754 56.5%	377 76.5%	2025 55.3%	640 64.5%	3779 55.8%	1017 68.5%	4796 58.1%
どちらかという当てはまる	1154 37.2%	110 22.3%	1402 38.3%	298 30.0%	2556 37.8%	408 27.5%	2964 35.9%
ほとんど当てはまらない	146 4.7%	3 0.6%	158 4.3%	27 2.7%	304 4.5%	30 2.0%	334 4.0%
全く当てはまらない	13 0.4%	1 0.2%	25 0.7%	1 0.1%	38 0.6%	2 0.1%	40 0.5%
N/A	39 1.3%	2 0.4%	53 1.4%	26 2.6%	92 1.4%	28 1.9%	120 1.5%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

15 不十分な外国語力であっても、な んとか意味を伝えようと積極的に発信 することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
よく当てはまる	1602 51.6%	329 66.7%	1793 48.9%	613 61.8%	3395 50.2%	942 63.4%	4337 52.5%
どちらかという当てはまる	1220 39.3%	144 29.2%	1480 40.4%	311 31.4%	2700 39.9%	455 30.6%	3155 38.2%
ほとんど当てはまらない	225 7.2%	15 3.0%	320 8.7%	43 4.3%	545 8.1%	58 3.9%	603 7.3%
全く当てはまらない	20 0.6%	2 0.4%	19 0.5%	1 0.1%	39 0.6%	3 0.2%	42 0.5%
N/A	39 1.3%	3 0.6%	51 1.4%	24 2.4%	90 1.3%	27 1.8%	117 1.4%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

[今回の海外留学体験により、あなたの能力は向上しましたか。または、向上すると思いますか]



[今回の海外体験により、あなたの能力は向上しましたか。または、向上すると思いますか]

1 自分からやるべき課題を見つけ、先して取り組むことができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1872 60.3%	347 70.4%	2172 59.3%	703 70.9%	4044 59.7%	1050 70.7%	5094 61.7%
変わらない	1159 37.3%	142 28.8%	1397 38.1%	272 27.4%	2556 37.8%	414 27.9%	2970 36.0%
能力が落ちた	4 0.1%	0 0.0%	5 0.1%	2 0.2%	9 0.1%	2 0.1%	11 0.1%
N/A	71 2.3%	4 0.8%	89 2.4%	15 1.5%	160 2.4%	19 1.3%	179 2.2%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

2 仲間に働きかけて、問題点を一緒に改善するために行動することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1684 54.2%	267 54.2%	2117 57.8%	537 54.1%	3801 56.2%	804 54.1%	4605 55.8%
変わらない	1346 43.3%	220 44.6%	1453 39.7%	437 44.1%	2799 41.4%	657 44.2%	3456 41.9%
能力が落ちた	6 0.2%	3 0.6%	10 0.3%	5 0.5%	16 0.2%	8 0.5%	24 0.3%
N/A	70 2.3%	3 0.6%	83 2.3%	13 1.3%	153 2.3%	16 1.1%	169 2.0%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

3 自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1862 59.9%	354 71.8%	2119 57.8%	719 72.5%	3981 58.8%	1073 72.3%	5054 61.2%
変わらない	1164 37.5%	133 27.0%	1457 39.8%	250 25.2%	2621 38.7%	383 25.8%	3004 36.4%
能力が落ちた	11 0.4%	4 0.8%	3 0.1%	9 0.9%	14 0.2%	13 0.9%	27 0.3%
N/A	69 2.2%	2 0.4%	84 2.3%	14 1.4%	153 2.3%	16 1.1%	169 2.0%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

4 自分なりに現状分析して課題や問題点を具体的に提示することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1708 55.0%	322 65.3%	2053 56.0%	658 66.3%	3761 55.6%	980 66.0%	4741 57.4%
変わらない	1323 42.6%	169 34.3%	1524 41.6%	318 32.1%	2847 42.1%	487 32.8%	3334 40.4%
能力が落ちた	3 0.1%	1 0.2%	3 0.1%	2 0.2%	6 0.1%	3 0.2%	9 0.1%
N/A	72 2.3%	1 0.2%	83 2.3%	14 1.4%	155 2.3%	15 1.0%	170 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

5 課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1535 49.4%	266 54.0%	1831 50.0%	576 58.1%	3366 49.7%	842 56.7%	4208 51.0%
変わらない	1488 47.9%	222 45.0%	1740 47.5%	395 39.8%	3228 47.7%	617 41.5%	3845 46.6%
能力が落ちた	9 0.3%	1 0.2%	8 0.2%	8 0.8%	17 0.3%	9 0.6%	26 0.3%
N/A	74 2.4%	4 0.8%	84 2.3%	13 1.3%	158 2.3%	17 1.1%	175 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

6 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えで、意見やアイデアを工夫して提案できる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1546 49.8%	285 57.8%	1783 48.7%	554 55.8%	3329 49.2%	839 56.5%	4168 50.5%
変わらない	1482 47.7%	206 41.8%	1782 48.6%	421 42.4%	3264 48.2%	627 42.2%	3891 47.1%
能力が落ちた	5 0.2%	0 0.0%	11 0.3%	2 0.2%	16 0.2%	2 0.1%	18 0.2%
N/A	73 2.4%	2 0.4%	87 2.4%	15 1.5%	160 2.4%	17 1.1%	177 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

7 自分の意見を分かりやすく整理した上で相手に理解してもらえるように伝えることができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1897 61.1%	330 66.9%	2165 59.1%	669 67.4%	4062 60.0%	999 67.3%	5061 61.3%
変わらない	1135 36.5%	156 31.6%	1406 38.4%	306 30.8%	2541 37.5%	462 31.1%	3003 36.4%
能力が落ちた	5 0.2%	5 1.0%	7 0.2%	3 0.3%	12 0.2%	8 0.5%	20 0.2%
N/A	69 2.2%	2 0.4%	85 2.3%	14 1.4%	154 2.3%	16 1.1%	170 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

8 相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで相手の意見を引き出すことができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1516 48.8%	272 55.2%	1757 48.0%	530 53.4%	3273 48.4%	802 54.0%	4075 49.4%
変わらない	1509 48.6%	212 43.0%	1809 49.4%	446 45.0%	3318 49.0%	658 44.3%	3976 48.2%
能力が落ちた	9 0.3%	5 1.0%	12 0.3%	4 0.4%	21 0.3%	9 0.6%	30 0.4%
N/A	72 2.3%	4 0.8%	85 2.3%	12 1.2%	157 2.3%	16 1.1%	173 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

9 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	2052 66.1%	345 70.0%	2312 63.1%	724 73.0%	4364 64.5%	1069 72.0%	5433 65.8%
変わらない	974 31.4%	142 28.8%	1262 34.5%	248 25.0%	2236 33.0%	390 26.3%	2626 31.8%
能力が落ちた	6 0.2%	3 0.6%	5 0.1%	7 0.7%	11 0.2%	10 0.7%	21 0.3%
N/A	74 2.4%	3 0.6%	84 2.3%	13 1.3%	158 2.3%	16 1.1%	174 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

10 チームで仕事をするとき、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1880 60.5%	314 63.7%	2233 61.0%	646 65.1%	4113 60.8%	960 64.6%	5073 61.5%
変わらない	1143 36.8%	175 35.5%	1333 36.4%	329 33.2%	2476 36.6%	504 33.9%	2980 36.1%
能力が落ちた	5 0.2%	2 0.4%	13 0.4%	5 0.5%	18 0.3%	7 0.5%	25 0.3%
N/A	78 2.5%	2 0.4%	84 2.3%	12 1.2%	162 2.4%	14 0.9%	176 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

11 その場のルールや手続きに従って自らの行動や発言を適切にすることができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1789 57.6%	266 54.0%	2089 57.0%	631 63.6%	3878 57.3%	897 60.4%	4775 57.9%
変わらない	1233 39.7%	216 43.8%	1481 40.4%	332 33.5%	2714 40.1%	548 36.9%	3262 39.5%
能力が落ちた	8 0.3%	7 1.4%	11 0.3%	16 1.6%	19 0.3%	23 1.5%	42 0.5%
N/A	76 2.4%	4 0.8%	82 2.2%	13 1.3%	158 2.3%	17 1.1%	175 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

12 ストレス状況におかれても、自分の成長機会だとポジティブにとらえ、前向きに対処することができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	1991 64.1%	378 76.7%	2322 63.4%	744 75.0%	4313 63.7%	1122 75.6%	5435 65.8%
変わらない	1018 32.8%	104 21.1%	1225 33.4%	213 21.5%	2243 33.1%	317 21.3%	2560 31.0%
能力が落ちた	27 0.9%	8 1.6%	35 1.0%	20 2.0%	62 0.9%	28 1.9%	90 1.1%
N/A	70 2.3%	3 0.6%	81 2.2%	15 1.5%	151 2.2%	18 1.2%	169 2.0%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

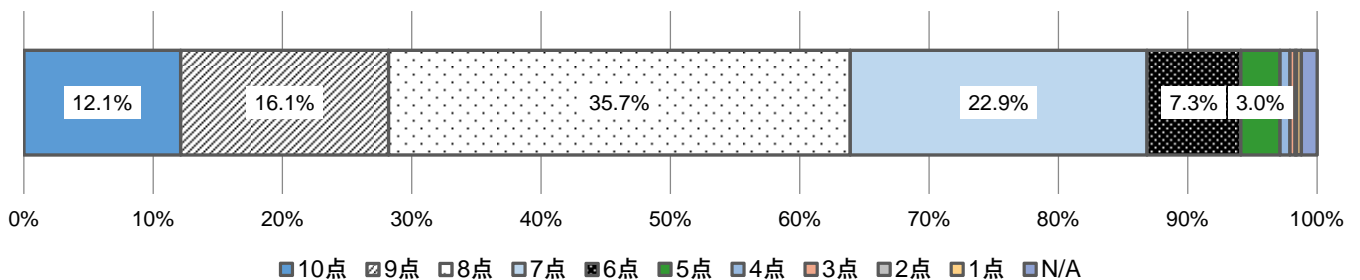
13 外国人との協働作業においても、その意思決定作業に参加し、自分の役割を果たすことができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	2093 67.4%	396 80.3%	2416 66.0%	795 80.1%	4509 66.6%	1191 80.2%	5700 69.1%
変わらない	931 30.0%	94 19.1%	1161 31.7%	181 18.2%	2092 30.9%	275 18.5%	2367 28.7%
能力が落ちた	11 0.4%	0 0.0%	6 0.2%	3 0.3%	17 0.3%	3 0.2%	20 0.2%
N/A	71 2.3%	3 0.6%	80 2.2%	13 1.3%	151 2.2%	16 1.1%	167 2.0%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

14 外国人の行動が奇妙に思えても、それを良し悪しで判断せず、文化的な差異ではないかと疑ってみることができる	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	2467 79.4%	419 85.0%	2886 78.8%	846 85.3%	5353 79.1%	1265 85.2%	6618 80.2%
変わらない	561 18.1%	70 14.2%	687 18.8%	129 13.0%	1248 18.4%	199 13.4%	1447 17.5%
能力が落ちた	8 0.3%	2 0.4%	8 0.2%	3 0.3%	16 0.2%	5 0.3%	21 0.3%
N/A	70 2.3%	2 0.4%	82 2.2%	14 1.4%	152 2.2%	16 1.1%	168 2.0%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

今回の海外体験の後で、あなたの能力は向上しましたか	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	2692 86.7%	444 90.1%	3134 85.6%	893 90.0%	5826 86.1%	1337 90.0%	7163 86.8%
変わらない	334 10.8%	45 9.1%	440 12.0%	82 8.3%	774 11.4%	127 8.6%	901 10.9%
能力が落ちた	8 0.3%	1 0.2%	6 0.2%	3 0.3%	14 0.2%	4 0.3%	18 0.2%
N/A	72 2.3%	3 0.6%	83 2.3%	14 1.4%	155 2.3%	17 1.1%	172 2.1%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

【問6】あなたは本事業による留学・研修の目的をどの程度達成(満足)できたと思いますか。10点満点で評価してください。

留学目的の達成度(満足度) [10点満点]



10点満点 で評価	H23		H24		ショートビジット	短期派遣	合計
	ショートビジット	短期派遣	ショートビジット	短期派遣	人 (%)	人 (%)	人 (%)
10点	410 13.2%	68 13.8%	388 10.6%	135 13.6%	798 11.8%	203 13.7%	1001 12.1%
9点	508 16.4%	100 20.3%	540 14.7%	179 18.0%	1048 15.5%	279 18.8%	1327 16.1%
8点	1123 36.2%	176 35.7%	1282 35.0%	365 36.8%	2405 35.5%	541 36.4%	2946 35.7%
7点	669 21.5%	104 21.1%	904 24.7%	217 21.9%	1573 23.2%	321 21.6%	1894 22.9%
6点	212 6.8%	28 5.7%	300 8.2%	59 5.9%	512 7.6%	87 5.9%	599 7.3%
5点	107 3.4%	9 1.8%	114 3.1%	20 2.0%	221 3.3%	29 2.0%	250 3.0%
4点	21 0.7%	5 1.0%	32 0.9%	6 0.6%	53 0.8%	11 0.7%	64 0.8%
3点	13 0.4%	0 0.0%	14 0.4%	5 0.5%	27 0.4%	5 0.3%	32 0.4%
2点	4 0.1%	0 0.0%	7 0.2%	0 0.0%	11 0.2%	0 0.0%	11 0.1%
1点	6 0.2%	0 0.0%	21 0.6%	2 0.2%	27 0.4%	2 0.1%	29 0.4%
N/A	33 1.1%	3 0.6%	61 1.7%	4 0.4%	94 1.4%	7 0.5%	101 1.2%
合計	3106 100.0%	493 100.0%	3663 100.0%	992 100.0%	6769 100.0%	1485 100.0%	8254 100.0%

平成 23 年度・24 年度留学生交流支援制度（短期派遣、ショートビジット）追加アンケートの統計分析について

(1) 分析する年度を平成 24 年度に限定した。

学生追加アンケートを対象として統計分析を行った。ショートビジットおよび短期派遣ともに平成 24 年のデータを分析対象とした。分析対象とする年度を限定した理由は、平成 23 年度と平成 24 年度の回答状況に共通する傾向が見られるためである。

(2) 学生の回答に分析の焦点を絞った。

大学からの回答よりも学生からの回答を重視し、大学からの回答についてはデータを加工しなかった。その理由は、短期留学の当事者は学生であり、彼らがどのような属性をもち、短期留学によってどのような成果を得たかを知ることが重要であると考えたからである。

(3) 統計分析

A) クロス集計

平成 24 年度のショートビジットと短期留学の回答のそれぞれについて、フェースシートの主要項目(①留学・研修開始時の学年、②留学・研修期間、③留学・研修地域、④留学・研修前オリエンテーション、⑤留学・研修期間中のインターンシップ経験の有無、および⑥問 1-1 海外に生活基盤を置いた経験の有無、⑦問 1-2 海外旅行の経験の有無)と問 2、問 3、問 4、問 5、問 6 とのクロスセクション分析を行った。ただし、問 5 に関しては、海外体験後の能力の向上の有無のみ分析対象とした。

B) 問 2「本事業の海外留学・研修において、あなたが得ることができたと思う項目全てに○をつけて下さい(複数回答可)」の 20 項目の間の関連度を調べるためにクラメールの関連指数を、平成 24 年度ショートビジットと短期派遣のデータを対象として算出した。クラメールの関連指数(連関係数とも呼ばれる) V は、名義尺度で測定された変数(カテゴリー変数)間の関連度を調べるためのもので、次式で定義される。

$$V = \sqrt{\frac{\chi^2}{n \cdot (\min[k, l] - 1)}} \quad (\text{クラメールの関連指数 } V)$$

ただし、 χ^2 はカイ 2 乗値、 n はデータ数、 k はクロス集計表の行数、 l はクロス集計表の列数、 $\min[k, l]$ は k と l のうち小さい方を選択することを表す。

クラメールの関連指数の値域は $0 \leq V \leq 1$ であり、 V が 1 に近いほど変数間の関連度は強いことを意味する。問 2 の 20 項目間の関連度はショートビジット、短期派遣のいずれについても弱かった。

C) 同じく、問 2 の 20 項目の要因間の関係性を集約的に示すことが可能かどうかを調べるために、平成 24 年度のショートビジットデータを対象として数量化理論Ⅲ類による分析を行った。その結果を示したのが次表である。この表に示されているように、算出された固有値のうち最大のものでもわずか 0.06 にすぎず、説明力ある共通成分を見いだすことが困難であることがわかった。

★★H24年度ショートビジットデータの数量化理論Ⅲ類による分析結果★★

有効ケース数：3634

解	固有値
1	0.06304
2	0.04336
3	0.04158
4	0.03656
5	0.03292

D) 問 5 の項目間の順位相関係数の算出

問 5 は 15 項目について「現在のあなたの能力を自己評価して下さい」と「今回の海外体験の後で、あなたの能力は向上しましたか」と尋ねるものであり、回答者は「よく当てはまる」、「どちらかという当てはまる」、「ほとんど当てはまらない」、「まったく当てはまらない」の 4 段階の評価の中からいずれかを選択することを求められる。この問 5 の項目間の関連度を調べるために、順位相関係数を、平成 24 年度のショートビジットと短期派遣のデータを用いて算出した。いずれのデータにおいても順位相関は全体的に低いことが明らかとなった。

E) 数量化理論Ⅰ類による留学・研修前と留学・研修後の TOEIC の得点の増減要因の分析

留学・研修前と留学・研修後の TOEIC の得点の増減を外的基準、①留学・研修期間、②事前オリエンテーション、③留学・研修中のインターンシップの有無、④海外生活経験の有無、⑤海外旅行経験をカテゴリ変数とする数量化理論Ⅰ類の分析を、平成 24 年度のショートビジット、短期派遣のそれぞれのデータについて行った。

ショートビジットの分析結果を示した次表に示されているように、ショートビジット経験者の TOEIC の得点の増減要因を説明するモデルの決定係数は極めて低く、モデルの説明力が弱い、つまり、どのカテゴリ変数も外的基準をうまく説明できないことが明らかとなった。他方、短期派遣のデータについてはカテゴリ変数が相互に一次従属であるために、逆行列を求めることができず、数量化理論Ⅰ類を用いることができなかった。以上から明らかなように、今回のアンケート調査結果からは英語能力に関する因果モデルを構築することが困難であった。

★★ H24年度ショートビジットデータの数量化 I 類 ★★

有効ケース数：653
 従属変数：TOEIC得点の増減
 独立変数：アイテム カテゴリー数
 留学・研修期間 2
 事前オリエンター 3
 インターンシップ経 2
 海外生活経験 2
 海外旅行回数 3

***** 相関係数行列 *****

	TOEIC得点 の増減	留学・研修 期間	事前オリエ ンターショ ン	インター ンシップ 経験	海外生活 経験
留学・研修期間	0.00				
事前オリエンター	0.11	-0.01			
インターンシップ経	0.11	-0.14	0.03		
海外生活経験	0.02	-0.05	0.02	0.00	
海外旅行経験	0.06	-0.06	0.14	0.09	0.31

***** ノーマライズドスコア *****

アイテム	カテゴリー	カテゴリー スコア	偏相関係数	t 値	P 値
留学・研修期間	2週間以内	1.93	0.016	0.413	0.680
	2週間以上	-0.63			
事前オリエンター	1	-19.10	0.099	2.536	0.011
	2	-5.93			
	3	4.54			
インターンシップ経	1	-3.59	0.104	2.670	0.008
	2	14.17			
海外生活経験	ない	0.09	0.003	0.068	0.946
	ある	-0.4			
海外旅行経験	1	2.82537269	0.032	0.810	0.418
	2	-0.9011042			
	3	-2.744			
定数項		74.2159265			

重相関係数 = 0.155
 決定係数（重相関係数の二乗） = 0.024

留学生交流支援制度（短期受入れ）経験者追加アンケート

2013年度日本学生支援機構（JASSO）短期受入れ奨学金受給者のみなさんへ

この度、本奨学金制度についてアンケートを実施することとなりました。奨学金受給者のみなさんがどのような体験をしたか、この奨学金制度にどのような効果があったか調査することによって、奨学金制度の今後のあり方の検討と改善につながります。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

※現在まだ日本留学中の方は、プログラム実施期間の3分の2以上を経過した方のみを対象とし、現時点での状態やこれからの予定についてご記入ください。

基本情報

①性別（1つに○）： 男性・女性

②日本で留学した学校名 _____

③日本で所属した学部・研究科名等 _____

④参加プログラム名称 _____

⑤留学開始時の出身大学等での学年：

（1つに○）

学部1年、学部2年、学部3年、学部4年以上、修士1年、修士2年、博士1年、博士2年、博士3年以上、短大1年、短大2年、短大3年以上、上記以外

⑥現在の留学状況： 留学終了 ・ 留学中

（1つに○）

⑦留学期間： 2週間未満、2週間～1カ月未満、1～2カ月未満、2～3カ月未満、3～6カ月未満、6カ月～1年

（1つに○）

⑧出身校所在地域： 北米、中南米、西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、アフリカ、中東、オセアニア、中国、韓国、台湾、アセアン、上記以外

（1つに○）

⑨渡日前のオリエンテーションの有無：

（1つに○）

十分あった ・ 少しあった ・ あまりなかった

⑩渡日後のオリエンテーションの有無：

（1つに○）

十分あった ・ 少しあった ・ あまりなかった

⑪留学中のインターンシップ経験の有無：

（1つに○）

ある ・ ない

* 参加プログラムにインターンシップが含まれている場合

（インターンシップについては、公的機関、企業、NGOにおける研修、大学研究室での研究体験、臨床実習体験、教育実習を含む。）

【問1】 今回の日本留学以前のあなたの外国での滞在経験についてお尋ねします。当てはまるものに○印をつけてください。

【問1-1】外国生活、長期滞在など日常生活の基盤を外国に置いた経験について

- () ① 1年以上の経験があった
- () ② 3カ月以上1年未満の経験があった
- () ③ 1カ月以上3カ月未満の経験があった
- () ④ なし (1カ月未満の経験があった場合を含む)

【問1-2】外国旅行の経験について

(問1-2-1) 外国旅行の回数について

- () ① 3回以上の経験があった
- () ② 1回～2回の経験があった
- () ③ なし

(問1-2-2) 問1-2-1で過去に外国旅行の経験があったと回答した方のみお答えください。
これまでの外国旅行経験を通算した場合の期間について

- () ① 1カ月以上
- () ② 2週間以上～1カ月未満
- () ③ 1週間以上～2週間未満
- () ④ 1週間未満

【問2】今回の日本留学において、あなたが得ることができたと思う項目全てに○をつけてください(複数回答可)。

[学業関連]

- () ① 専門分野の知識・資料収集
- () ② 日本の学問の水準や方法の理解
- () ③ 専門用語の習得
- () ④ 専門の勉強へのモチベーションの向上

[語学関連]

- () ⑤ 語学力(日本語または英語)の向上
- () ⑥ 外国語(日本語または英語)で発言する勇気や慣れ
- () ⑦ 外国語(日本語または英語)での研究発表や議論の仕方の向上
- () ⑧ 語学(日本語または英語)の勉強へのモチベーションの向上

[異文化理解関連]

- () ⑨ 異文化間コミュニケーション力の向上
- () ⑩ 生活習慣や文化の違いを肌で実感
- () ⑪ 日本の学生・社会人との交流を通じた人間理解
- () ⑫ 日本に関する知識の獲得
- () ⑬ 出身国・地域の文化や、当該国・地域出身者としての自分についての意識向上

[進学・就職関連]

- () ⑭ 進路や就職についての意識の向上
- () ⑮ 将来の方向性をつかむきっかけ

- () ⑯就活における強みの獲得
[その他]
- () ⑰困難を自力で乗り越える力量の向上
- () ⑱視野の拡大（出身国では得にくい視点の獲得）
- () ⑲外向き志向（国際志向性）の高まり
- () ⑳日本での人間関係・人脈の構築（日本人もしくは日本人以外）

【問3】 今回の日本留学プログラムにおける日本語力の変化についてお聞きします。

【問3-1】 今回の日本留学中に、日本語の講座（参加プログラムの授業以外の講座も含む）を受講しましたか。

- () ①留学先の学校の講座を受講した
- () ②留学先の学校以外で日本語を学んだ
- () ③日本語講座の受講や学習経験は全くなかった

【問3-2】 問3-1で①または②を選択した方のみお答えください。

今回の日本留学を経た後（留学終了直後の時点）の日本語力の変化について、当てはまるものに○印をつけてください。

	回答
①能力が向上した	
②変わらない	
③能力が落ちた	

【問3-3】 今回の日本留学の前や、日本留学開始後に、日本語能力試験（JLPT）、日本留学試験（EJU）等の日本語能力を測るための試験を受験しましたか。留学前及び留学後のそれぞれについて、当てはまるものに○印をつけてください。また、受験した場合、その試験の種類、スコアや級を記入してください。

[留学前]

日本留学開始前1年以内に語学試験を受験しましたか。

- () ①受験した
 - 受験した語学試験の種類 () (例) JLPT
 - 取得したスコア・級 () (例) N4
- () ②受験していない

[留学後]

日本留学開始後に語学試験を受験しましたか。

- () ①受験した
 - 受験した語学試験の種類 () (例) JLPT
 - 取得したスコア・級 () (例) N3
- () ②受験していない

【問4】 今回の日本留学を経た後の出身大学等での学業成績の変化や研究成果について、当てはまるものに○印をつけてください。

- () ①成績・研究成果が向上したと感じている
 () ②変わらないと感じている
 () ③成績・研究成果が低下したと感じている

【問5】 下記の1から15の各項目で当てはまる番号に○印を付けてください。

		現在のあなたの能力を自己評価してください				今回の日本体験により、あなたの能力は向上しましたか。または、向上すると思いますか。		
		よく当てはまる	どちらかという当てはまる	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない	能力が向上した	変わらない	能力が落ちた
1	自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができる	3	2	1	0	1	0	-1
2	仲間に働きかけて、問題点を一緒に改善するために行動することができる	3	2	1	0	1	0	-1
3	自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	3	2	1	0	1	0	-1
4	自分なりに現状分析して課題や問題点を具体的に提示することができる	3	2	1	0	1	0	-1
5	課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる	3	2	1	0	1	0	-1
6	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えで、意見やアイデアを工夫して提案できる	3	2	1	0	1	0	-1
7	自分の意見を分かりやすく整理した上で相手に理解してもらえるよう的確に伝えることができる	3	2	1	0	1	0	-1
8	相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで相手の意見を引き出すことができる	3	2	1	0	1	0	-1
9	自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる	3	2	1	0	1	0	-1
10	チームで仕事をするとき、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる	3	2	1	0	1	0	-1
11	その場のルールや手続きに従って自らの行動や発言を適切にすることができる	3	2	1	0	1	0	-1
12	ストレス状況におかれても、自分の成長機会だとポジティブにとらえ、前向きに対処することができる	3	2	1	0	1	0	-1
13	日本人や他国の留学生との協働作業においても、その意思決定作業に参加し、自分の役割を果たすことができる	3	2	1	0	1	0	-1
14	日本人や他国の留学生の行動が奇妙に思えても、それを良し悪しで判断せず、文化的な差異ではないかと疑ってみることができる	3	2	1	0	1	0	-1
15	不十分な語学力であっても、なんとか意味を伝えようと積極的に発信することができる	3	2	1	0	1	0	-1

【問6】あなたは今回の日本留学プログラムに参加した目的について、どの程度達成（満足）できたと思いますか。10点満点で評価してください。

_____点

【問7】日本で留学プログラムに参加された経験や印象についてお答えください。

【問7-1】下記の1から12までの各項目における日本留学での満足度を10（非常に満足）から1（非常に不満）までの数値で評価し、当てはまる数字に○を付けてください。

項目		10（非常に満足） ←					→（非常に不満） 1				
〔日常生活〕											
1	居住場所(宿舎)の設備・環境	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
2	大学へのアクセス	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
3	物価	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
4	食事	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
5	宗教・文化上の配慮	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
6	健康・衛生管理	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
〔学習・研究〕											
7	授業やプログラムの内容	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
8	学校の設備・学習環境	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
〔学校生活〕											
9	受入校の教員の指導・支援	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
10	受入校の職員の支援	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
11	日本人学生との交流	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
12	外国人学生との交流	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

【問7-2】将来日本とどのように関わりたいと思いますか。：

(いくつでも○)

日本で働きたい・日本に住みたい・また日本留学したい・日本関連の仕事
をしたい・日本関連のネットワークを継続して活用したい・旅行で来たい・
もう関わりたいとは思わない・まだわからない・
その他（ ）

【問7-3】同級生、後輩等に日本留学を勧めたいと思いますか。：

(1つに○)

強くそう思う・ややそう思う・どちらともいえない・あまりそう思
わない・全くそう思わない

【問7-4】問7-3で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を選んだ方に伺います。

上記の回答を選んだ要因や状況は何ですか。また、それらがどのように変われば、日本留学を勧めたくなると思いますか。いくつでも、ご自由にお書きください。

()

【問 8 - 1】 このアンケートで分かりづらい質問があった場合、その質問の番号を記入してください。

()

【問 8 - 2】 その他ご意見等があればお書きください。

()

ご協力ありがとうございました。 日本学生支援機構 (JASSO)

**Additional Questionnaire for Recipients of the Student Exchange Support Program
(Scholarship for Short-term Study in Japan)**

To recipients of the 2013/2014 JASSO scholarship for short-term study:

JASSO would like to conduct a questionnaire survey about this scholarship program. These questions about your experiences as scholarship recipients and your thoughts on what effect this scholarship has had will allow us to review and improve the program for the future. Thank you for your cooperation.

***If you are currently studying in Japan, please answer this questionnaire only when you have completed two-thirds or more of your program schedule, and write details below about your present situation and future plans.**

Basic information

1. Gender (circle one): male / female
2. Name of your host institution in Japan _____
3. Name of faculty or graduate school, etc. to which you belonged in Japan _____
4. Name of program you participated in _____
5. Academic level at your home institution when you started to study in Japan:

(Circle one.)

Undergraduate: 1st year, 2nd year, 3rd year, 4th year or above.
Master's Course: 1st year, 2nd year.
Doctoral Course: 1st year, 2nd year, 3rd year or above.
Junior College: 1st year, 2nd year, 3rd year or above,
Other than those above.

6. Have you completed your study program in Japan?

(Circle one.)

Yes, I have. No, I haven't.

7. Study-abroad period:

(Circle one.)

Less than 2 weeks, 2 weeks to less than 1 month, 1 month to less than 2 months, 2 months to less than 3 months, 3 months to less than 6 months, 6 months to one year.

8. Region where your home institution is located:

(Circle one.)

North America, Central & South America, Western Europe, Eastern Europe, Africa, Middle East, Oceania, China, Republic of Korea, Taiwan, ASEAN, other than those above.

9. Was any orientation program provided to you **before** going to Japan?

(Circle one.)

There was an adequate orientation program.
There was some orientation program.
There was barely any orientation program.

10. Was any orientation program provided to you **after** arriving in Japan?

(Circle one.)

There was an adequate orientation program. There was some orientation program. There was barely any orientation program.
--

11. Did you take part in an internship during your study in Japan?

(Circle one.)

Yes, I did. No. I didn't.

*In cases where an internship was included in your study program in Japan in which you participated, it includes training in public organizations, private companies or NGOs, research in university laboratories, clinical training, or teaching practice.

【Question 1】

These questions are about your experience of staying abroad before coming to Japan to study this time. Please place a circle by the response that applies.

【Question 1-1】

Regarding your experience in having the base of your daily life in foreign countries, by living or doing a long-term stay in foreign countries :

- () 1. I have lived in foreign countries for one year or more.
- () 2. I have lived in foreign countries from three to less than twelve months.
- () 3. I have lived in foreign countries from one to less than three months.
- () 4. I have no experience living in any foreign countries (choose this one if you have experiences to “stay” in foreign countries for less than one month).

【Question 1-2】 Experience of travelling abroad

(Question 1-2-1)

How many times had you travelled abroad before coming to Japan this time?

- () 1. Three times or more
- () 2. Once or twice
- () 3. Never

(Question 1-2-2)

Answer the following question only if you chose the item “1” or “2” in response to Question 1-2-1 above.

What is the total length of time you have spent travelling abroad?

- () 1. One month or more
- () 2. Two to less than four weeks
- () 3. One to less than two weeks

() 4. Less than one week

【Question 2】

Please place a circle by all the items that describe what you gained from your study in Japan this time. (Multiple responses are possible.)

[Related to study]

- () 1. Gathering of information and materials in your field of specialty
- () 2. Understanding of the standards and methods of academics in Japan
- () 3. Acquisition of specialized terminology
- () 4. Greater motivation for studying your specialty

[Related to language]

- () 5. Improved command of a foreign language (Japanese or English)
- () 6. Confidence and familiarity to speak a foreign language (Japanese or English)
- () 7. Improved presentation skills and discussion ability in a foreign language (Japanese or English)
- () 8. Greater motivation for studying a foreign language (Japanese or English)

[Related to cross-cultural understanding]

- () 9. Improved cross-cultural communication abilities
- () 10. First-hand experience of differences in lifestyle (custom) or culture
- () 11. Understanding of people through interactions with students and adults in Japan
- () 12. Acquisition of knowledge about Japan
- () 13. Greater awareness of your home culture or of yourself

[Related to further study or job placement]

- () 14. Greater awareness of further study or job placement opportunities
- () 15. Opportunity to discover your future direction
- () 16. Acquisition of advantages for job hunting

[Others]

- () 17. Enhanced ability to persevere and overcome difficulties
- () 18. Broadening of perspective (gaining perspective that cannot easily be acquired in your home country)
- () 19. Heightening of an outward-oriented (globally-oriented) attitude
- () 20. Building of human relationships and networks in Japan (with Japanese or non-Japanese)

【Question 3】

Tell us about the changes in your command (acquisition) of Japanese language through the study-in-Japan program.

【Question 3-1】

Have you attended any Japanese language classes (including classes given by other than the host

institution of the program you participated in) during the period of your study in Japan?

- () 1. I attended classes at my host institution.
- () 2. I studied Japanese elsewhere (not at my host institution).
- () 3. I neither attended Japanese language classes nor had any experience studying Japanese.

【Question 3-2】

Please answer the following question only if you chose the item “1” or “2” in response to Question 3-1 above.

Please place a circle by the item that describes the change of your command of Japanese language right after you completed your study program in Japan this time (immediately after you finished your study in Japan).

	Answer
1. My command of Japanese improved.	
2. There was no change.	
3. My command of Japanese declined.	

【Question 3-3】

Did you take an examination(s) to measure your Japanese language proficiency (such as JLPT, EJU, etc.) before coming to Japan to study or after starting your study program in Japan this time? Please place a circle by the items below that is applicable to you. If you have taken any of these exams, please fill in the name of the examination and your score or level.

[Before coming to Japan to study]

Had you taken a Japanese language examination within one year before you came to Japan to study?

- () 1. Yes, I had.
 - Specify the Japanese language examination taken. () (example) JLPT
 - Score or level achieved. () (example) N4
- () 2. No, I hadn't.

[After coming to Japan to study]

Did you take a Japanese language examination after starting your study program in Japan?

- () 1. Yes, I did.
 - Specify the Japanese language examination taken. () (example) JLPT
 - Score or level achieved. () (example) N3
- () 2. No, I didn't.

【Question 4】

Please place a circle by the item that describes your academic or research performance at the home institution where you are enrolled, after you completed your study program in Japan this time.

- () 1. I feel that my academic or research performance has improved.
 () 2. I feel there has been no change in my academic or research performance.
 () 3. I feel that my academic or research performance has declined.

【Question 5】

Please circle the number that corresponds to the response for each of the statements, numbered 1 to 15, below.

		Please do a self-evaluation of your present abilities				Do you think your abilities have improved or will improve as a result of having participated in this study abroad program to Japan?		
		Very applicable	Somewhat applicable	Only marginally applicable	Not applicable at all	Ability improved	No change	Ability declined
1	I find issues myself that should be taken up and I am able to take the initiative to tackle them.	3	2	1	0	1	0	-1
2	I am able to approach friends or colleagues and work together with them to tackle the issues.	3	2	1	0	1	0	-1
3	I am able to set myself a goal and work patiently without fear of failure.	3	2	1	0	1	0	-1
4	I am, in my own way, able to analyze the present situation and specifically identify issues or problems.	3	2	1	0	1	0	-1
5	I am able to work out processes for solving an issue and carry it out in a systematic way.	3	2	1	0	1	0	-1
6	I am able to devise and propose new ideas or opinions to address an issue without being trapped by conventional viewpoints.	3	2	1	0	1	0	-1
7	I am able to organize my opinions to make them easy to understand, and precisely express them, so that other people can understand them.	3	2	1	0	1	0	-1
8	I am able to create an environment that encourages other people to express themselves, and draw out their opinions at the right time.	3	2	1	0	1	0	-1
9	I am able to respond to other people with flexibility, respecting their opinions and position, without insisting on my own opinions or methods.	3	2	1	0	1	0	-1
10	When working as a part of a team, I am able to understand the relationship between myself and other members and surrounding matters.	3	2	1	0	1	0	-1

11	I am able to act and speak in an appropriate manner in accordance with the rules or procedures of any place or occasion.	3	2	1	0	1	0	-1
12	I am able to approach stressful situations in a positive way and as opportunities for personal growth, and respond in a constructive manner.	3	2	1	0	1	0	-1
13	When working with Japanese or international students, I am able to get involved in decision making and play a co-operative role.	3	2	1	0	1	0	-1
14	I do not judge the behavior of Japanese or international students to be good or bad, even if it appears strange, because there may be cultural differences.	3	2	1	0	1	0	-1
15	I try hard to convey what I mean and communicate without hesitation, even though my command of the language is insufficient.	3	2	1	0	1	0	-1

【Question 6】

What level of achievement (satisfaction) do you feel you have attained with regard to your objectives for participating in your study program in Japan at this time? Please evaluate your satisfaction on a scale of 1 to 10 (1 = extremely dissatisfied, 10 = extremely satisfied) in this regard.

Satisfaction level (1 – 10):

【Question 7】

Please answer the following questions about your experience and impressions regarding your study program in Japan.

【Question 7-1】 Please evaluate your satisfaction with your study program in Japan with respect to the following criteria, from 10 (extremely satisfied) to 1 (extremely dissatisfied). Circle the appropriate level.

Item		10 (extremely satisfied) ← →(extremely dissatisfied) 1									
[Daily life]											
1	Facilities and living environment of accommodation	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
2	Accessibility to host institution	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
3	Commodity prices	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
4	Meals and food	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
5	Consideration of religion and culture	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

6	Health and hygiene management	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
[Learning and research]											
7	Content of program and its lectures (classes)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
8	Facilities and learning environment of host institution	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
[Campus life]											
9	Advising and support provided by teaching staff of host institution	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
10	Advising and support provided by administrative staff of host institution	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
11	Exchange (interaction) with Japanese students	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
12	Exchange (interaction) with other international students	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

【Question 7-2】 How do you want to continue your involvement with Japan in the future?

(Circle all that apply.)

I want to work in Japan. I want to live in Japan. I want to study in Japan again. I want to get a job related to Japan. I want to keep on utilizing the networks I have established in Japan. I want to travel in Japan. I do not want to continue my involvement with Japan. I am not sure. Other.

【Question 7-3】 Would you recommend studying in Japan to your fellow students, juniors, and others?

(Circle one.)

Strongly recommend. Slightly recommend. Neutral.
Slightly not recommend. Strongly not recommend.

【Question 7-4】 Please answer the following question only if you chose “Slightly not recommend” or “Strongly not recommend” in response to Question 7-3 above.

What made you choose “Slightly not recommend” or “Strongly not recommend”? In the space below, please write any reasons or problems for your answer. Also, based on your experiences in Japan, it would be very much appreciative if you could write your suggestions and opinions that could improve studying in Japan and appeal the country as an attractive study abroad destination eventually.

()

【Question 8-1】

In the space below, write the question numbers in this questionnaire if there are any ones that were difficult to understand or respond:

()

【Question 8-2】

Please write any comments or opinions in the space below:

()

Thank you very much. We greatly appreciate your cooperation.

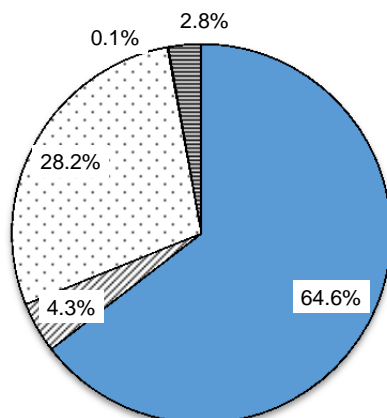
(JASSO)

平成25年度 留学生交流支援制度（短期受入れ）追加アンケート調査結果（要約）【学生】

[I] アンケート回答者の基本情報（フェースシートの要約）

(1) 短期留学生の受入校種別

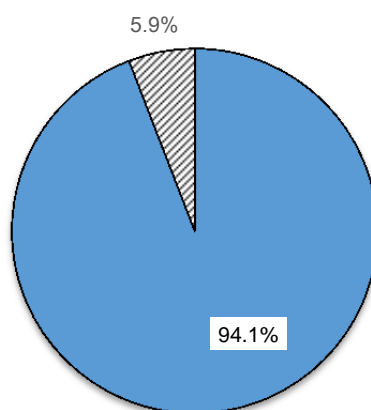
学校種別留学生受入割合(全体)



学校種別	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
国立大学	712	(63.9%)	743	(65.2%)	1455	(64.6%)
公立大学	50	(4.5%)	48	(4.2%)	98	(4.3%)
私立大学	308	(27.6%)	328	(28.8%)	636	(28.2%)
短期大学	2	(0.2%)	0	(0.0%)	2	(0.1%)
高等専門学校	42	(3.8%)	21	(1.8%)	63	(2.8%)
計	1114	(100.0%)	1140	(100.0%)	2254	(100.0%)

(2) 現在の留学状況

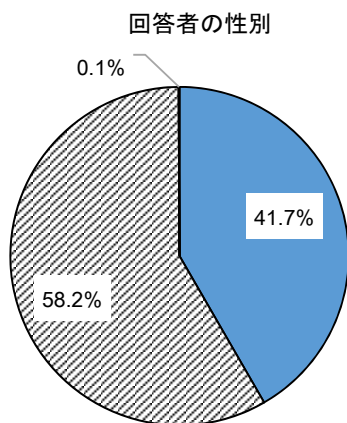
現在の留学状況



現在の留学状況	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
留学終了	1078	(96.8%)	1044	(91.6%)	2122	(94.1%)
留学中	36	(3.2%)	96	(8.4%)	132	(5.9%)
N/A	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
計	1114	(100.0%)	1140	(100.0%)	2254	(100.0%)

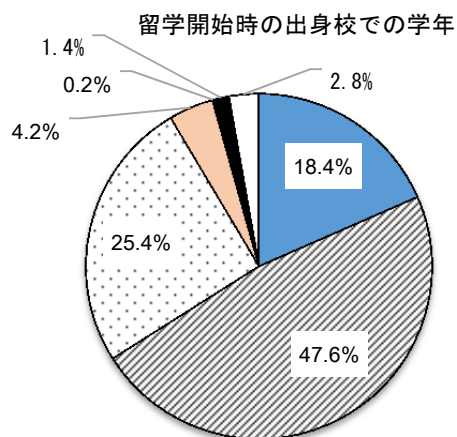
※上の図表から明らかなように、アンケート回答者の94.1%が留学終了者であり、留学中と答えた回答者は少ない。このため、以下においては分析対象を留学終了者に限定する。

(3) 性別 (留学終了者)



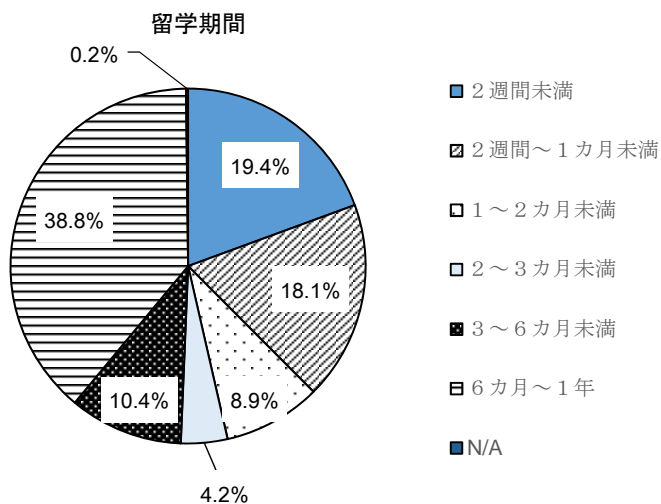
性別	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
男性	470	(43.6%)	414	(39.7%)	884	(41.7%)
女性	607	(56.3%)	629	(60.2%)	1236	(58.2%)
N/A	1	(0.1%)	1	(0.1%)	2	(0.1%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

(4) 留学開始時の出身校での学年 (留学終了者)



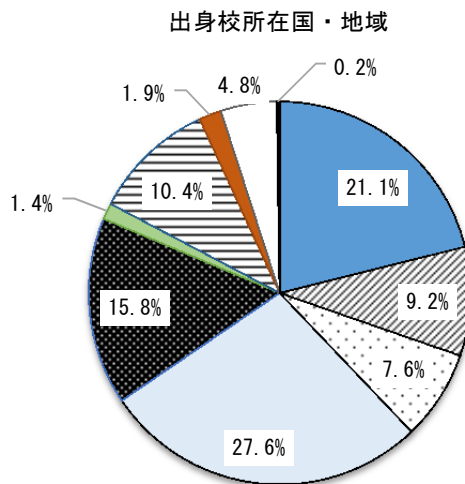
留学開始時の学年	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
学部1・2年	271	(25.1%)	120	(11.5%)	391	(18.4%)
学部3年以上	443	(41.1%)	567	(54.3%)	1010	(47.6%)
修士課程	262	(24.3%)	278	(26.6%)	540	(25.4%)
博士課程	59	(5.5%)	30	(2.9%)	89	(4.2%)
短大	4	(0.4%)	0	(0.0%)	4	(0.2%)
上記以外	21	(1.9%)	8	(0.8%)	29	(1.4%)
N/A	18	(1.7%)	41	(3.9%)	59	(2.8%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

(5) 留学期間（留学終了者）



留学期間	人	(%)
2週間未満	412	(19.4%)
2週間～1カ月未満	384	(18.1%)
1～2カ月未満	189	(8.9%)
2～3カ月未満	90	(4.2%)
3～6カ月未満	220	(10.4%)
6カ月～1年	823	(38.8%)
N/A	4	(0.2%)
計	2122	(100.0%)

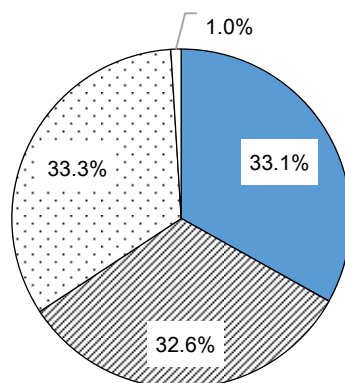
(6) 留學生の出身校所在国・所在地域（留学終了者）



出身校所在地域	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
中国	199	(18.5%)	249	(23.9%)	448	(21.1%)
韓国	100	(9.3%)	95	(9.1%)	195	(9.2%)
台湾	103	(9.6%)	58	(5.6%)	161	(7.6%)
アセアン	379	(35.2%)	207	(19.8%)	586	(27.6%)
西ヨーロッパ	102	(9.5%)	234	(22.4%)	336	(15.8%)
東ヨーロッパ	5	(0.5%)	24	(2.3%)	29	(1.4%)
北米	93	(8.6%)	128	(12.3%)	221	(10.4%)
オセアニア	27	(2.5%)	13	(1.2%)	40	(1.9%)
上記以外	66	(6.1%)	35	(3.4%)	101	(4.8%)
N/A	4	(0.4%)	1	(0.1%)	5	(0.2%)
計	1078	100%	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

(7) 渡日前のオリエンテーション（留学終了者）

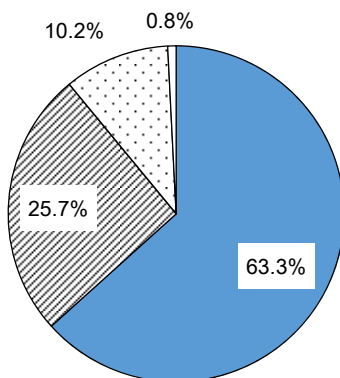
渡日前のオリエンテーション



渡日前のオリエンテーション	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
十分あった	402	(37.3%)	301	(28.8%)	703	(33.1%)
少しあった	343	(31.8%)	349	(33.4%)	692	(32.6%)
あまりなかった	322	(29.9%)	384	(36.8%)	706	(33.3%)
N/A	11	(1.0%)	10	(1.0%)	21	(1.0%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

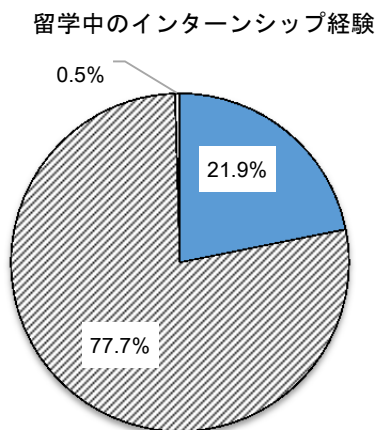
(8) 渡日後のオリエンテーション（留学終了者）

渡日後のオリエンテーション



渡日後のオリエンテーション	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
十分あった	618	(57.3%)	726	(69.5%)	1344	(63.3%)
少しあった	314	(29.1%)	231	(22.1%)	545	(25.7%)
あまりなかった	138	(12.8%)	78	(7.5%)	216	(10.2%)
N/A	8	(0.7%)	9	(0.9%)	17	(0.8%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

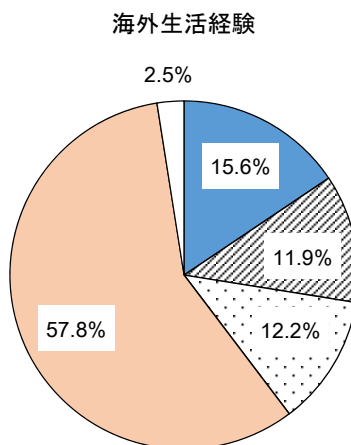
(9) 留学中のインターンシップ経験の有無（留学終了者）



留学中のインターンシップ経験	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
ある	270	(25.0%)	194	(18.6%)	464	(21.9%)
ない	802	(74.4%)	846	(81.0%)	1648	(77.7%)
N/A	6	(0.6%)	4	(0.4%)	10	(0.5%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

【問1】今回の日本留学以前のあなたの外国での滞在経験についてお尋ねします。当てはまるものに○印をつけてください。

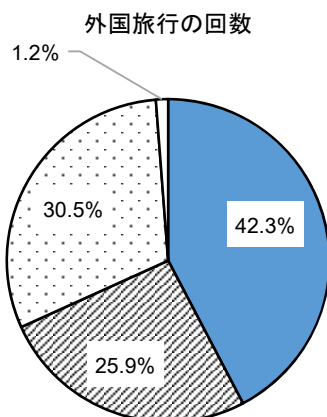
【問1-1】外国生活、長期滞在など日常生活の基盤を外国に置いた経験について



外国生活・長期滞在経験	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
1年以上の経験	141	(13.1%)	190	(18.2%)	331	(15.6%)
3カ月以上1年未満の経験	78	(7.2%)	175	(16.8%)	253	(11.9%)
1カ月以上3カ月未満の経験	174	(16.1%)	84	(8.0%)	258	(12.2%)
なし(1カ月未満の経験を含む)	659	(61.1%)	568	(54.4%)	1227	(57.8%)
N/A	26	(2.4%)	27	(2.6%)	53	(2.5%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

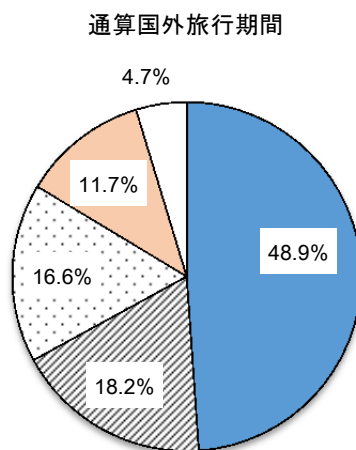
【問 1-2】 外国旅行の経験について

[問 1-2-1] 外国旅行の回数について



外国旅行の回数	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
3回以上の経験があった	447	(41.5%)	451	(43.2%)	898	(42.3%)
1回～2回の経験があった	290	(26.9%)	260	(24.9%)	550	(25.9%)
なし	328	(30.4%)	320	(30.7%)	648	(30.5%)
N/A	13	(1.2%)	13	(1.2%)	26	(1.2%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

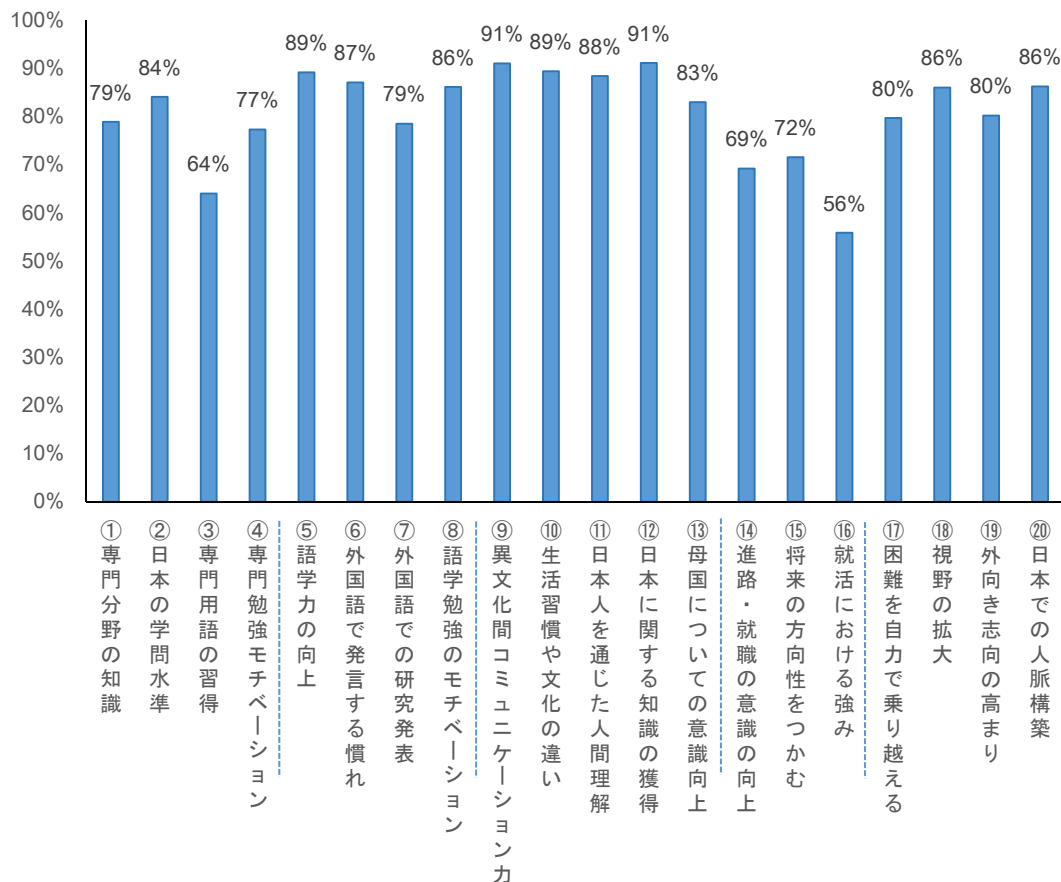
[問 1-2-2] これまでの外国旅行経験を通算した場合の期間について（問 1-2-1 で過去に外国旅行経験ありと回答した者のみ回答）。



外国旅行の通算期間	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
1カ月以上	361	(49.0%)	347	(48.8%)	708	(48.9%)
2週間以上～1カ月未満	142	(19.3%)	121	(17.0%)	263	(18.2%)
1週間以上～2週間未満	108	(14.7%)	132	(18.6%)	240	(16.6%)
1週間未満	93	(12.6%)	76	(10.7%)	169	(11.7%)
N/A	33	(4.5%)	35	(4.9%)	68	(4.7%)
計	737	(100.0%)	711	(100.0%)	1448	(100.0%)

【問2】今回の日本留学において、あなたが得ることができたと思う項目全てに○をつけてください（複数回答可）

日本留学で得ることができたと思うこと

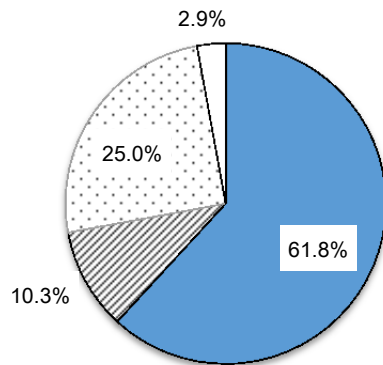


領域	今回の日本留学において、あなたが得ることができたと思う項目(複数回答)	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)
学業	①専門分野の知識・資料収集	809	(75.0%)	866	(83.0%)	1675	(78.9%)
	②日本の学問の水準や方法の理解	880	(81.6%)	905	(86.7%)	1785	(84.1%)
	③専門用語の習得	668	(62.0%)	691	(66.2%)	1359	(64.0%)
	④専門の勉強へのモチベーションの向上	823	(76.3%)	818	(78.4%)	1641	(77.3%)
語学	⑤語学力(日本語または英語)の向上	895	(83.0%)	998	(95.6%)	1893	(89.2%)
	⑥外国語(日本語または英語)で発言する勇気や慣れ	886	(82.2%)	963	(92.2%)	1849	(87.1%)
	⑦外国語(日本語または英語)での研究発表や議論の仕方の向上	813	(75.4%)	854	(81.8%)	1667	(78.6%)
	⑧語学(日本語または英語)の勉強へのモチベーションの向上	892	(82.7%)	937	(89.8%)	1829	(86.2%)
異文化理解	⑨異文化間コミュニケーション力の向上	956	(88.7%)	977	(93.6%)	1933	(91.1%)
	⑩生活習慣や文化の違いを肌で実感	924	(85.7%)	974	(93.3%)	1898	(89.4%)
	⑪日本の学生・社会人との交流を通じた人間理解	927	(86.0%)	950	(91.0%)	1877	(88.5%)
	⑫日本に関する知識の獲得	954	(88.5%)	981	(94.0%)	1935	(91.2%)
	⑬出身国・地域の文化や、当該国・地域出身者としての自分についての意識向上	851	(78.9%)	911	(87.3%)	1762	(83.0%)
進学就職	⑭進路や就職についての意識の向上	724	(67.2%)	745	(71.4%)	1469	(69.2%)
	⑮将来の方向性をつかむきっかけ	744	(69.0%)	775	(74.2%)	1519	(71.6%)
	⑯就活における強みの獲得	546	(50.6%)	640	(61.3%)	1186	(55.9%)
その他	⑰困難を自力で乗り越える力量の向上	788	(73.1%)	904	(86.6%)	1692	(79.7%)
	⑱視野の拡大(出身国では得にくい視点の獲得)	891	(82.7%)	935	(89.6%)	1826	(86.1%)
	⑲外向き志向(国際志向性)の高まり	823	(76.3%)	880	(84.3%)	1703	(80.3%)
	⑳日本での人間関係・人脈の構築(日本人もしくは日本人以外)	900	(83.5%)	931	(89.2%)	1831	(86.3%)
回答者数		1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

【問3】 今回の日本留学プログラムにおける日本語力の変化についてお聞きします。

【問3-1】 今回の日本留学中に、日本語の講座（参加プログラムの授業以外の講座も含む）を受講しましたか。

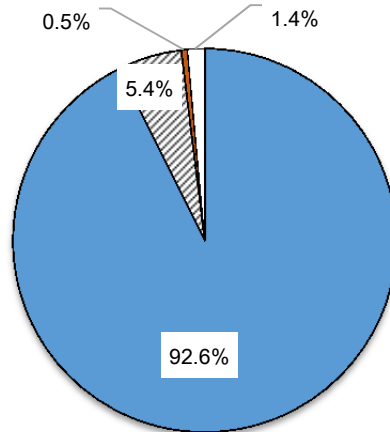
留学中の日本語講座の受講



	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
留学先の学校の講座を受講した	468	(43.4%)	844	(80.8%)	1312	(61.8%)
留学先の学校以外で日本語を学んだ	150	(13.9%)	68	(6.5%)	218	(10.3%)
日本語講座の受講や学習経験は全くなかった	424	(39.3%)	107	(10.2%)	531	(25.0%)
N/A	36	(3.3%)	25	(2.4%)	61	(2.9%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

【問3-2】 今回の日本留学を経た後（留学終了直後の時点）の日本語力の変化について、当てはまるものに○印をつけてください（問3-1で日本語講座を受講した回答者のみ）。

留学終了直後の日本語の変化

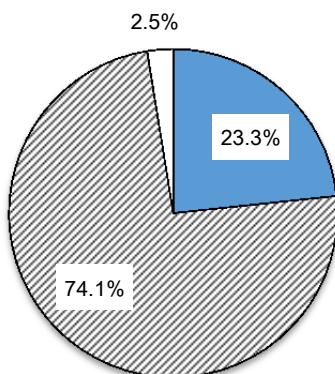


留学終了直後の日本語力の変化	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
能力が向上した	540	(87.4%)	877	(96.2%)	1417	(92.6%)
変わらない	59	(9.5%)	24	(2.6%)	83	(5.4%)
能力が落ちた	3	(0.5%)	5	(0.5%)	8	(0.5%)
N/A	16	(2.6%)	6	(0.7%)	22	(1.4%)
計	618	(100.0%)	912	(100.0%)	1530	(100.0%)

【問3-3】今回の日本留学の前や、日本留学開始後に、日本語能力試験（JLPT）、日本留学試験（EJU）等の日本語能力を測るための試験を受験しましたか。留学前及び留学後のそれぞれについて、当てはまるものに○印をつけてください。

〔留学前〕 日本留学開始1年以内に語学試験を受験しましたか。

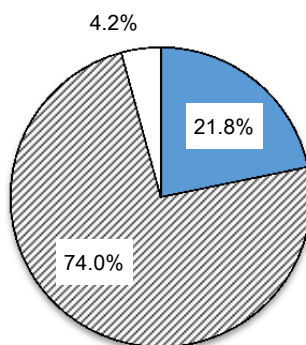
留学開始前の語学試験受験



日本留学開始前1年以内の語学試験の受験	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
受験した	184	(17.1%)	311	(29.8%)	495	(23.3%)
受験していない	866	(80.3%)	707	(67.7%)	1573	(74.1%)
N/A	28	(2.6%)	26	(2.5%)	54	(2.5%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

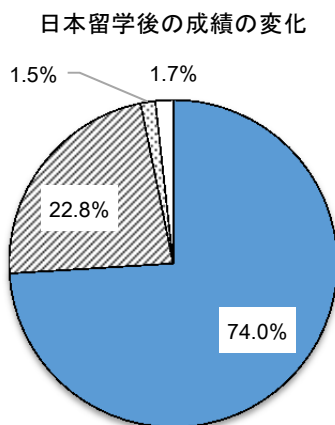
〔留学後〕 日本留学開始後に語学試験を受験しましたか。

留学開始後の語学試験受験



日本留学開始後の語学試験の受験	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
受験した	140	(13.0%)	322	(30.8%)	462	(21.8%)
受験していない	881	(81.7%)	689	(66.0%)	1570	(74.0%)
N/A	57	(5.3%)	33	(3.2%)	90	(4.2%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

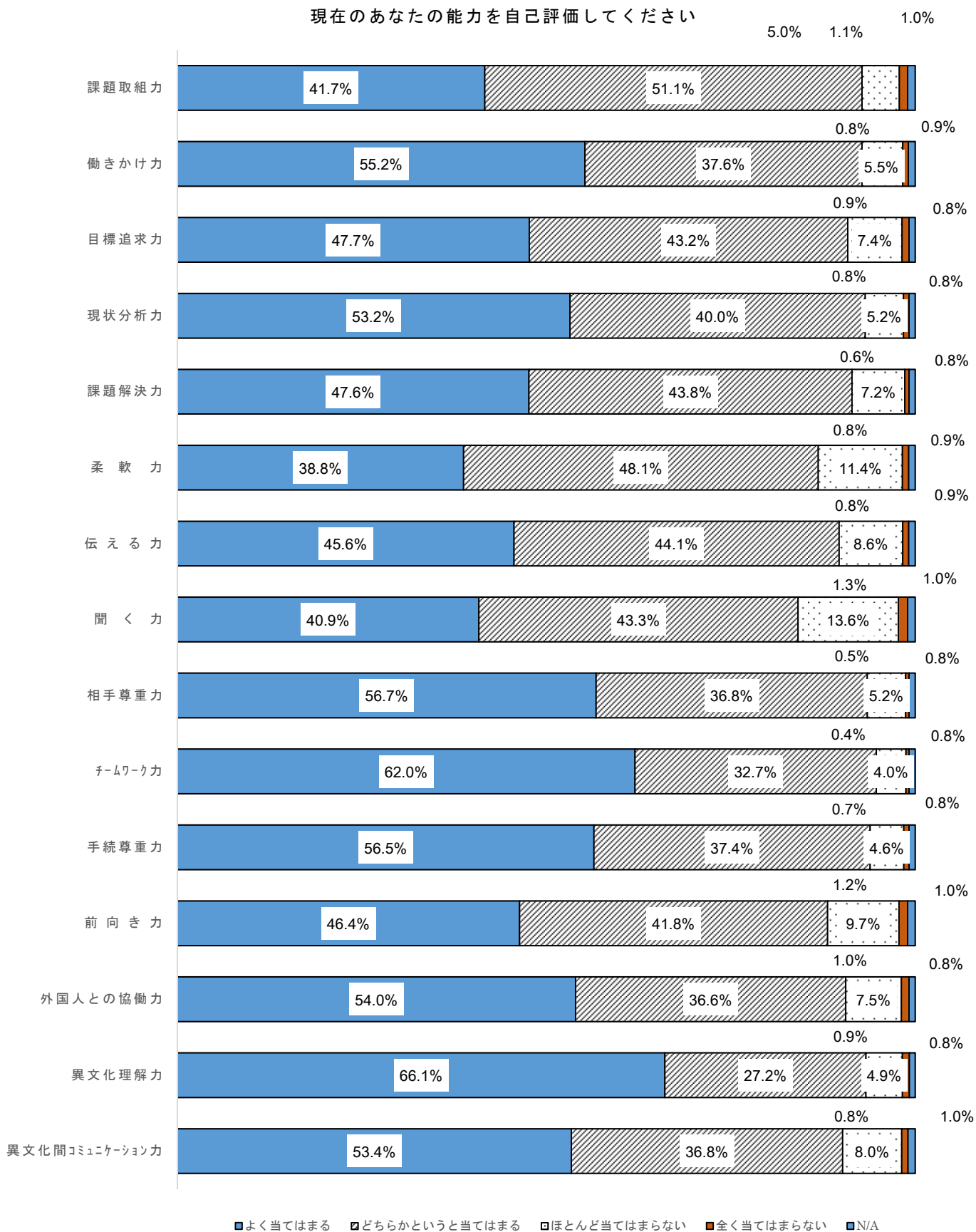
【問4】今回の日本留学を経た後の出身大学等での学業成績の変化や研究成果について、当てはまるものに○印をつけてください。



日本留学後の出身大学等での学業成績の変化や研究成果	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
成績・研究成果が向上したと感じている	818	(75.9%)	753	(72.1%)	1571	(74.0%)
変わらないと感じている	226	(21.0%)	257	(24.6%)	483	(22.8%)
成績・研究成果が低下したと感じている	15	(1.4%)	16	(1.5%)	31	(1.5%)
N/A	19	(1.8%)	18	(1.7%)	37	(1.7%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

【問5】下記の1から15の各項目で当てはまる番号に○印をつけてください。

〔現在のあなたの能力を自己評価してください〕



〔現在のあなたの能力を自己評価してください〕 項目 1～8

	1. 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができる						2. 仲間に働きかけて、問題点を一緒に改善するために行動することができる					
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
よく当てはまる	423	(39.2%)	461	(44.2%)	884	(41.7%)	598	(55.5%)	574	(55.0%)	1172	(55.2%)
どちらかという当てはまる	575	(53.3%)	510	(48.9%)	1085	(51.1%)	404	(37.5%)	393	(37.6%)	797	(37.6%)
ほとんど当てはまらない	55	(5.1%)	52	(5.0%)	107	(5.0%)	56	(5.2%)	61	(5.8%)	117	(5.5%)
全く当てはまらない	10	(0.9%)	14	(1.3%)	24	(1.1%)	7	(0.6%)	9	(0.9%)	16	(0.8%)
N/A	15	(1.4%)	7	(0.7%)	22	(1.0%)	13	(1.2%)	7	(0.7%)	20	(0.9%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

	3. 自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる						4. 自分なりに現状分析して課題や問題点を具体的に提示することができる					
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
よく当てはまる	497	(46.1%)	515	(49.3%)	1012	(47.7%)	545	(50.6%)	584	(55.9%)	1129	(53.2%)
どちらかという当てはまる	482	(44.7%)	434	(41.6%)	916	(43.2%)	453	(42.0%)	396	(37.9%)	849	(40.0%)
ほとんど当てはまらない	79	(7.3%)	77	(7.4%)	156	(7.4%)	63	(5.8%)	47	(4.5%)	110	(5.2%)
全く当てはまらない	9	(0.8%)	11	(1.1%)	20	(0.9%)	6	(0.6%)	10	(1.0%)	16	(0.8%)
N/A	11	(1.0%)	7	(0.7%)	18	(0.8%)	11	(1.0%)	7	(0.7%)	18	(0.8%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

	5. 課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる						6. 既存の発想にとらわれず、新しい考えで意見やアイデアを工夫して提案できる					
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
よく当てはまる	490	(45.5%)	521	(49.9%)	1011	(47.6%)	385	(35.7%)	438	(42.0%)	823	(38.8%)
どちらかという当てはまる	486	(45.1%)	443	(42.4%)	929	(43.8%)	536	(49.7%)	484	(46.4%)	1020	(48.1%)
ほとんど当てはまらない	86	(8.0%)	66	(6.3%)	152	(7.2%)	136	(12.6%)	106	(10.2%)	242	(11.4%)
全く当てはまらない	5	(0.5%)	7	(0.7%)	12	(0.6%)	10	(0.9%)	8	(0.8%)	18	(0.8%)
N/A	11	(1.0%)	7	(0.7%)	18	(0.8%)	11	(1.0%)	8	(0.8%)	19	(0.9%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

	7. 自分の意見を分かりやすく整理した上で相手に理解してもらえるよう的確に伝えることができる						8. 相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで相手の意見を引き出すことができる					
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
よく当てはまる	484	(44.9%)	484	(46.4%)	968	(45.6%)	408	(37.8%)	459	(44.0%)	867	(40.9%)
どちらかという当てはまる	490	(45.5%)	445	(42.6%)	935	(44.1%)	483	(44.8%)	435	(41.7%)	918	(43.3%)
ほとんど当てはまらない	86	(8.0%)	97	(9.3%)	183	(8.6%)	161	(14.9%)	127	(12.2%)	288	(13.6%)
全く当てはまらない	7	(0.6%)	10	(1.0%)	17	(0.8%)	11	(1.0%)	16	(1.5%)	27	(1.3%)
N/A	11	(1.0%)	8	(0.8%)	19	(0.9%)	15	(1.4%)	7	(0.7%)	22	(1.0%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

〔現在のあなたの能力を自己評価してください〕 項目 9～15

	9. 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる					10. チームで仕事をするとき、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
よく当てはまる	580	(53.8%)	624	(59.8%)	1204	(56.7%)	672	(62.3%)	644	(61.7%)	1316	(62.0%)
どちらかという当てはまる	421	(39.1%)	359	(34.4%)	780	(36.8%)	345	(32.0%)	349	(33.4%)	694	(32.7%)
ほとんど当てはまらない	62	(5.8%)	48	(4.6%)	110	(5.2%)	49	(4.5%)	36	(3.4%)	85	(4.0%)
全く当てはまらない	4	(0.4%)	6	(0.6%)	10	(0.5%)	2	(0.2%)	7	(0.7%)	9	(0.4%)
N/A	11	(1.0%)	7	(0.7%)	18	(0.8%)	10	(0.9%)	8	(0.8%)	18	(0.8%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

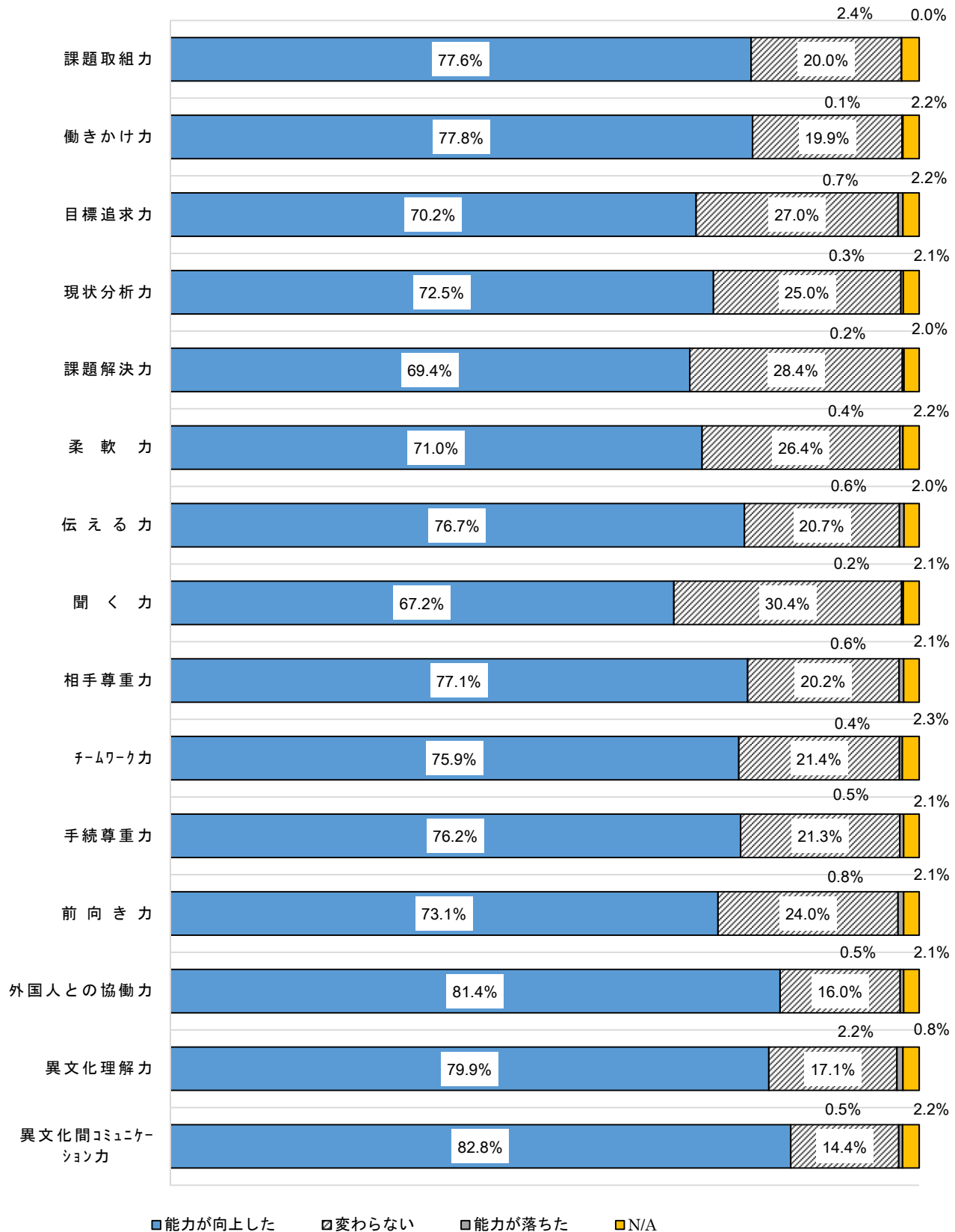
	11. その場のルールや手続きに従って自らの行動や発言を適切にすることができる					12. ストレス状況におかれても、自分の成長機会だとポジティブにとらえ、前向きに対処することができる						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
よく当てはまる	585	(54.3%)	613	(58.7%)	1198	(56.5%)	483	(44.8%)	501	(48.0%)	984	(46.4%)
どちらかという当てはまる	420	(39.0%)	374	(35.8%)	794	(37.4%)	471	(43.7%)	415	(39.8%)	886	(41.8%)
ほとんど当てはまらない	57	(5.3%)	40	(3.8%)	97	(4.6%)	96	(8.9%)	109	(10.4%)	205	(9.7%)
全く当てはまらない	7	(0.6%)	8	(0.8%)	15	(0.7%)	15	(1.4%)	10	(1.0%)	25	(1.2%)
N/A	9	(0.8%)	9	(0.9%)	18	(0.8%)	13	(1.2%)	9	(0.9%)	22	(1.0%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

	13. 日本人や他国の留学生との協働作業においても、その意思決定作業に参加し、自分の役割を果たすことができる					14. 日本人や他国の留学生の行動が奇妙に思えても、それを良し悪しで判断せず、文化的な差異ではないかと疑ってみることができる						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
よく当てはまる	553	(51.3%)	592	(56.7%)	1145	(54.0%)	736	(68.3%)	666	(63.8%)	1402	(66.1%)
どちらかという当てはまる	419	(38.9%)	358	(34.3%)	777	(36.6%)	265	(24.6%)	313	(30.0%)	578	(27.2%)
ほとんど当てはまらない	85	(7.9%)	75	(7.2%)	160	(7.5%)	62	(5.8%)	43	(4.1%)	105	(4.9%)
全く当てはまらない	12	(1.1%)	10	(1.0%)	22	(1.0%)	8	(0.7%)	12	(1.1%)	20	(0.9%)
N/A	9	(0.8%)	9	(0.9%)	18	(0.8%)	7	(0.6%)	10	(1.0%)	17	(0.8%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

	15. 不十分な語学力であっても、なんとか意味を伝えようと積極的に発信することができる					
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
よく当てはまる	564	(52.3%)	569	(54.5%)	1133	(53.4%)
どちらかという当てはまる	406	(37.7%)	374	(35.8%)	780	(36.8%)
ほとんど当てはまらない	90	(8.3%)	80	(7.7%)	170	(8.0%)
全く当てはまらない	6	(0.6%)	12	(1.1%)	18	(0.8%)
N/A	12	(1.1%)	9	(0.9%)	21	(1.0%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

〔今回の日本体験により、あなたの能力は向上しましたか。または、向上すると思いますか〕

今回の日本体験により、あなたの能力は向上しましたか



〔今回の日本体験により、あなたの能力は向上しましたか。または、向上すると思いますか〕 項目1～8

	1. 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができる			2. 仲間に働きかけて、問題点を一緒に改善するために行動することができる		
	留学期間3カ月未満	留学期間3カ月以上	計	留学期間3カ月未満	留学期間3カ月以上	計
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	842 (78.1%)	804 (77.0%)	1646 (77.6%)	874 (81.1%)	776 (74.3%)	1650 (77.8%)
変わらない	211 (19.6%)	214 (20.5%)	425 (20.0%)	181 (16.8%)	242 (23.2%)	423 (19.9%)
能力が落ちた	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.3%)	3 (0.1%)
N/A	25 (2.3%)	25 (2.4%)	50 (2.4%)	23 (2.1%)	23 (2.2%)	46 (2.2%)
計	1078 (100.0%)	1044 (100.0%)	2122 (100.0%)	1078 (100.0%)	1044 (100.0%)	2122 (100.0%)

	3. 自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる			4. 自分なりに現状分析して課題や問題点を具体的に提示することができる		
	留学期間3カ月未満	留学期間3カ月以上	計	留学期間3カ月未満	留学期間3カ月以上	計
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	757 (70.2%)	733 (70.2%)	1490 (70.2%)	792 (73.5%)	747 (71.6%)	1539 (72.5%)
変わらない	289 (26.8%)	283 (27.1%)	572 (27.0%)	258 (23.9%)	273 (26.1%)	531 (25.0%)
能力が落ちた	8 (0.7%)	6 (0.6%)	14 (0.7%)	5 (0.5%)	2 (0.2%)	7 (0.3%)
N/A	24 (2.2%)	22 (2.1%)	46 (2.2%)	23 (2.1%)	22 (2.1%)	45 (2.1%)
計	1078 (100.0%)	1044 (100.0%)	2122 (100.0%)	1078 (100.0%)	1044 (100.0%)	2122 (100.0%)

	5. 課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる			6. 既存の発想にとらわれず、新しい考えで意見やアイデアを工夫して提案できる		
	留学期間3カ月未満	留学期間3カ月以上	計	留学期間3カ月未満	留学期間3カ月以上	計
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	757 (70.2%)	715 (68.5%)	1472 (69.4%)	755 (70.0%)	752 (72.0%)	1507 (71.0%)
変わらない	298 (27.6%)	304 (29.1%)	602 (28.4%)	297 (27.6%)	263 (25.2%)	560 (26.4%)
能力が落ちた	1 (0.1%)	4 (0.4%)	5 (0.2%)	3 (0.3%)	6 (0.6%)	9 (0.4%)
N/A	22 (2.0%)	21 (2.0%)	43 (2.0%)	23 (2.1%)	23 (2.2%)	46 (2.2%)
計	1078 (100.0%)	1044 (100.0%)	2122 (100.0%)	1078 (100.0%)	1044 (100.0%)	2122 (100.0%)

	7. 自分の意見を分かりやすく整理した上で相手に理解してもらえよう的確に伝えることができる			8. 相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで相手の意見を引き出すことができる		
	留学期間3カ月未満	留学期間3カ月以上	計	留学期間3カ月未満	留学期間3カ月以上	計
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
能力が向上した	836 (77.6%)	791 (75.8%)	1627 (76.7%)	716 (66.4%)	711 (68.1%)	1427 (67.2%)
変わらない	215 (19.9%)	224 (21.5%)	439 (20.7%)	335 (31.1%)	310 (29.7%)	645 (30.4%)
能力が落ちた	4 (0.4%)	9 (0.9%)	13 (0.6%)	4 (0.4%)	1 (0.1%)	5 (0.2%)
N/A	23 (2.1%)	20 (1.9%)	43 (2.0%)	23 (2.1%)	22 (2.1%)	45 (2.1%)
計	1078 (100.0%)	1044 (100.0%)	2122 (100.0%)	1078 (100.0%)	1044 (100.0%)	2122 (100.0%)

〔今回の日本体験により、あなたの能力は向上しましたか。または、向上すると思いますか〕 項目 9～15

	9. 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる					10. チームで仕事をすると、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
能力が向上した	852	(79.0%)	784	(75.1%)	1636	(77.1%)	851	(78.9%)	760	(72.8%)	1611	(75.9%)
変わらない	193	(17.9%)	236	(22.6%)	429	(20.2%)	199	(18.5%)	256	(24.5%)	455	(21.4%)
能力が落ちた	10	(0.9%)	3	(0.3%)	13	(0.6%)	4	(0.4%)	4	(0.4%)	8	(0.4%)
N/A	23	(2.1%)	21	(2.0%)	44	(2.1%)	24	(2.2%)	24	(2.3%)	48	(2.3%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

	11. その場のルールや手続きに従って自らの行動や発言を適切にすることができる					12. ストレス状況におかれても、自分の成長機会だとポジティブにとらえ、前向きに対処することができる						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
能力が向上した	841	(78.0%)	775	(74.2%)	1616	(76.2%)	795	(73.7%)	757	(72.5%)	1552	(73.1%)
変わらない	211	(19.6%)	240	(23.0%)	451	(21.3%)	257	(23.8%)	253	(24.2%)	510	(24.0%)
能力が落ちた	4	(0.4%)	7	(0.7%)	11	(0.5%)	3	(0.3%)	13	(1.2%)	16	(0.8%)
N/A	22	(2.0%)	22	(2.1%)	44	(2.1%)	23	(2.1%)	21	(2.0%)	44	(2.1%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

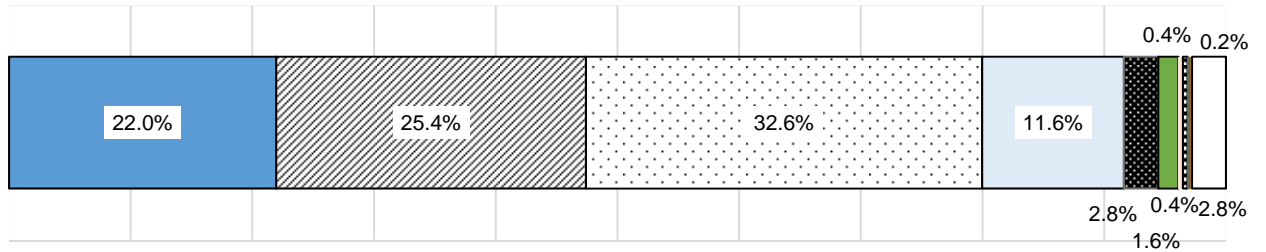
	13. 日本人や他国の留学生との協働作業においても、その意思決定作業に参加し、自分の役割を果たすことができる					14. 日本人や他国の留学生の行動が奇妙に思えても、それを良し悪しで判断せず、文化的な差異ではないかと疑ってみることができる						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
能力が向上した	893	(82.8%)	835	(80.0%)	1728	(81.4%)	868	(80.5%)	828	(79.3%)	1696	(79.9%)
変わらない	157	(14.6%)	183	(17.5%)	340	(16.0%)	186	(17.3%)	177	(17.0%)	363	(17.1%)
能力が落ちた	7	(0.6%)	3	(0.3%)	10	(0.5%)	2	(0.2%)	15	(1.4%)	17	(0.8%)
N/A	21	(1.9%)	23	(2.2%)	44	(2.1%)	22	(2.0%)	24	(2.3%)	46	(2.2%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

	15. 不十分な語学力であっても、なんとか意味を伝えようと積極的に発信することができる					
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
能力が向上した	896	(83.1%)	862	(82.6%)	1758	(82.8%)
変わらない	156	(14.5%)	150	(14.4%)	306	(14.4%)
能力が落ちた	4	(0.4%)	7	(0.7%)	11	(0.5%)
N/A	22	(2.0%)	25	(2.4%)	47	(2.2%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

【問6】あなたは今回の日本留学プログラムに参加した目的について、どの程度達成（満足）できたと思いますか。

10点満点で評価してください。

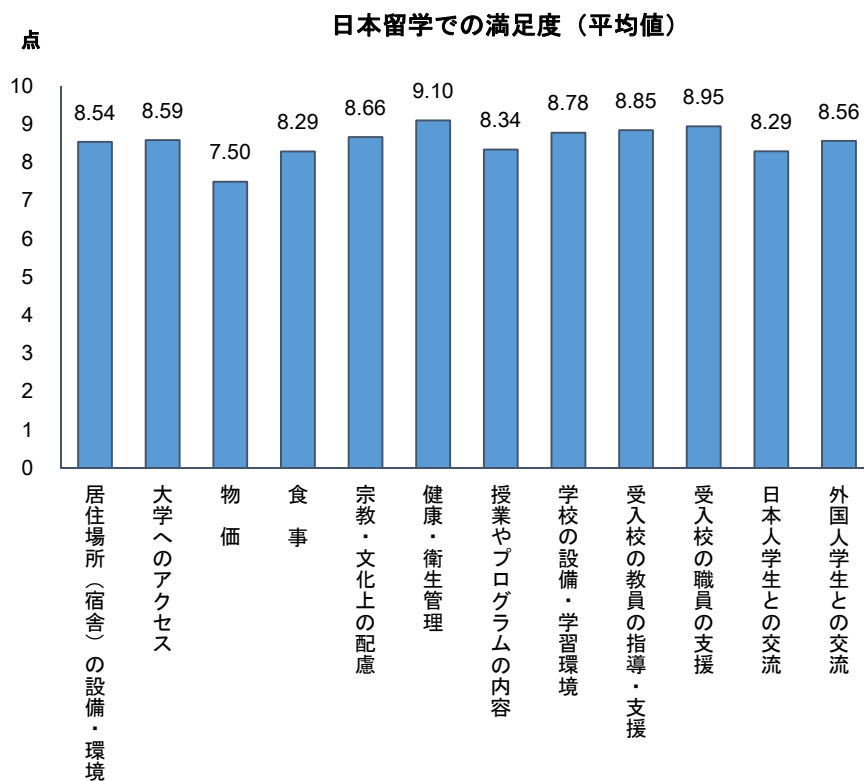
留学目的の達成度（満足度） [10点満点]



満足度 (点)	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
10	278	(25.8%)	188	(18.0%)	466	(22.0%)
9	283	(26.3%)	257	(24.6%)	540	(25.4%)
8	335	(31.1%)	356	(34.1%)	691	(32.6%)
7	106	(9.8%)	141	(13.5%)	247	(11.6%)
6	25	(2.3%)	35	(3.4%)	60	(2.8%)
5	16	(1.5%)	19	(1.8%)	35	(1.6%)
4	1	(0.1%)	7	(0.7%)	8	(0.4%)
3	2	(0.2%)	6	(0.6%)	8	(0.4%)
2	1	(0.1%)	4	(0.4%)	5	(0.2%)
1	2	(0.2%)	1	(0.1%)	3	(0.1%)
N/A	29	(2.7%)	30	(2.9%)	59	(2.8%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)
平均	8.57		8.27		8.43	

【問7】 日本で留学プログラムに参加された経験や印象についてお答えください

【問7-1】 下記の1から12までの各項目における日本留学での満足度を10（非常に満足）から1（非常に不満）までの数値で評価し、当てはまる数字に○を付けてください。



満足度 (点)	居住場所(宿舎)の設備・環境				大学へのアクセス							
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計			
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)				
10	491	(45.5%)	286	(27.4%)	777	(36.6%)	462	(42.9%)	363	(34.8%)	825	(38.9%)
9	239	(22.2%)	231	(22.1%)	470	(22.1%)	229	(21.2%)	215	(20.6%)	444	(20.9%)
8	205	(19.0%)	245	(23.5%)	450	(21.2%)	213	(19.8%)	201	(19.3%)	414	(19.5%)
7	72	(6.7%)	134	(12.8%)	206	(9.7%)	105	(9.7%)	123	(11.8%)	228	(10.7%)
6	33	(3.1%)	53	(5.1%)	86	(4.1%)	28	(2.6%)	48	(4.6%)	76	(3.6%)
5	21	(1.9%)	41	(3.9%)	62	(2.9%)	26	(2.4%)	45	(4.3%)	71	(3.3%)
4	6	(0.6%)	16	(1.5%)	22	(1.0%)	4	(0.4%)	19	(1.8%)	23	(1.1%)
3	5	(0.5%)	16	(1.5%)	21	(1.0%)	4	(0.4%)	16	(1.5%)	20	(0.9%)
2	2	(0.2%)	7	(0.7%)	9	(0.4%)	1	(0.1%)	5	(0.5%)	6	(0.3%)
1	2	(0.2%)	9	(0.9%)	11	(0.5%)	3	(0.3%)	2	(0.2%)	5	(0.2%)
N/A	2	(0.2%)	6	(0.6%)	8	(0.4%)	3	(0.3%)	7	(0.7%)	10	(0.5%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)
平均	8.88		8.18		8.54	8.79		8.37		8.59		

満足度 (点)	物 価					食 事						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)		人	(%)	人	(%)		人	(%)
10	176	(16.3%)	151	(14.5%)	327	(15.4%)	372	(34.5%)	220	(21.1%)	592	(27.9%)
9	155	(14.4%)	129	(12.4%)	284	(13.4%)	244	(22.6%)	224	(21.5%)	468	(22.1%)
8	263	(24.4%)	256	(24.5%)	519	(24.5%)	237	(22.0%)	274	(26.2%)	511	(24.1%)
7	230	(21.3%)	212	(20.3%)	442	(20.8%)	103	(9.6%)	169	(16.2%)	272	(12.8%)
6	109	(10.1%)	134	(12.8%)	243	(11.5%)	62	(5.8%)	83	(8.0%)	145	(6.8%)
5	100	(9.3%)	92	(8.8%)	192	(9.0%)	33	(3.1%)	45	(4.3%)	78	(3.7%)
4	24	(2.2%)	32	(3.1%)	56	(2.6%)	14	(1.3%)	8	(0.8%)	22	(1.0%)
3	10	(0.9%)	21	(2.0%)	31	(1.5%)	6	(0.6%)	9	(0.9%)	15	(0.7%)
2	4	(0.4%)	8	(0.8%)	12	(0.6%)	1	(0.1%)	5	(0.5%)	6	(0.3%)
1	2	(0.2%)	5	(0.5%)	7	(0.3%)	2	(0.2%)	3	(0.3%)	5	(0.2%)
N/A	5	(0.5%)	4	(0.4%)	9	(0.4%)	4	(0.4%)	4	(0.4%)	8	(0.4%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)
平均	7.60		7.38		7.50	8.52		8.06		8.29		

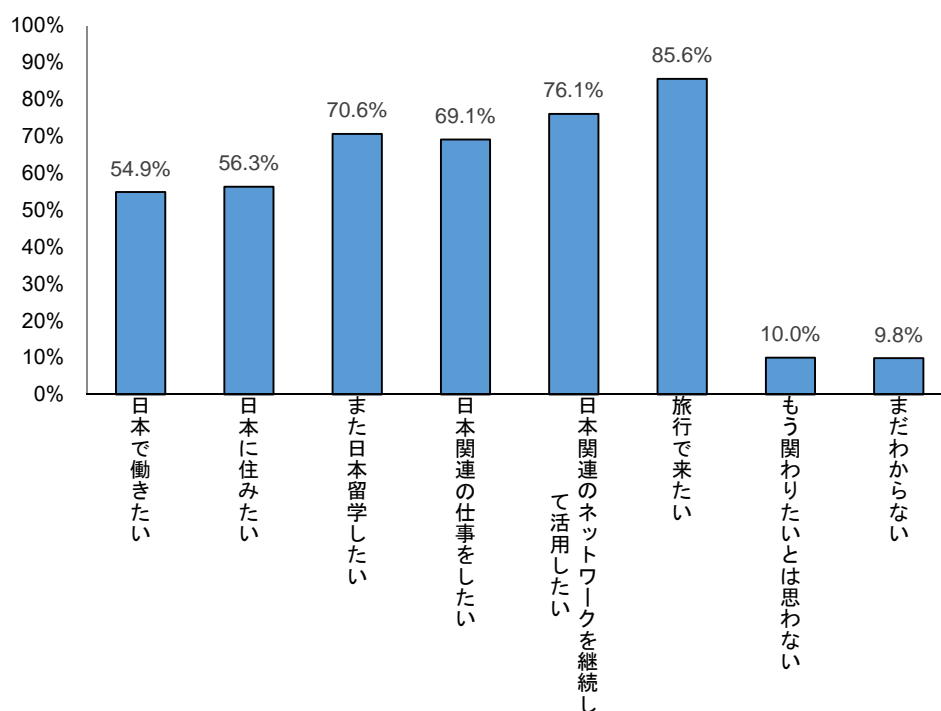
満足度 (点)	宗教・文化上の配慮					健康・衛生管理						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)		人	(%)	人	(%)		人	(%)
10	472	(43.8%)	333	(31.9%)	805	(37.9%)	636	(59.0%)	463	(44.3%)	1099	(51.8%)
9	248	(23.0%)	244	(23.4%)	492	(23.2%)	232	(21.5%)	290	(27.8%)	522	(24.6%)
8	218	(20.2%)	238	(22.8%)	456	(21.5%)	136	(12.6%)	163	(15.6%)	299	(14.1%)
7	78	(7.2%)	118	(11.3%)	196	(9.2%)	46	(4.3%)	59	(5.7%)	105	(4.9%)
6	18	(1.7%)	51	(4.9%)	69	(3.3%)	10	(0.9%)	29	(2.8%)	39	(1.8%)
5	29	(2.7%)	32	(3.1%)	61	(2.9%)	6	(0.6%)	14	(1.3%)	20	(0.9%)
4	4	(0.4%)	11	(1.1%)	15	(0.7%)	4	(0.4%)	9	(0.9%)	13	(0.6%)
3	3	(0.3%)	6	(0.6%)	9	(0.4%)	3	(0.3%)	6	(0.6%)	9	(0.4%)
2	1	(0.1%)	5	(0.5%)	6	(0.3%)	0	(0.0%)	6	(0.6%)	6	(0.3%)
1	3	(0.3%)	3	(0.3%)	6	(0.3%)	1	(0.1%)	1	(0.1%)	2	(0.1%)
N/A	4	(0.4%)	3	(0.3%)	7	(0.3%)	4	(0.4%)	4	(0.4%)	8	(0.4%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)
平均	8.87		8.45		8.66	9.29		8.91		9.10		

満足度 (点)	授業やプログラムの内容					学校の設備・学習環境						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)		人	(%)	人	(%)		人	(%)
10	357	(33.1%)	210	(20.1%)	567	(26.7%)	475	(44.1%)	316	(30.3%)	791	(37.3%)
9	289	(26.8%)	252	(24.1%)	541	(25.5%)	299	(27.7%)	287	(27.5%)	586	(27.6%)
8	260	(24.1%)	277	(26.5%)	537	(25.3%)	208	(19.3%)	257	(24.6%)	465	(21.9%)
7	105	(9.7%)	144	(13.8%)	249	(11.7%)	59	(5.5%)	102	(9.8%)	161	(7.6%)
6	29	(2.7%)	72	(6.9%)	101	(4.8%)	10	(0.9%)	36	(3.4%)	46	(2.2%)
5	15	(1.4%)	33	(3.2%)	48	(2.3%)	14	(1.3%)	21	(2.0%)	35	(1.6%)
4	3	(0.3%)	25	(2.4%)	28	(1.3%)	2	(0.2%)	14	(1.3%)	16	(0.8%)
3	7	(0.6%)	13	(1.2%)	20	(0.9%)	3	(0.3%)	6	(0.6%)	9	(0.4%)
2	3	(0.3%)	10	(1.0%)	13	(0.6%)	2	(0.2%)	2	(0.2%)	4	(0.2%)
1	5	(0.5%)	6	(0.6%)	11	(0.5%)	2	(0.2%)	1	(0.1%)	3	(0.1%)
N/A	5	(0.5%)	2	(0.2%)	7	(0.3%)	4	(0.4%)	2	(0.2%)	6	(0.3%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)
平均	8.65		8.02		8.34	9.29		8.91		8.78		

満足度 (点)	受入校の教員の指導・支援					受入校の職員の支援						
	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計		
	人	(%)	人	(%)		人	(%)	人	(%)		人	(%)
10	540	(50.1%)	390	(37.4%)	930	(43.8%)	537	(49.8%)	437	(41.9%)	974	(45.9%)
9	279	(25.9%)	244	(23.4%)	523	(24.6%)	284	(26.3%)	246	(23.6%)	530	(25.0%)
8	165	(15.3%)	195	(18.7%)	360	(17.0%)	157	(14.6%)	200	(19.2%)	357	(16.8%)
7	54	(5.0%)	112	(10.7%)	166	(7.8%)	63	(5.8%)	86	(8.2%)	149	(7.0%)
6	14	(1.3%)	44	(4.2%)	58	(2.7%)	12	(1.1%)	32	(3.1%)	44	(2.1%)
5	9	(0.8%)	25	(2.4%)	34	(1.6%)	13	(1.2%)	23	(2.2%)	36	(1.7%)
4	5	(0.5%)	14	(1.3%)	19	(0.9%)	1	(0.1%)	5	(0.5%)	6	(0.3%)
3	3	(0.3%)	9	(0.9%)	12	(0.6%)	5	(0.5%)	8	(0.8%)	13	(0.6%)
2	1	(0.1%)	3	(0.3%)	4	(0.2%)	0	(0.0%)	2	(0.2%)	2	(0.1%)
1	3	(0.3%)	3	(0.3%)	6	(0.3%)	2	(0.2%)	2	(0.2%)	4	(0.2%)
N/A	5	(0.5%)	4	(0.4%)	9	(0.4%)	4	(0.4%)	3	(0.3%)	7	(0.3%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)
平均	9.11		8.58		8.85	9.11		8.78		8.95		

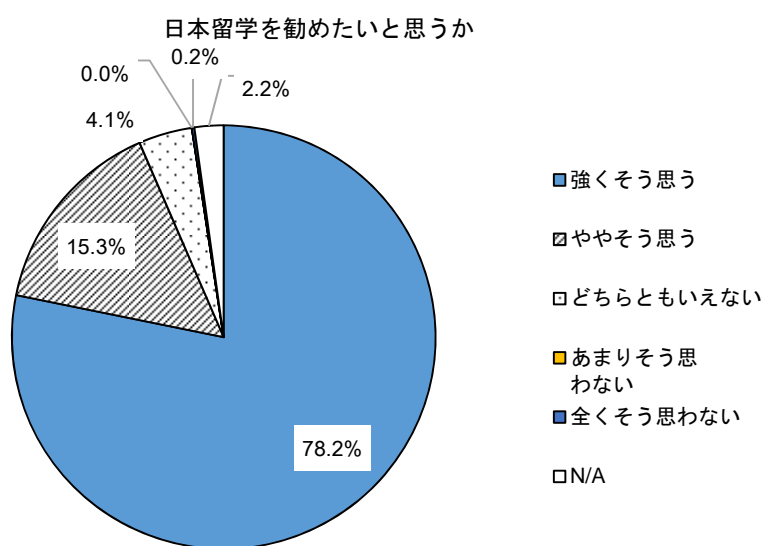
満足度 (点)	日本人学生との交流			外国人学生との交流								
	留学期間3カ月未満		計	留学期間3カ月未満		計						
	人	(%)		人	(%)		人	(%)				
10	477	(44.2%)	236	(22.6%)	713	(33.6%)	376	(34.9%)	380	(36.4%)	756	(35.6%)
9	236	(21.9%)	196	(18.8%)	432	(20.4%)	246	(22.8%)	283	(27.1%)	529	(24.9%)
8	193	(17.9%)	187	(17.9%)	380	(17.9%)	220	(20.4%)	215	(20.6%)	435	(20.5%)
7	88	(8.2%)	182	(17.4%)	270	(12.7%)	100	(9.3%)	95	(9.1%)	195	(9.2%)
6	42	(3.9%)	108	(10.3%)	150	(7.1%)	51	(4.7%)	25	(2.4%)	76	(3.6%)
5	23	(2.1%)	61	(5.8%)	84	(4.0%)	28	(2.6%)	21	(2.0%)	49	(2.3%)
4	6	(0.6%)	32	(3.1%)	38	(1.8%)	9	(0.8%)	9	(0.9%)	18	(0.8%)
3	4	(0.4%)	23	(2.2%)	27	(1.3%)	5	(0.5%)	8	(0.8%)	13	(0.6%)
2	1	(0.1%)	11	(1.1%)	12	(0.6%)	4	(0.4%)	3	(0.3%)	7	(0.3%)
1	5	(0.5%)	4	(0.4%)	9	(0.4%)	24	(2.2%)	2	(0.2%)	26	(1.2%)
N/A	3	(0.3%)	4	(0.4%)	7	(0.3%)	15	(1.4%)	3	(0.3%)	18	(0.8%)
計	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)
平均	8.80		7.76		8.29	8.43		8.70		8.56		

【問7-2】 将来日本とどのように関わりたいと思いますか（複数回答可）



将来日本とどう関わりたいか	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
日本で働きたい	604	(56.0%)	561	(53.7%)	1165	(54.9%)
日本に住みたい	602	(55.8%)	593	(56.8%)	1195	(56.3%)
また日本留学したい	815	(75.6%)	684	(65.5%)	1499	(70.6%)
日本関連の仕事をしたい	712	(66.0%)	755	(72.3%)	1467	(69.1%)
日本関連のネットワークを継続して活用したい	798	(74.0%)	816	(78.2%)	1614	(76.1%)
旅行で来たい	939	(87.1%)	877	(84.0%)	1816	(85.6%)
もう関わりたいとは思わない	116	(10.8%)	96	(9.2%)	212	(10.0%)
まだわからない	103	(9.6%)	106	(10.2%)	209	(9.8%)
回答者数	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

【問7-3】 同級生、後輩等に日本留学を勧めたいと思いますか。



日本留学を勧めたいか	留学期間3カ月未満		留学期間3カ月以上		計	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
強くそう思う	855	(79.3%)	804	(77.0%)	1659	(78.2%)
ややそう思う	170	(15.8%)	155	(14.8%)	325	(15.3%)
どちらともいえない	41	(3.8%)	46	(4.4%)	87	(4.1%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
全くそう思わない	1	(0.1%)	3	(0.3%)	4	(0.2%)
N/A	11	(1.0%)	36	(3.4%)	47	(2.2%)
回答者数	1078	(100.0%)	1044	(100.0%)	2122	(100.0%)

短期受入留学生データの変数間の関係の分析

I 短期受入留学生データの数量化Ⅲ類による分析

短期受入留学生追加アンケートの質問項目のうち、回答者の属性に関する質問項目、留学の受入条件に関する質問項目、留学満足度（達成度）、および成績向上度に関する質問項目、これら各質問項目に対する回答の背後に、共通の要因が存在するかどうかを検討するために、数量化Ⅲ類（カテゴリーカル・データの主成分分析）を用いて、留学経験者のデータを対象とする分析を行った。対象とした変数（質問項目）は 22 変数（具体的な変数名については次ページの図を参照されたい）である。SPSS によって分析を行った結果、表 1 に示すように、固有値が 1 以上の値を示した主成分（潜在的共通要因）は 6 つあった。

表 1 数量化Ⅲ類によって抽出された主成分

成分	固有値	寄与率	累積寄与率
1	5.734	24.929	24.929
2	1.868	8.123	33.051
3	1.376	5.984	39.035
4	1.210	5.259	44.294
5	1.108	4.818	49.113
6	1.036	4.502	53.615

この 6 成分のうち、最大固有値を示した第 1 主成分の寄与率は 24.9% である。このことは、第 1 主成分で全変動の約 25% を説明できることを意味する。次に固有値が大きい第 2 主成分の寄与率は 8.1% である。

第 1 主成分と第 2 主成分に対する各変数の因子負荷量（相関係数と同義）をプロットしたのが図 1 である。横軸が第 1 主成分、縦軸が第 2 主成分を表している。第 1 主成分に対しては、+0.5 から +0.7 の範囲に多くの変数が集中していることがわかる。この領域に集中しているのはいずれも留学中の体験にかかわる評価項目である。このことは、回答者たちが、留学中の体験にかかわるどの項目に対しても（高い評価をしたか、低い評価をしたかにかかわらず）同水準の評価をしたことを示唆する。換言すれば、この領域の特定の項目に高い評価を下した留学経験者は、同領域のどの項目に対しても高評価を行い、他方、低い評価を下した留学経験者は同領域のどの項目に対しても低評価を下したと推測される。

また、留学満足度が、これら留学中の体験に関わる項目と同じ領域に位置していること

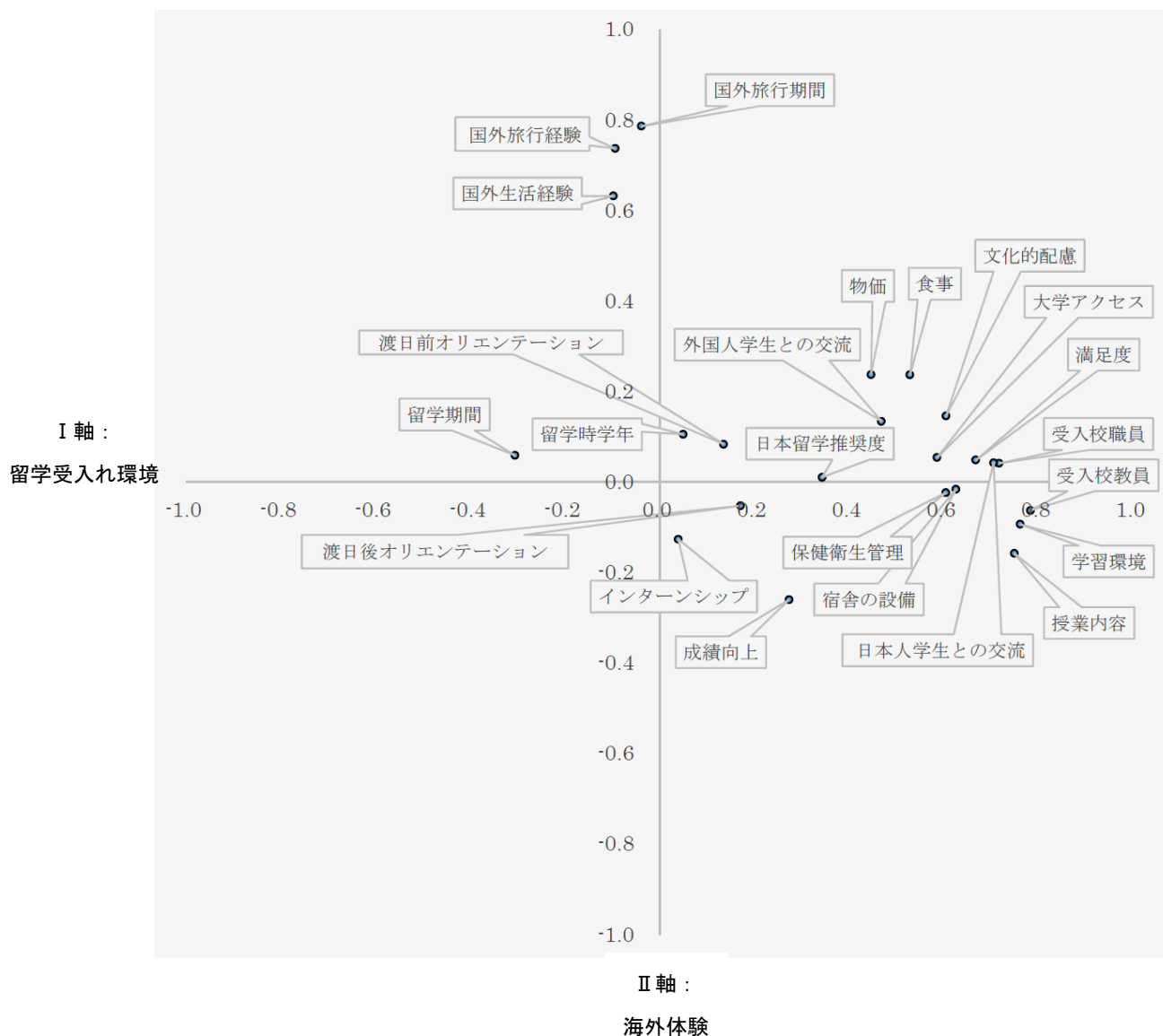
から、留学満足度を左右する要因が留学中の体験であることが想像される。

第 2 主成分に対して相対的に大きな因子負荷量を示したのは国外生活経験、国外旅行経験、国外旅行期間の 3 変数のみであり、このことから、第 2 主成分が国外経験に関するものであることが推察される。

他方、第 3 主成分以下の各成分の寄与率は低く、したがってそれらの成分は変数間の関係についての説明力をほとんど持たないと言わざるをえない。

なお、変数間の相関については、表 2 のスピアマンの順位相関行列を参照されたい。

図 1 短期受入留学生データの数量化Ⅲ類による分析結果



II 留学達成度（満足）に関する因果モデル分析

留学の成果を測る尺度としては、学力の向上、人間関係の構築、世界観の広がり、人格の陶冶などが考えられる。ここでは留学満足度（達成度）を成果指標とみなし、成果指標に影響を及ぼす要因としてどのようなものがあるかを検討する。

具体的には、留学満足度（達成度）を従属変数とし、次表に掲げた 25 変数を独立変数とする、数量化 I 類（カテゴリカル・データを分析するための重回帰モデル）による分析を行った。

表 3 数量化 I 類による分析に採用した独立変数

国立*	渡日後オリエンテーション	大学へのアクセス	受入校教員
私立*	インターンシップ*	物価	受入校職員
文系*	国外生活経験	食事	日本人学生との接触
理系*	国外旅行回数	文化的配慮	外国人学生との接触
学年*	国外旅行期間	健康・衛生	
留学期間	成績向上度	授業内容	
渡日前オリエンテーション	宿舍設備	学習環境	

ステップワイズ法を採用して数量化 I 類による分析を行った結果、12 ステップ目までのモデルが推定された。つまり最大 12 個の独立変数をモデルに加えることが可能である。しかし、第 4 ステップ以降は、独立変数を追加しても説明力は向上しなかった。そこで、次の表 4 に第 3 ステップまでのモデルの推定結果を掲げた。

表 4 留学満足度を従属変数とする数量化 I 類モデル（ステップワイズ法）

モデル	定数と係数				モデルの		
	β	標準誤差	標準化係数	t値	F値	有意確率	自由度修正済み R^2
1 (定数)	5.042	.156		32.403	484.726	0.000	0.258
授業内容	.409	.019	.509	22.016			
2 (定数)	4.377	.164		26.618	309.473	0.000	0.308
授業内容	.302	.021	.376	14.438			
日本人学生	.188	.019	.260	9.987			
3 (定数)	3.632	.198		18.301	226.580	0.000	0.328
授業内容	.280	.021	.349	13.440			
日本人学生	.155	.019	.214	8.071			
文化的配慮	.138	.021	.157	6.507			

この表に示されているように、独立変数として最も説明力の高かったのは「授業内容」であった。留学満足度（達成度）を y 、授業内容を x_1 、自由度修正済み決定係数を R^2 で表

すことにすると、

$$y = 5.042 + 0.509x_1 \quad R^2 = 0.258$$

というモデルが推定された。自由度修正済み決定係数は、モデル内の独立変数が従属変数の変動を何%説明できるかを表す尺度であるから、このモデルによれば留学満足度（達成度）の約 26%を「授業内容」だけで説明できることになる。2 番目に推定されたモデルでは授業内容と「日本人学生との接触」交流が独立変数に含まれるが、このモデルの $R^2 = 0.308$ であり、説明力は 1 番目に推定されたモデルよりも 5%高くなった。さらに 3 番目のモデルとして上記の 2 つの独立変数にもう 1 つの独立変数「文化的配慮」を加えたモデルは、 $R^2 = 0.328$ であり、独立変数を 1 つ追加しても説明力はわずか 2%しか向上しなかった。

留学満足度を従属変数とする、数量化 I 類による分析結果を総括すると、留学満足度に影響を及ぼす要因として「授業内容」が重要であると判断できる。